231

特 219
463

霊肉絶對健康を基礎に

昭和維新の建設

始

特219
463

昭和維新の建設

靈肉絶對健康を基礎に

昭和一四・六・廿六
帝國圖書

はしがき

明治維新以來我國民が長き傳統的鎖國主義の蒙を破り、國力の發展を企圖して斷行したその向上躍進に對する努力は、我が國民性の特有たる鋭敏な摸倣移殖となり、僅々數十年の間に科學的理論と實際との結合によつて目覺しき進歩を促し、社會萬般に亘つてその整然とした秩序の根底を與へ、これを完全に文化的に消化し日本化して、近世史上に燦然たる光輝を放つ現代文化の大事業を見事に完成したのであつた。

所が大正三年に突發した歐洲大戰亂は、十九世紀物質文明の破綻を暴露して、未曾有の政治的、經濟的、社會的混亂に遭遇したに拘らず、幸ひ我國はこの圈内を脱して、國際政治的經濟的地位を世界第一流に高め、獨力を以て東洋民族間に於ける秩序の維持と福祉の增進とに貢獻し、常に世界の平和を擁護したその赫々たる功績は、世界各國民族の驚異の眼をもつて讃嘆するところとなつた文化躍進の實績は、我が民族の優越せる智力の勝利であり誇りである。所が一たび實演せられた歐洲大戰亂の一大慘劇によつて、文明の進展は茲に阻止せられ、曾ては文明人の誇りとした有ゆる組織も制度も破

壊されて、反つて物質文明のために弱肉強食の野獣的爭鬪的精神の跋扈時代を出現せんとする混亂不安の行詰り狀態を呈するに至つたのである。

玆に於て我國民はこの歐米に於ける混亂不安の飛沫に魅けして、溫古知新、我國固有の建國以來涵養し來れる傳統實踐的精神文明を檢討認識し、これを基礎に現代文化玉石混淆輸入の過去を三省しこれを取捨選擇して、現在の我國に於ける多くの短所とその未完成の部分とを洗練して修理固成し、これを將來に於ける文化政策上の信條として現在の難局を打開し、以て國家を泰山の安きに置かねばならぬ。

此小冊子の使命は、この醜惡不安な現代社會改造の指導原理として、國民生活の根幹を絶對强健にする昭和維新樹立の愛國運動として、私の信ずる片影の告白であつて固より具體的にものしたのではない。唯だ一念我が國家の安泰を希ふの餘りこの現狀を默視するに忍びず自己の思想の未熟なるを顧みず、衷心思ひを馳せて筆を採つたもので、文章の拙劣言句の錯誤は御寛恕願ひたい。

昭和十一年二月十六日

著者識

目次

一、人間と科學との主客轉倒……一八
今日の自然科學——不安焦慮——鹿を追ふ獵師——親子情死——社會の廢物——打算的自己本位——警語——同

二、幸福は使命遂行の滓……二〇
功利主義——餘程の履き違へ——專心勇躍——神儒佛を基礎——美淳風俗——警語——同

三、偏重された理論の弊害……二三
現代社會——打算的不精者——我日本——涵養蓄積——苦心と努力——人間の祖先が猿——社會構成の根底——尺貫法の存置——握手や妥協——使命日々報——正義建設——回顧覺醒——大乘醫術

四、國際情勢の危機と國家の實力……二六
我が國民——貪慾不正義と策謀——降魔の劍——非常に重要——道理と常識——臥薪嘗膽——猛訓練が晝夜兼行——武備の充實——警語——靈

肉兩全の戒嚴令——警語

五、日本精神に生きる特權……二九
昔から百度戰——泥棒や强盜——非常時解消——軍艦や飛行機——精神と肉體——剛毅果斷誠實勇氣——警語——同——活動と休養——警語

六、蹇の歩行論とその盲信者……三一
大和魂の實力——蹇の歩行論——現在の我國——氷炭相容——警語——砂上樓閣——警語——智識の餓鬼——警語——永遠不磨の眞理

七、反逆の子女に泣く親……三三
吾々の子供時代——親の虚榮心——神經過敏の教育——責任の轉嫁——警語——子女教養——警語——不德不攝生

八、丁稚の鍛錬と自己完成……三五
去る大正二年春——反駁論——奢侈に流る——金槌で頭を毆る——動搖なき基礎——警語——自由に濶步——警語——主客轉倒

九、反抗思想の横溢と現代社會……三六
道義の中に潜入——會社の重役——我子の暴君——搾取階級——僻みから出た反感——警語——同——同——傲慢なる貧踐弱者——警語

一〇、理屈と己惚れの現代社會……三八
帝國議會——妻が夫に離緣狀——放逸と墮落——文化の逆轉——警語——有毒瓦斯——警語——道理に依らしむ——警語——專門の專門

一一、自覺の叡智と己惚れの邪智……四〇
權利の主張——打算的才能の發達——加擔と同情——叡智の啓發——自覺と己惚れの圖表——警語——國家社會の呪詛——困窮悉く感謝——警語——投機的僥倖の夢想

一二、人類を指導啓發する權威者……四三
愚を醫する靈藥——思想は深刻に惡化——我國の現狀——獨逸のヒットラー——世界人類の指導啓發——警語——崇高意識の潜在——金剛不壞の大和魂——警語——眼前の僥倖——躊躇逡巡——恐怖觀念

一三、三種の神器と吾人の叡智……四五
神儒佛と武士道の思想——八咫の鏡——是非善惡の姿

一四、觀音の顏と修養の極致……四六
八坂瓊の勾玉——柔和圓滿な顏相——惡人は惡相——上醫は色を診る

一五、向上と墮落の分岐點……四八
昔の上流社會——生殺與奪の特權——大和魂に蘇る——氣血も循環
一六、理論の千萬人より實地の百人……四九
叢雲の劍——明治天皇——百折不撓の意志——博識多才の千萬人——小學校の小使——總理大臣——對症療法の迷夢——警語——同——我が建國の精神——警語——水平線の單位——警語
一七、社會の修理と衣食住の更生……五二
この大和魂の更生——昭和維新の復興——社會改善の第一歩——警語——病弱貧苦の暗獄に沈倫——警語——高き意義——警語——同——同
一八、斷片的理論と淳風美俗の破壞……五四
私の玆數十年——學問の分科——日本精神で處理——醜惡な西洋化——靈肉絶對健康の更生——警語——同——同——起訴猶豫——警語
一九、社會の改造と指導原理の提唱……五六
病的狀態の社會——分科的成案——靈肉絶對健康に溢れた意氣——警語——同——百億圓の債務國

二〇、たゞこの一途あるのみ……五九
理想社會建設の定義——國家興隆の基礎——蕭條落漠暗澹——近時の我國民の健康——迷妄狂奔——國家萬般の施設——崩壞途上に徨ふ
二一、聖德太子の御偉業復興……六二
昭和維新の基礎——大言壯語——黴菌に去勢——警語——同——科學の常道——警語
二二、黴菌の飲める健康體……六四
枕を高く安心——所謂科學の型——獨逸のコッホ——塵埃や屑物——巧妙な抗菌抗毒——警語——軌道を脱線——警語——黴菌毒素の襲擊
二三、流行病の脅威と現代醫學……六六
國家の中堅——呼吸器病位——纖弱な子供の溫室育ち——陶醉振り——祖先に對する禮——警語——不具的生活——警語——全身全靈を打込み
二四、朝生暮改の榮養と藥餌……六八
異論百出——献立法——アイヌや南洋土人——原始的野蠻食法——健康長壽食——警語——同——胃腸を財囊の中に入る——警語——細胞機能

を極度に充實
二五、端午節句と武道の練磨……七一
菖蒲刀——心氣力の充實——天神地祇も感動——凶暴な國家——近時軍隊——血湧き肉躍る——墮民の覺醒　大元帥陛下——神意代表
二六、科學智識と精神文明の破壊……七三
崇高な存在——精神の飢餓者——非科學的——物質分子の集散離合——淺薄な生命觀——本能的運動——詭論妄說——言論の自由——實證の權威——眩惑の捕虜——靈妙崇高——感覺的實驗——群盲象を評す——警語——同——同
二七、科學者の轉向とその不可思議……七六
所謂明快な物事——矛盾と撞着——社會相に驚く——不可思議——懺悔談の發表——神秘說を絶對排斥——大本獨特——幼稚な信仰盲者——警語——同
二八、信仰を基礎に發奮努力した大和魂……七九
忘れ難い發奮の刺戟——男爵古川市兵衞翁——突然天然痘——三百萬人の信徒——警語——天賦の才能非凡——警語——暗澹たる生涯

二九、精神文明の傳承と大和民族……八一
彼岸に到達——無限偉大な働き——精神文明の傳承——再び惡に陷る——臨床講義——意味の徹底——警語——外界刺戟の衝動
三〇、多大の犧牲と國民の失望……八三
誇大な宣傳——苦い經驗——代診生や看護婦——理論と實際——警語——同——自然癒合の復興力——警語
三一、漢、洋醫學の長短と其利害……八五
使用操作法——名醫の診斷——益々希望を失ふ——期待は悉く裏切る——警語——同——意馬心猿——警語
三二、各種斷片的治療法の割據……八七
悉く斷片的——感傷的で寛容が薄い——人類の救濟——薄志弱行者——警語——同——何等異常なく均霑——警語——病弱な國民
三三、二十五年間の暗黑生活……八八
漢法藥を併用——年中交代で病床——心細さ悲慘さ——警語——天與の壽命を損耗——爾後奮進の一轉機——高壓電氣に觸死——神の抱擁裡

三四、責任の轉嫁と勇氣百倍……九一
醫者の責任——深刻な責任感——一食一菜——實に幼稚な考へ——警語
——同——同——趣味希望
三五、諦めの壽命と感傷的醫學……九三
醫學や衛生の末節——神佛醫者氣候——不滿多く陰欝——警語——悲慘
な實例——獨往邁進
三六、疼痛苦惱と注射服藥の弊害……九四
兩下肢に運動障碍——猛烈な坐骨神經痛——死者の靈前——警語——同
——艱難汝を玉にす
三七、實驗研究と覺の整復……九六
不平の連發——工風改良——遲速深淺廣狹範圍——警語——數發の疾病
——警語——妄想捕虜
三八、天氣豫報の全快と母の持病……九八
相當嚴格——餘程若返る——胃部の鈍痛——適確な天氣豫報——警語——
——人を殺す——警語——同——同——醱酵の中毒

三九、治療機の完成と意外の成績……一〇〇
直腸癌——本機の完成——警語——濁惡の社會——警語——潛在叡智——
——警語
四〇、發明の動機と信仰上の啓示……一〇二
或動機と啓示——無學無能の私——迫害の苦難——警語——運命開拓の
羅針盤——警語——薄志弱行者——警語
四一、奇蹟か暗示か天祐か……一〇三
操作法治療法——天裕か偶然か——二兎を追ふ愚——治療技術を敎ふ——
——警語——綜合の智識なし——警語——我が安產法
四二、死物の伽藍と靈肉救濟の聖舍……一〇五
尨大な伽藍殿堂——宗敎家と檀家——天理敎の敎師——警語——同——
靈肉絕對健康——餘裕精力の蓄積
四三、七萬人の實驗と講習所の開設……一〇七
從來の醫師法——法律の制定——靈肉綜合——警語——同——同——心
身の消耗

四四、優生法治療法健康長命法の完成……一〇九
前人未發の電流——醫學校と改稱昇格——三千名の卒業者——和歌——
警語——小乘的對症療法——實大乘的心身絶對健康——警語——勢力二
割の貯蓄——萬國醫學界に提供
四五、經濟上の破産と自殺の準備……一一三
將來の絶對安全——安逸を貪る——日夜恐菌檢溫に沒頭——警語——陶
醉の化學作用——警語——祖先の意志阻害——警語——同——商道德を
沒却
四六、滑稽狂歌の拔萃……一一五
四七、百方手を盡す迷信の極……一一七
消防手を怨む——藥攻め治療攻め——家庭衞生に無自覺——警語——加
因を認識——警語——同、激毒質に變化——警語
四八、治病保健の眞隨を把握せよ……一一八
治病率の減少——十億圓以上の損害——臆病者——藥で病氣が癒るか——
群集心理——腸自家中毒——精神的飢餓——精神界の得益——年中易

者通ひ——一家團欒裕福——生活の核心を握れ——警語
四九、醫學界の迷信を匡正して患者に對せよ……一一三
原始的荒唐無稽——大衆の附和雷同——技弄に陶醉——自轉車部分品——
逆戻りの奇觀——軟體流動食——醫學界の不祥事——醫學の矛盾撞着
——警語——疾病の粗製濫造
五〇、醫學は國體を基礎に根本改造せよ……一二五
大發明大發見——意外な弊害——杓子定規——專門分科の偏重——世人
を惑はす道具——醫術の大缺陷——徒勞と無力——民間療法排擊論——
仁術の本分——警語——同——肌を擘く——生存の資格
五一、分科的專門智識と常識の優劣……一二八
主婦の常識——不生産的浪費——有害な結果——平凡な病源——圓滿な
識見——學識の深淺廣狹——社會に濶步——健康長壽の要素——警語——
監督顧問
五二、人間の慾望と人造人間……一三一
損害の賠償——生存權の擁護——鯨や鯛の生活——聖哲の心血——蘊蓄
の傾到——根本的國體的——昭和維新建設——警語——猛獸の圍繞

五三、科學に去勢された現代人……一三三
神樣と黴菌の鉢合せ——藻拔けの空——參詣道樂——衞生常識——雲泥差——生兵法——千古を貫く金言——理解力に差——流行的尖端——警語——同——苦難突破

五四、唯物史觀の廢墟と近代生活……一三五
團體の精華——不良少青年——病弱思想の氾濫——頓服藥的刹那の慰安娯樂——ローマや印度——日本民族の優秀性——蒼白な顏色——生命を守る常識——重要な優生法——正義公道嚴守の旗幟——警語——名香薫燒——敬神崇祖信念

五五、教育の根本的改造と大和魂の玉子……一三八
家族の健否——國粹の保存——持久的國力の養成——國民皆兵——粗暴柔惰の弊風——勤勞教育——智識を經驗本位——叡智を道德本位——勇氣を武道本位に練磨——無理な學業の鞭——警語——鑄型を拔かざる銅像——警語

五六、有熱兒童と試驗地獄の對策……一四一
衞生常識の誤謬——生きた實例——西洋醫學の捕虜——仁術を裏切る——劍道及柔道——選ばれた適材——成績の依怙——警語——正宗の銘刀——警語——間斷なく雜草

五七、掃き寄せ寸鐵大和魂……一四五
病者の妄想を叱責——垢根の朝顏——阿彌陀と下駄——敵を知り己を識る——人は自ら暗澹——群盲象を評す——素直に純に——去勢する黴菌毒素——病多きに苦しむ——內助の効を全ふ——金力は地上第一の重寶——言葉の端の間違——世の浪風に揉まる——人車共に破壞潰滅——科學も教育も——個人主義や自己本位——學識は愚を醫する靈藥——一歩一歩躍進向上——道草に耽る——人に頭を毆らる——妻の腰捲洗濯——涙で敵を抱擁——心の硬化——人道を脫する自壞者——眞の大和魂——百二十歲の定命——遊里に人情の兩極

五八、水中で渴を叫ぶ現代人……一四九
醫學產業農業——解體的散亂——祖先崇拜の根本道德——享樂主義の氾濫——醫學が四十%——支離滅裂——神丹靈藥——腹底の大和魂——大和魂中の醫學——大和魂の鍬——隨喜の涙——歐米人の夢想——生活に絕對不離——警語——頭腦の餘裕——警語

五九、野一色電氣醫學校の使命……一五二
時代に適應した新進の學術——優れた電氣治療家の養成——家庭生活根本改造——結婚のお土産——血液淨化更生——出産迄の胎教——杞憂なき安産——右往左往狼狽——百二十歳を四季二十四期劃に分類——禽獸に劣る迷信——自殺に等しき夭折——警語

六〇、親の熱愛と道義的本質の潰滅……一五五
臆病者の夜道——孝道の先要條件——禽獸に劣る魂——眞摯な考慮——地下の濁流に氣付け——科學的建築——一石を投ず——大乘醫術——天の事業——警語

六一、健康の榮養と不完全の榮養……一五八
エネルギーの補給——淨化體溫の換算——國民の大部分——ホルモンの原料——黒住宗忠郷——自ら不品行——人間の鐵面皮——胃腸負擔——胃潰瘍やアトニー症——瘀血と邪氣——適應作用——自殺の準備——淋毒梅毒——中毒の潜在——寄生蟲の侵入

六二、結果のみを追ふ對症的醫術と入浴の力……一六一
抗菌力——消耗と供給——癒合力——中樞一元療法——病氣驅逐——復活鼓舞——增惡觀念の解消——放氣層吸氣層——醫學の最善

六三、新鮮體溫の補給同化と大乘醫術……一六三
微妙な快感——人體の構成——淨化體溫——ホルモンの發動——完全な代償榮養——重病者に應用——風邪に罹らぬ——全身機能充實——一日の遷延——醫學を基礎——寫眞圖說——實大乘心身絶對健康

靈肉絶對健康を基礎とする昭和維新の建設

野一色義壽

一、人間と科學との主客轉倒

今日の自然科學の産物たる物質文明は、歐米諸國から起つて人類の福祉を增進すべく、急激な隔世的發達を遂げたのであつたが、その物質文明が寧ろ彼等歐米人そのものゝ幸福とはならずして、反對に彼等人間がその科學に支配されつゝ、人生も社會もともに破壞せんとする結果となつて行詰つてしまつたのである。即ち歐米に於ける極度の**不安焦慮**の現在がそれであつて、物質文明の危機と云ふ恐るべき結果を招來したのである。所謂先進國に於ける自然科學の産物たる物質文明が、何故そうした逆の結果になつたのであるかと言へば、一言にして盡きるのである。即ち**鹿を追ふ獵師**が山を見なかつたためなのである。これをもつと判り易く例を擧げて言へば、人生の幸福は金にありとした人々が、その手段として高利貸や投機業や或はそれ以上の危險な仕事を企て、一獲千金の夢を見て、朝から晩

まで唯だ金！金！金と金に非常な執着を持ち、自己を本位に他人がそのために雨露に曝されようが、倒れようが、或は一家族が離散しようが、**親子情死**を遂げようが、更にその手段を選ぶことなく、それが少々法律に觸れようが或は合法的に！固より道德なんか見向きもせず、長年に亘つて努力した結果、目的通り金を殘し巨萬の富は作つたが、だん／＼年を取るに從つて心は鬼につぶしのきかぬ**社會の廢物**となり、幸福となるべき筈の倅や娘とはその思想は合致せず、而もこれ等が多く不良となつて目的の金は無駄に消費され、家族には惡性の病人が出來、社會からは擯斥指彈され、家庭は陰鬱で冷たく不和となり、殆んど孤獨狀態のもとに悲慘な死を遂げると云ふ、始めの目的と反對に幸福どころか子孫までも、人生の全部を破壞してしまう人々が、世間に決して少なくないであらう。これ等は**打算的自己本位**な我慾が、自己に最も忠實だと考へて重用した結果、自ら亡んで後に始めて自己を亡ぼす逆臣であつたことに氣が附くのである。

警語　幸福の手段を履き違へて、社會の勝利者たらんと齷齪する人は多く失敗し、その敗者たるを怖れて勵む人は多く世間に成功す。

警語　儉を過して吝嗇無慈悲なる人の一生は、神佛に見放され社會の擯斥を受けて、精神肉體の破産者となるに至る。

因みに此警語は我が雜誌「電氣醫學」の卷頭に月々掲載したものから拔萃して參考とし、一項目毎に挿入したものである。

二、幸福は使命遂行の滓

これなぞは人生の破壞が目的ではない、將來の幸福が目的であつたのであるが、その目的を達するための手段に肝腎の大和魂が這入つてゐなかつたので、折角殘した幸福の手段たる金のために人生の全部を破壞し臺無しにしたのである。即ちこの自己本位**功利主義**が現在社會の罪惡の根源であることを知らねばならぬ。斯うして世の中には金を作つてその金のために支配され、人間本來の使命を一生知らずに死ぬ人が比較的多いのである。固より金錢は吾々の幸福を齎す一部分であるから、貴重なものに間違ひはないが、金は人間が支配し自由に使用すべき奴隷であつて、人間が金の奴隷となつて金に支配さるべきものではない。現代人の多くは此點を**餘程履き違**へてはゐないのであらうか、「時は金なり」と云ふ諺があるが、これを非常に尊い金言でもあるかのやうに考へてゐる人が比較的多くはないであらうか、これは西洋思想の最も忌むべき毒草であり滓である。言ふまでもなく金は資產として最高のものであり幸福の一部であるから、これを粗略にせよともまた蔑視せよとも言ふのではな

いが自己の使命に自覺してそれに**專心勇躍**する吾々大和民族の活動には、金も幸福もその片鱗であり使命遂行の滓である。故に眞面目にその使命に生きる人々の生活は、金を儲けるために無理をしなくても儲かつて來、溜めようとして特に苦しまなくても溜つて來る、これが眞の大和魂を磨いた人々の生活法である。言葉を換へて言へば、日本人は昔から**神儒佛を基礎**とする武士道の意氣で働く習慣があるから金も出來る、幸福はその副產物として求めずして出來るのである。即ち眞の大和魂の行爲は『天理に順つて神佛を信解し、忠孝を本として上長を敬畏し、小弱を導き謙讓以て道に遵ひ、身命を賭して自己の天職に精進す』即ちこれである。日本人は此處に生活の基礎を置いてゐるので、霑ひのある祖先崇拜の行事も**淳風美俗**の家族制度も悉くこれを出發點としてゐたのである。明治年間は摸倣時代であつたのだから、歐米人の眞似をすることも止むを得なかつたのであるが、最早その時期は過ぎたのであるから、吾々は眞の日本人に還つて現代科學をこの大和魂で練り直し、反對に彼等を神の道に導く時期となつたのである、否急がなければ手遲れである。

警語　一般世人の唱ふる機會とは、多く投機的僥倖を待つものゝ如し、思はざるの甚だしきものなり、唯だ時のはづみに乘じて成功せる富貴は、決して永續するものにあらず、これを古今を通じて富貴を繼續せる人々の歷史に見よ、決して一朝一夕の僥倖にあらずして、神佛を對照としたる堅忍

不拔の信念なりしに驚くなるべし。

警語　成功の方法は、必ずしも深く研究するを要せず、唯だ敬神崇祖の觀念を基礎として、その心靈を純潔にし、頭腦と膝を低く、その理想を高くして、以て現在の天職に全力を傾倒すれば充分なり。

三、偏重された理論の弊害

現代社會に於ける科學的物質文明の進化が、前述せる金に執着して人生の使命を履き違へた人々と同樣に、人類の福祉を增進すべく進化した物質文明のために、反對に人間の方が支配されんとしつゝあるのである。即ち科學的物質文明を奴隷として支配し顧使すべき筈の人間が、反對に物質文明の奴隷となりこれに支配されて、人生も社會も破壞せんとしつゝあるのである。換言すれば自然科學はその副產物として物質文明を生み、物質文明はその副產物として避苦享樂に終始しようとする**打算的無精者**を作り、その無精者は多く人としての使命に自覺せずして、無暗に責任を回避し或はこれを他に轉嫁して策謀や爭鬪を好み、僥倖の勝利を夢みて互に滅亡に瀕せんとしてゐるのである。否既に日本人がこの科學の捕虜となつて、歐米人の二の舞を演じつゝあるのである。

我が日本は國家の成立がこれとは全然異つてゐたのであるが、明治以來開國進取の方法が何等の準備もなく歐米の新文化に眩惑されて、或一部の人々は明治以前の民族精神を固守して輸入文化に充分警戒を加へつゝ、また興味に引摺られて不知不識の裡に、或はまた自らこれに心醉して歐米文化を專攻し、これに通曉することを非常な誇りとし、また一般社會もこれを大いに歡迎し重視した時代が相當長期に亘つたのである。このため建國以來三千年**涵養し蓄積**して來た傳統は、その一切を擧げて輸入文化の刺戟のために壓倒されて、風俗習慣はもとより政治、經濟、教育、思想、醫學及び國民の衣食住の全般に亘つて、急激な變革を捲き起し、明治から大正 昭和と時代は刻々と隔世的に變化して、現在に於ける醜惡不安な社會層を造り上げてしまつたのである。

云ふまでもなく現代の文化は統制ある科學的理論とその實證との結合によつて短期間に目覺しき進歩を促し、社會の總てのものに整然とした秩序と整理の途を與へて、產業に工業に軍事に交通に異常な發達を促進し、燦然たる現代文化を築き上げたその當事者の**苦心と努力**に對しては、如何なる人と雖もその恩惠は認むる所であり、またこれに異論のあるべき筈はない。

然るに一面この文化の餘弊として、輸入に隨伴した國民生活樣式のヂャズ的の氾濫と、科學的實證を基礎とせざる偏重された加工的理論の橫溢である。即ち實證の基礎なき推理的理論は、科學的精神

の一面であるとも云へようが、事實に即せざる加工的理論の偏重は、愼重に考慮しないと甚だしく輕浮の場合もあり、またこれが人心に惡影響を及ぼす場合も決して少なしとせぬ。

人間の祖先が猿であると云ふ理論には、吾々は何の興味もまた何等の脅威も感ずるものではないが、智識慾最も盛んにして無邪氣な小學兒童が、この珍らしき偏重された理論に眩惑して、その潛在意識がこの理論の捕虜となつたとき、彼等の將來に於ける國體觀念とその我國特有の淳風美俗たる祖先崇拜の思想に如何なる影響を與へるであらうか。斯うして實證を飛び越へて偏重された幾多の虚氣樓的理論が、或は或程度に實證が伴ふとしても、人心殊に無邪氣な兒童の思想に惡影響を及ぼす理論が、**社會構成の根底**を爲す家庭に於ける三千年來繼承した餘燼の魂に、邪劍を擬してこれを去勢せんとするときに、眠れる民族精神が玆に覺醒してこれに反擊を加へんとする愛國運動の起るのは、寧ろ當然でなくてはならぬ。云ふまでもなく此運動は現代文化に逆行せんとするのでもなく、又これを保守し復活するのでもない。眠つた民族精神を喚起し物質文化の後塵を拜する腑甲斐なき殖民的隋性に鞭ち、現在に於ける未完成の文化を完成して、これを根本信條に我が日本の使命を果すにある。玆に於て心ある人々はこれではならぬと、日本精神の再認識を高揚し、或は國體の明徵、國產品の奬勵、**尺貫法の存置**、政治、教育の改革等を叫んで囂々たる議論を捲き起してゐるのであるが、何れを見て

も名論卓說で實に堂々たるものだが、その悉くが斷片的末梢の議論のみであつて、その根本に觸れたものゝないのは甚だ遺憾である。我國現在に於ける科學を基礎とする物質文明の中に、僅かに日本精神を取り入れて或程度にこれを日本化して見ようと云ふような、一時的な**握手や妥協**でその場を濁そふとする卑屈な考へでは、根本が間違つてゐるのであるから、現在の社會狀態を改善することの出來る筈はない。

使　命

（昭和七年十二月號雜誌『**電氣醫學**』卷頭言）

日々報ぜらるゝ腐敗と暗黑との慘憺たる新聞全面の記事は、精神痲痺、自信缺乏の病魔を背負つて迚る亡國の姿ならずして何ぞや、そは**正義建設**の使命を賦與せる神佛を認識せず、またこれに融合すべき自己潛在意識を喪失して、徒らに物質にのみ狂奔して複雜極まりなき處世に、困憊疲弊せる國民生活破綻の曝露なり。

回顧覺醒せよ！明治二十七八年戰役當時に於ける國民の健康とこれに伴ふ大和魂を!!また三國干涉に遭遇して俄然一致せる全國民の切齒扼腕を!!更に十ヶ年に亘る臥薪嘗膽の苦き試練を經て、遂に同三十七八年戰役に大捷を博し、以て東洋の一隅に正義建設の旗幟を鮮明に樹立せし我等大和民族たることを!!この心的物的に病廢昏迷せる現代社會を救濟するは、我が**大乘醫術**を措いて他には

ない。これによつて靈肉一致、眞の健康道を同胞に分與し、これが更生の基礎を培ひ以て大和魂の湧出を鞭韃するは、吾人協會員並に愛機家諸氏の將來に於ける使命なり。

四、國際情勢の危機と國家の實力

我が國民は玆數年來、千九百三十五六年の危機に就て、非常な關心をもつてその善處に努力して來たのである然しその危機はどこに潜在していつ爆發するか？また如何なる點に最も注意を要するかと云ふことは、各々その意見があるであらうが、いづれの方面から考へて見てもそれは國際情勢にあることに間違ひはあるまい。これを簡單に縮めて述ぶれば、有り餘る資源と開拓を待つ新天地を持つた國家の現狀維持派と、立ち後れた領土狹少資源に乏しき現狀打破を企圖する國家と、飽くことなき貪慾**不正義と策謀**とを廻らす舊勢力と、新勢力との混亂化中に潜在してゐるのであると云へよう、我國民は昔から正義を護持すると云ふことに就ては他に一歩も讓つたことがない。玆に正義の護持を妨害し、平和を攪亂するものがあるとするなれば、何處までも**降魔の劍**を振はなければならぬ。遠くは日清日露の兩役、近くは滿洲、上海事變ともに悉く我國民の正義を護持する實力を、相手國が認識不足であつた爲めに起つた悲劇であつた。若し相手國が我國の實力を識つてゐたなれば、恐らく戰爭には

なつてゐなかつたであらう。これは個人でも國家でも同樣であつて、己をよく識ると共に敵を識ると云ふことが**非常に重要**な事柄であつて、若し己を知らず敵を識らなかつたなれば、それは己惚れが强くなつて常識が薄弱となつたのであるから、他から見ると馬鹿々々しいやうなとんだ悲劇を惹起すのである。即ち個人で陽性の衝突であれば喧嘩口論であり陰性の衝突であれば訴訟や惡口のやうなものである、所謂法廷でその黑白を爭ふなど云ふ事の流行である。これは**道理と常識**とを拔きにして多く己惚れと理屈とで、僥倖を得ようとする所から起るのである。また國家で陽性の衝突であれば戰爭であり陰性の衝突であれば現在問題となつてゐる關稅の障壁や外交上の策謀等である。我國民の中には日本は戰爭をする度毎に向上するのであると、思つてゐる人々があるやうであるが、決してそふではない、非常時毎に向上するのである。即ち**臥薪嘗膽**が眞の實力を造るのであつて、戰爭が實力を造るのではない。戰爭は實力の試驗にもなり、その實力を他に示す機會ではあるが決してよいことではない。戰爭は不正義に對する止むを得ざる實力の發動に外ならないのであつて、昔から「養兵千日一朝にあり」と云はれてゐる通り、實力は日常養つて置かなければまさかの時に役に立つものではない。これは國家も個人も同樣である。この力を養成するには常に血とあぶらの慘む猛練習、**猛訓練が書夜兼行**に繼續してゐるから、いつでも平氣で戰爭が出來、またいつでも勝てるのであつて、決して偶然や

奇蹟のみで勝つのではない。個人でも同様で常にこの猛練習、猛訓練が繼續してゐれば、如何なる非常時にもまた生活戰線にも異常は起らないが、青年學徒にして暇さへあればカフエー、ダンス、活動寫眞とその享樂を追ふて廻るやうな無精なものには、就職難も起らうし落伍者ともなるであらう。

武備を充實せよ國家も個人も、個人の武備は充實せる心身健康に溢れた意氣を云ふのであつて空元氣を云ふのではない。

警語　國際聯盟脱退後に於ける吾人の一擧手一投足を献げ竭すべき國家の非常時は、未だ解消したるに非ず、世界の大勢は今や日本人及び日本商品の入國を、完全に拒絶せんとする超非常時に直面せり、吾人は徒らに理論の末節に囚はれて、兒戯に等しき内爭に狂奔する時に非ず、我等は更に現在の國狀を檢討し、その認識を正しくすると共に、療病保健增進界に於ける名實共に世界一の實蹟を示せる、我が野一色電氣治療機を活用して、その心身に絶對解禁なき**靈肉健康の戒嚴令**を布き、現在の天職の遂行に錨を下して克己勉勵よくこれに善處して、自他の福祉に貢献すると共に、前途に横たはれる千災萬難に對して、不屈不撓の忍耐と勇氣とを如實に涵養し、以て君國の爲めに全能力を献げ竭さゞるべからず。（昭和八年八月號）

警語　一葉散つて天下の秋を知り、衆意迷妄して國家の大患たる所以を識る。（昭和六年七月號）

五、日本精神に生きる特權

昔から百たび戰つて百たび勝つものは善の善なるものではない、戰はずして敵兵を屈するものを善の善なるものと云ふと云つてゐる。これを「拔かぬ太刀の功名」と云ふのである。世の中に凶惡不正義の絶へない限り、武備を充實してこの凶惡不正義を威壓して居なければならず、またこの狀態を眞の平和と云ふのである。現在警察の力が充實してゐるから、**泥棒や强盗**があつても吾々は安眠してゐられるのであつて、泥棒や强盗もそれ程にもなし、そう度々這入るものでもないから、警察力は少なくてもよいと云ふ人があるなれば、それは甚だしい認識不足であると云はねばならぬ。故に我國民は何處までも武道を勵み、如何なる犧牲を拂つても軍備を充實して置かねばならぬ。こゝに於て始めて我が正義は世界を威壓し、世界の暴壓不正義は戰はずして閉塞してしまうであらう、これが眞の非常**時解消**と云ふのであつて、この外に解消はないのである。幸ひ我國の軍隊には獨り健實な大和魂が潜在し、それが常に增進充實して、緩急自在何時でも一致發動して、我が國體を擁護すると共にその威嚴を發揮し得る心强さ賴母しさは眞に日本精神に生きる人々のみの識る特權であらう。國防の充實を彼是非難する人々は眞の平和を知らぬ哀れむべき救ひ難き、亡者であると云はねばならぬ。またこの

武備の充實と云ふことは、**軍艦や飛行機**のやうな外型的な武備だけを云ふのではない、健全な人間の基礎が必要である。若し不幸にして開戰する場合があるとしても、軍人の中から負傷者以外に病人を出すやうなことがあつてはならぬ。これは軍隊の方でも生ぬるい現代醫學のみに頼らずして、最も完全な方法で軍人の健康基礎を培養して置かなくてはならぬ、この絶對健康の培養は軍人だけではない。銃後に於ける老幼婦女子に至るまで、**精神と肉體**との健康が完全に揃つてゐなければならないのである。この完全な武器と靈肉兩全の國民とが揃つて一致してこそ、始めて國防が充實したと云ふことが出來るのである。眞の大和魂と云ふのは、我建國の精神を羅針盤としたこの靈肉健康の溢れた勢力、即ちその實力を云ふのであつて、この力の發動と否とに拘はらない。この勇氣この實力が出來ると博愛、襟度、正義、分別、希望、細心、忍耐、節制、**剛毅、果斷、誠實、勇氣**の男性的要素が完全に具備して來る。殊に克己心も自制心も充實して忍ぶべからざる所まで忍んで、ならぬ勘忍が出來るやうになる。

警語　泰平は吾人の理想なりと雖も、戰を忘れたる程危險なるはなし。

警語　現代に於ける指導者が一般民衆に對して、平和の時代に戰時に處する勇氣を鼓舞し、富力の專制する時代に處しても、黄金以上の力を正しく認識せしめ、以て我國民をして極度の**活動と休養**

とを正しく實踐敢行せしめ、花わらひ鳥うたふの境遇に安住して、常に國家の異變に備ふる要素を培はば、却つて平和の日の長く久しく持續せんこと火を睹るより明かなり。

警語　吾人は戰亂時代に於て最も自重することを要す、若し然らずして戰亂に中毒すれば、人は多く慘暴に流れる怖れあり、また平和に狃れてこれに中毒すれば、多く社會を溫室に化し、國民の**生氣を枯槁**せしめて柔弱となし、諸惡の寄生病者たらしむ。（昭和七年五月號）

六、蹠の歩行論とその盲信者

玆に私の靈肉兩全の健康と云ふのは、徴兵檢査や學校の體幣檢査に行はれる形態的の健康を云ふのでもなく、また現在に特別な故障なく働けると云ふ能動的な健康を言ふのではない。私の言ふ健康とは毎日十時間の活動にも更に疲勞することなく、それでゐて尚ほ二割の潜勢力を貯蓄し得る、不安なき健康と、これに伴ふ日本精神を基本とする將來不安動搖の怖れなき信念との二つが、渾然一致した眞の健康でなくては**大和魂の實力**は發揮し得べくもなく、またこの實力ある人でなくては社會の指導者としての資格はない。或は自分は肉體は少々弱いが大和魂はもつてゐると云ふ人があるかも知れないがそれは多く片輪である。また如何に肉體が頑健でも精神に不安や恐怖觀念の伴ふ抵抗薄弱者では

圓滿完全な大和魂は發揮し得べくもない。よし發動するにしてもそれは影の薄い多く不具の大和魂であり、片輪の大和魂は多く實力のない**聲の歩行論**や**聲者**の音曲論に等しいものであるからである。殊にこの不具の大和魂は現在の社會に充滿して始末に困る程あるのではないかとも思はれる。またその聲になるために日夜努力しつゝある人々も案外多いのではなからうか、若し社會の指導者の中に歩行術を論ずる聲があるとするとそれは大問題であらう。

現在我國に於ける國民生活の不安も、また益々深刻となりつゝある思想上の不安も、茲に何等か思ひ切つた改革を施さなければならぬと云ふ名論卓説は、日々の新聞に雜誌に或は單行本に講演に、國民は今や議論駁説の中毒狀態にあるほど枚擧に遑のない狀態ではあるが、眞にその核心を衝いて直ちに國民が實行し得る一貫した、簡單明瞭な指導原理としての議論の皆無であることは、吾々の甚だ遺憾とする所であると共に、現在我國民の大多數が如何に**氷炭相容れざる**西洋思想に中毒して、その骨髓を深く犯されてゐるかの傍證でもある。今その一二の實例を擧げて見ることにする。

警語　如何に科學が發達して國民の物質的幸福を增し、絢爛の美を競ふと雖も、病弱なる國民はその思想常に動搖し易く、從つて不動の信念を培ふに由なく、恰も**砂上に樓閣**を築けるが如く、僅少の衝動にも崩壞し易し。

警語　多く學んで正しく修養し、以て安心立命を得るものを上智の人と云ひ、學ばざるも無邪氣に仙骨を帶びて安心立命を得るものを中智の人と云ひ、多く學んで益々惑ふものを**智識の餓鬼**と云ふ。

警語　無軌道の理論に拘泥せず、神佛を信解してその指導に始終せよ、これ**永遠不磨の眞理**にして、此處に人生に於ける一切の矛盾は完全に解決せらる。

七、反逆の子女に泣く親

吾々の子供時代には親の慈愛で養育もされ、また教育もされて來たのであつた。而してその教育の根本も忠孝にあつたやうに思ふ。即ち君の恩は山よりも高く、親の恩は海よりも深しと教へられ、また神佛は朝夕禮拜すべき尊きもの、先生は尊敬すべきもの、先生には服從すべきものと教へられ、吾々はこれを金科玉條として確く信じて來たものである。然るに近時の子供は兎もすると「自分から生れようと思つて生れたのではない、親が勝手に生んだのだ」と、また「通學も豫習も復習も**親の虚榮心を滿足さすためである**」と、また學校は教育の販賣店であり、教員はその店員であり、生徒はその教育を購買するお客樣である」と、少なくとも斯うした空氣の漂つてゐる傾向のあることは事實である。萬物の靈長であり世界民族を指導する責任ある日本人として、將來の國家を背負つて立つべき

第二第三の國民思想の根底に、この空氣が漂つてゐるのみならず、その五十パーセントが結核菌の玉子を抱いて神經過敏に教育されて行くのである。これが現在國家に於ける内憂の最たるものでなくて何であらう。斯うして近時改善？された兒童本位の成行養育法と教育法との犠牲となつて、操行も品性も節義もなく、感傷的に理性？にのみ發達し、我儘にして己惚れだけは壯者を凌ぐ、薄志弱行の後繼者たる反逆の子女に泣く親はないであらうか、否泣かされてゐないまでもその影響は各家庭にある筈である。これをたゞ教育者及びその當事者のみの責任に轉嫁して、我れ關せず焉と對岸の火災視する人々があるとするなれば、それは餘りに己を識らざるもの、即ち自己認識の缺乏せる人であると云はねばならぬ。

警語　現代人に三大病あり、即ち一には自己現在に於ける衣食住の可否に確固たる自信なく、二には自己及び家族の療病保健並に子女教養上に何等の確信なく、三には將來に偏ふる動ぜざる信念なし。

警語　凡そ疾病の起るは、その發病の時に起るに非ずして、遠く心身内に潜在し、不德不攝生によりて根深く培はれ、油斷の間隙に乘じ外界刺戟の衝動を得て初めて發顯せるのみ、この時に及んで愕然色をなし、百方手を盡して貴重の時日と金錢とを浪費し、遂に迷信に陷るが如きは愚もまた極まりと云ふべし。

八、丁稚の鍛錬と自己完成

去る大正二年春であつたと思ふ、大阪中の島公園で小店員大會が開かれたことがある。その要旨は「丁稚解放、我等に休養を與へよ」と云ふにあつて實に堂々たる議論であつた。その數日後にたしか大丸呉服店の支配人君が、各商店に於ける丁稚制度は店主が搾取するだけではない、一方には店主もそれによつて利益し、また一方には丁稚そのものゝ人格教育にあると云ふ反駁論を、大阪毎日新聞か朝日新聞かへ掲載したものである。所がその翌日からこの支配人君の議論を反擊した議論が、新聞社へ山を爲したと云ふことであつた。それは時代に目醒めた所謂時代に目醒めない結果はどうであらう。見る必要なきものを見、聞く要なきことして休養を與へた結果はどうであらう。見る必要なきものを見、聞く要なきことを聞き、行く必要なき所へ行きて休養二日間の小費が、一ヶ月の給料を棒に振つて不足するものさへある。また衣服やその附屬品は奢侈に流れて來た。將來の家庭生活に不要のものを覺へて、拭ふべからざる汚點を印したものさへ決して少なくはない。昔の丁稚は十二三歳から二十歳頃までには、少なくとも數百圓を貯蓄して、故郷に錦を飾つて徴兵檢査を受け、入營と否とに拘はらず再び店に歸つて二十七八歳頃までには數千圓の貯金と、店主からの退職手當とをもつて、暖簾を分けると云ふ店主應

援のもとに、獨立の商店或は工場を開業したものである。斯うして工場の徒弟は**金槌で頭を**毆られつゝ、商店の丁稚は店の用件はもとより豆腐買ひ、水汲み拭き掃除から店主番頭の按摩に至るまで早朝から夜半まで、近代青年の言ふ人權蹂躙？を繰返しつゝ、血の涙を絞つて反抗したのではない、汗とあぶらの鍛錬で自己を完成したのである。即ちその人格を作り上げたのであつた。現在全國を通じて大商店、大工場の殆んど大部分は、斯うした鍛錬のもとに自己の人格を完成して、茲にその**動搖なき基礎**を置いて始めて堅實に成功してゐるのである。

警語　禽獸の本能は解放されたる我儘なり、彼等は弱肉强食**自由に濶歩す**、然れども彼等は決して自然律の範圍を脱することなし。

警語　人の自由は我儘の解放にあらず、嚴然たる自然的人道的戒律の下に自由あり、即ち吾人は人格を淨化向上して神佛に同化し、物質文明に行き詰れる現代の、人間と科學との**主客轉倒を修理固成**して、以て治國平天下に改造する縱横無碍の自由即ち是なり。

九、反抗思想の横溢と現代社會

また表面人格者を裝ひて**道義の中に潜入**し、權謀術數を用ひて巧みに世の中を渡る、世間に才子と

うたはれ、遣り手と賞められ、策士として重寶がられる人々が、或は一時的名聲を博することがあつても、これが會社に及ぼす影響はどうであらう。虎でさへ死して皮を殘すのにこの人々のその末路は果して完全であると云へるであらうか。また高等教育を受けて打算的に責任を回避しつゝ活動するサラリーマンの將來はどうであらう。また店主に對して反抗思想をもちながら活動する店員の將來はどんなものか。どこかの**會社の重役**が近頃の若い連中は中々使ひ悪くなつたとこぼし、工場主は近頃の職工は中々鼻息が荒くなつて、操縱し悪くゝなつたと不平を漏らす。また小學校生徒に對してその親の多くが、近頃の子供は理屈が中々達者になつて、親の言ふことにすぐさま理屈を附けて反駁する、迂濶にものが言へないといつて、**我子の暴君ぶり**を否偉く？なつたと云ふことの自慢をする、眞に親としての資格があるのかと云ひたくなる。子は親に對して反抗思想を持ち、主婦は夫に對して女中は主人に對して、生徒は教師に對して下役は上役に對して、店員は店主に對して門人は師匠に對して、職工は工場主に對して小作人は地主に對して、少青年者は壯老年者に對して貧者は富者に對して反抗思想をもつ、然も富者には**搾取階級**と云ふ名稱を附してゐるがそれも事實である。人を使ふには金もかゝる苦勞も伴ふ或程度は止むを得まい、然しその貧者に搾取階級になることは嫌いかと尋ねると、巨萬の富を擁して大廈高樓に起臥することも、美妓をはべらせて山海の珍味に飽食することも、また

自己の趣味や道樂を滿たし、人にちやほやされることも、まんざら嫌いでもないらしい。そうすると自ら處世上の**僻みから出た反感**もないとは云へない。然し世の中の富豪たる人々の三省を要する所でもある。

警語　富者は表面の慈善を行ひ、貧者は眼前の一錢を爭ふ、前者は名を得んがために利を捨て、後者は利を得んがために名を顧みず、天譴何れにかある。

警語　貧賤弱者を蔑視して、自ら强く高しとする不遜なる人々は永くその健康、富貴を保つこと能はずして、近く自ら傲慢なる貧賤弱者に墮すること火を睹るより明かなり。

警語　人の成功、富貴を妬み、或は呪詛し、または罵詈雜言を加へて、以て自ら快とする**傲慢なる貪賤弱者**は、到底成功富貴に到達するの資格なき、貧して鈍する誠に憐れむべき痴漢なり。

警語　人の貴賤は貧富にあらずしてその道程の手段にあり、濁れる富は假令法律の制裁は免るゝとも、天は決して永くこれを容れるゝものに非ず、道に從つて憂ひなき貧は、決して卑しむべきものに非ず、天はその正しき努力に向つて、必ず幸福の鍵を與へむ。

一〇、理屈と己惚れとの現代社會

斯うして末梢的に起る反抗の問題にも、團體と個人とまたその陽性と陰性との別がある。この反抗思想の陽性的に表面化したものゝ中でも大は**帝國議會**に於ける泥試合から、各學校に起る同盟休校、教師の排斥運動或はその袋叩きの如き、また各會社、工場、商店に起るストライキ、暴力團、喧嘩、口論、毆打、殺傷、或は新聞雜誌等の文書に發表される議論駁說等、小は良家の少年少女の學生が親に反抗して家庭を飛出し、或は現代社會に、または親に反抗落伍して將來ある青年子女の自殺行爲、情死の流行等、或は結婚の解消とか云つて**妻が夫に離緣狀**を叩きつけて飛出す等は、悉く理屈はあらうがこの反抗思想の陽性的表面化したものである。またこれが陰性のものになると頗る惡質のものもあつて、陰に人の弱點や短所を衝いて恐喝したり、或は何等かこれによつて利益を得ようとしたり、または辯護士を介しての訴訟事件から、會社や工場や交通機關によく起るサボタージュの如き、或は人の惡口、怨嗟及びその日常行爲の裡に反抗的內容を藏して實行するもの、また人を**放逸と墮落**とに導く社會運動もあり、美裝を凝らし甘露を揭げて夏の蟲たる青年學徒の飛込むを待つもの等、表面に現はれない惡質のものがどれ程あるであらうか。斯うしてその一部分を擧げて見ても、現代は反抗氣分の橫溢した逆になつた世の中、或は下剋上の現代社會、理屈の世の中とも己惚れの社會とも云へ、至は議論爭鬪で日の暮れんとする**文化の逆轉**した現代社會とも云へるであらう。

警語　實用に供すること能はざる才能は、如何に整然たる理論ありとも、恰も腹中に於ける**有毒瓦**斯と等しく、これを排泄放棄せざれば多様の病源となり反つて自己を滅すに到る。

警語　父母の若し完全な教育、或は善良なる模範をその子女に與ふること能はざる時は、その子女に敬神崇祖の信解とその明かなる眞理とを與へて、自己の日常行爲によることなくその**道理に依らしむる**を得策とす。

警語　道路は歩行し易きを良とす、而もこれを平凡なりとして殊更に細流に分岐して**專門の專門**を作り、常識を以ては解する能はざる、所謂山上に舟を航せんとする理論駁説の多きこと、現代より甚だしきはなし。

一一、自覺の叡智と己惚れの邪智

これを吾々の肉體に於ける器官に喩へて見ると、耳と鼻とが時代に目醒めた結果、腦の命令を沒却して眼球に反抗し自己の**權利を主張**して、椽の下の力持ちである眼鏡を支持する犧牲を排擊して、ストライキを起したと同様の悲喜劇が到る所で演じられてゐる。斯うして時代に目醒めた耳と鼻とは、理性に發達して叡智が退化したのである。即ち自己に直接利益なき負擔を打算的に回避して、氣樂に

獨り生きんと己惚れて太く短かく、否細く短かく他を殺して自殺したのである。換言すれば時代に自覺した筈の耳と鼻とは自覺と己惚れとを履き違へた結果、**打算的の才能が發達**して反對に智能が退化したのである。繰返して言へば理屈が巧くなつて智慧がなくなつたのである。要するに耳と鼻と目との權利義務の爭ひである。これを法律的に解釋したらどう解決がつくだらう。

以上述べた所の反抗的氣運は、否定することの出來ない現在の事實であるが、これを惡事であると云つて當時者を責めることは間違ひであらう、と云つて私はこれを善事として**加擔も同情**もするものではない。それは時代が斯うしたものを生んだのであり、また作つたのであるからである。たゞ茲に明かにして置きたいのは自覺と己惚れの差である。自覺と己惚れとは似て非なるものであり、その差は實に天地霄壤の相違である。山と海と程ちがひ東と西と程の差があり、殿様と乞食程の相違がある。自覺の智慧は叡智であり、己惚れの智識は邪智である。自覺は道理からであり己惚れは理屈からである。道理に從へば**叡智を啓發し**理屈に偏すると邪智を生む。また自覺は大和魂を充實し己惚れは人間の魂を去勢する、これを圖示して見ると斯うなるではあるまいか。(次頁參照)

警語　人の志を立つるその學業と職業との如何を問はず、漸く年齢を經るに從つて、その大多數は素志に反する逆境に沈淪し、失望落膽の極は遂に**國家社會を呪詛**する大罪をさへ企圖するに至る、

その因りて來りし眞因を探究すれば、多くはその氣力を一點に集中し得ざる薄志弱行、精氣缺乏に因らざるはなし、その事に當り難に處して堅忍不拔、邁進突破これと戰ふ勇氣あらば、無智失敗、疾病、落第、困窮等悉く感謝すべき大成の基礎工事にして、何等悲觀煩悶するの要なし。

警語　人の身を立てんと欲せば、宜しく勞苦の渦中に投じて實踐躬行これと奮闘せよ、若し青壯年者にして避苦し或は享樂を望んでこれに執着し、または投機的僥倖を夢想して妄動せば、貧病神の包圍攻撃を受けて社會の廢物と墮し遂に墳墓へ行詰るに至る。

一二、人類を指導啓發せる權威者

愚を醫する靈藥である苦の教育の普及徹底と、人類の福祉を增進すべき苦の文化の發達と、人間から病氣を無くして健康を增進すべき苦の醫學の普及發達と、國民を苦惱や迷信から濟度して、明るい文化生活に誘導すべき苦の宗教等、これ等の何れも現代ほど社會に普及横溢した時代は、恐らく古今東西の歴史にあるまい。これだけ何不足なく總てのものが發達の頂上にあつて、教育が普及徹底すればするほど就職難、生活難を增し、思想は深刻に惡化して不良青少年子女を激增し、文化が發達すればするほど人類に不安や恐怖や不幸や危險を增し、宗教が多くなればなるほど國民の迷信、煩惱を

甚だしくし、求眞に喘へぐ悲慘な民衆が激增した。また法律が殖へれば殖へるほど罪人の數を增し、醫學が最高の發達を遂げて神經衰弱が國內に充滿し、國民の過半數が病人となつて、救ふべからざる所まで行き詰つてしまつたのである。

我國の現狀は斯うして凡ての方面から行き詰りを生じて、實際手も足も出ないことになつてゐる。これにはそれ〴〵幾多の理屈はあらうが、敎育も醫學も宗敎も何の權威があるのかと云ひたくなる。現在我國のこの行き詰りを打開し建て直すには、先づ第一にこゝに至つた眞の原因を衝いてこれを明かにし、而して大英斷をもつてその改革に邁進しなければならぬ。然して我國の現狀を建て直すには、**獨逸のヒツトラー**や伊太利のムッソリーニのやうな、時代の波に乘つた英雄的獨裁では斷じて不可である。それは彼等の國家と我國とはその根本の成立が違ふからである。故に我が社會の建て直しには建國の精神を指導原理として、神儒佛と武士道の精神で固めた動搖の怖れなき靈肉健康に溢れた勢力、即ちこの實力ある大和魂を基礎に現在の社會を完全に修理固成して後、その餘德を提げて**世界人類を指導啓發**するに足る一貫して、更に動搖なき權威でなくてはならないからである。

警語　吾人の腦裡には禍福の上に超然たる**崇高の意識が潛在**す、これ吾人をして禽獸に伍せしめずして、進んで地上の有ゆる大事に參與せしめんとする要素なり、而して神儒佛を對照として正しく

鍛錬せば、吾人をして群中に**金剛不壞の大和魂**を傑出せしむる原動力にして、門閥や人餘の到底及び得べきものにあらず。

警語　人は悉く偉人たり傑士たる智能要素に惠まれざるものなし、然るに多くはたゞ**眼前の僥倖**を夢みて人生を曲脫し、或は最も低級なる打算的生活に墮し、或は思慮なき蠻勇者の失敗に畏怖して人並以上に出づる危險を感じ、または人生の安全感？たる恐怖觀念のために躊躇逡巡して盛運向上の機會を失ひ以て與へられたる叡智を心內に沈衰せしめて小成に甘んずるもの、或はまたこれを心內に腐蝕せしめ落伍して斃るゝものと、常に吾人の妄念たり外道たり、また無形のバチルスたる**恐怖觀念を克服**して、心內深く潛在せるその無限の叡智を搾出して、更に油斷動搖なく一事に專念忍耐三十年五十年間一貫して、鍛錬努力、勇往邁進して完全にこれを發揮するものとの差あるのみ。

一三、三種の神器と吾人の叡智

茲に私の云ふ眞の大和魂とは我が建國の精神を基本として、**神儒佛と武士道の思想**で固めた將來絕對不安動搖の怖れのない、靈肉兩全の健康體に溢れた實力を云ふのである。と云ふと甚だむづかしいやうにも思へるが決してそうではない。日本人なれば小學校生徒から誠に容易に實行が出來るのであ

る。それは三種の神器を吾々の心とすると云ふことである。三種の神器は云ふまでもなく八咫の鏡、八坂瓊の勾玉、叢雲の劔の三種である。即ち**八咫の鏡**、鏡は智の表章であつて、私の心のないことを徳とし、一物も蓄へずして森羅萬象の是非善惡の姿を顯はし、正直の本源であつて萬物を照す、これが鏡の心である。私の心のないと云ふことは個人主義でない自己本位でないと云ふことであり、一物も蓄へずと云ふことは貧乏になれと云ふことではない。報酬以上を欲したり要求したりする貪慾のないと云ふこと、即ち足ることを知ると云ふ徳である。また森羅萬象の**是非善惡の姿**を顯はすとは、鏡は物體を映せばその場かぎりで何物にも執着しない、そして正直に善は善惡は惡とそのまゝすべての物を映す、これを吾々の生活にうつすとその一擧手一投足、何等の曇りもなく正直で裏表のない、この徳のある叡智であつて明達な智慧を表はしたものである。日本家屋の構造もまたその家族制度も悉くこれを出發點として居り、また婦人が毎朝鏡に向つて化粧するのも、この徳を心とせよと教へられたものである。（詳細な説明は略す）

一四、觀音の顔と修養の極致

八坂瓊の勾玉、玉は仁の表章であつて柔和、圓滿、善順を徳とした慈悲の本源であり、また玲瓏と

して心を潤ふすを表徴したものである。一例を擧げると觀音の顔相である。如何にも柔和圓滿の顔相であつて男だか女だか判らない、男女を超越した冒すべからざる威嚴があつて猛々しい所は更にない。この顔相になるまで吾々の生活が向上しなければならぬ。それは吾々の顔が四角であらうが長からうが、たゞどことなく人を引き附ける威嚴のある**柔和圓滿な顔相**にならねばならぬ。顔相はその人の心も肉體も共に一切を表現したものであつて、看板に僞りなしと云ふのはこれを云つたものである。心に惡策を包藏してゐる人はその顔相に陰險な相を有し、悲觀や煩悶のある人はそのとほりに憂愁な顔相になる。また神經質で心にまとまりのない人々の眼は更に落付きがない、貧乏するとどことなく貧相が現はれ裕福になると福相が現れるものである。どれ程かくして見ても威張つて見ても**惡人は惡相**であり貧乏人は貧相である。觀音の相は柔和、圓滿、善順、玲瓏、慈潤、威嚴、正直、長命と云ふように三十二相の具顯であつて、吾々に言行一致正直に實踐躬行する修養の極致を教へたものである。日蓮上人は「五尺の身の魂は一尺の顔に現はれ一尺の顔の魂は眼の中にをさまり候」と云つて、心身の强弱善惡と顔相との一致を證明してゐる。昔の醫學は**上醫は色を診**、中醫は聲を聞き、下醫は脈を見る、と云つて顔相と聲の力如何で病氣を診てゐたものである、實際現代の局所診斷よりも確實であつたものである。また宿屋の客引が客の懷を見抜き、刑事や探偵が第六感の働きで犯人を

見破るのも悉く顔相とその擧動である。

一五、向上と墮落の分岐點

「忍ぶれど色に出にけりわが戀は、ものや思ふと人の問ふまで」と云ふ歌は、その間の消息を完全に現はしたものであつて、修養とその實行とに最も重きを置いてゐた昔の上流社會にして尙ほ且つ然りである。況んや修養の下落した現代に於てをやである。吾々は腹がたてば顔が赤くなり心配すれば蒼白になるのは、皆吾々の日常に於ける心の働き如何によるのであつて、吾々を將來神佛に同化さすのも禽獸以下に引下げるのも、悉く前に述べた自覺によつて搾出した叡智で運命を打開するか、或は己惚れた邪智によつて開放された運命を破壞するかに、吾々の向上と墮落との分岐點があるのである。即ち**生殺與奪の特權**を掌握するものは自己日常に於ける行爲如何にあるのである。昔の道歌に『たゞうか〳〵と二十年あれやこれやと二十年これは〳〵と二十年』と云ふのがあるが、人の一生は多くこれに終るのであつて、若し現代の青年がこゝに自覺してこの三種の神器の心を自己の心として、眞の**大和魂に蘇り**これを實行するなれば、その晩成は期して見るべきものがあるであらう。

また現在子供や青年たちが玩具としてゐる鞠は、この勾玉を表徵したものであつて、手玉ともまた

十界具足（この說明は玆に省く）圓通自在殊に柔和、圓滿、善順、玲瓏として慈悲を目的とした人間の本質を表はしたものであつて、人も鞠のやうに運轉して滯ることがなければ氣血も循環して健康を維持增進し、或は病氣であつても平癒すると云ふことを表徵したものであるが、青年子女はそんな氣持で取扱つてゐるであらうか、また世間の親はその心で兒童の潛在意識の淨化を計つてゐるであらうか。

一六、理論の千萬へより實地の百人

叢雲の劍、劍は勇の表章であつて、剛利決斷を德とし鞏固な意志、是非を分ち曲直を斷じ神意を毒する邪惡を斷ち切る智慧の本源を表はしたものである。然してこの勇は絕對の勇であり剛勇の本源であつて、空元氣でもなく蠻勇でもない。これには鏡の聰明な智慧と、玉の曇らざる慈悲とが加はつて始めて智仁勇の德と云つて大和魂の源泉である。

明治天皇の御製に『國のためあだなすあだはくだくとも、いつくしむべきことなわすれぞ』と仰せられてある。これが智仁勇の標示であり大和魂の本質であり、宇內に冠たる我が建國の精神である。

またこれを吾々の心理作用に照して言ふなれば、鏡は聰敏であつて明達な智慧を表はし、玉は玲瓏

透徹、曇りのない慈悲の本體として優和溫順な情を表はし、劍は義の本相であつて至嚴至剛、百折不撓の意志を表はしたものである。

私の云ふ大和魂にはこの全部が具備してゐなければならぬ。即ち吾々の一擧手一投足この行爲で日常生活が行はれなくてはならぬ。そんなことは小學校生徒でも知つてゐると云ふ人があるかも知れぬが、知つて實行せねば何にもならぬ。現在の國民はこれを行つては居ないではないか。行つてゐねば私が玆に云ふまでもなく、現在のやうな不安醜惡な社會は出來て居らぬ筈である。現在の我國には實行の伴はざる雄辯家としての**博識多才の千萬人**よりも、これを實踐躬行してその模範を國民に示す百人を必要とする非常時であることを識らねばならぬ。

この三種の神器によつて標示された智仁勇を吾々の基本精神として、これを實行するに都合のよい宗教と儒學との精神を加味した信念と、將來不安動搖の怖れのない絕對健康の肉體とが渾然融合した人に溢れた力、これを眞の大和魂と云ふのである。この大和魂が若し**小學校の小使**にあつたとすれば、その小使は直面した仕事には忠實であり、人一倍の能率を擧げ人に滿足を與へて尙ほ餘裕綽々たるものがあり、またこの餘力を以て必ず學校全員を感化せずには置かないであらう。從つて生徒や父兄からは先生以上の尊敬を受け、模範小使として自己も滿足し幸福を得るに間違ひはない。斯うした

小使の立派な行爲は不完全な校長よりも貴き價値があり、世の中の師表として恥ぢないものであるからである。若しそれが**總理大臣**にあるとすれば、社會通念の因襲を脫し渾身の努力を傾注して大御心の御事業を翼賛し奉るに足る。他人の及ばざる善政を行つて、國民に絕對の信賴を得るに間違ひない。若しそれが商人にあるなれば心から湧出する熱と力とをもつて、誠實を旨として顧客に滿足を與へ商道德の模範を他に示して、自ら幸福を得るに間違ひはない。若しそれが家庭に一人の實行者があるとすると、果してその家庭はどれ程の幸福を得るであらうか、また他に如何なる感化を與へるであらうか。また若しこれが醫者にあつたら、現代に於ける行詰つた**對症療法の迷夢**から醒め、現代醫學を根本的に矯正し建て直して、眞に仁術の元締めとなり、救世濟民の實を擧げ得る大國手となるであらう。

警語　人の反省は日の終り月の終り、年の終りにこれを實行して、人たるもの丶意義始めて全たし。

警語　人の向上はその理想を第一とす、理想は現實より遙かに上層にありて、常に吾人を導かざるべからず、然もこれを絕對理想に導き得る最も堅實なる羅針盤は**我が建國の精神**とこれに合致して、實踐躬行し得る宗教を以て最良とす。（昭和二年五月號）

警語　人はその職業の如何によつて貴賤の別なし、唯だ眞面目にその天職に精勤して、國家社會に

必要缺ぐべからざる國寳的の人あり、また社會に存在して比較的有利なる人あり、有無何れにても可なる人あり、また存在して反つて有害なる人あり、これ國民として存在する**水平線の單位**なり。

警語　惡事を爲さゞるが故に直ちに善人と云ふを得ず、唯だ糞尿を製造して自然に生活するは、禽獸と雖もよくする所なればなり。

一七、社會の修理と衣食住の更生

この大和魂を更生するには、鑄型を拔いて仕上げをした臭味のない即ち教理に拘泥しない宗教と、末梢片鱗に囚はれない醫學とを、科學に去勢された人々の頭に、否幾億萬の全身細胞の一つ〳〵に解け込ませて、日本精神で練り直すのである。而してこれをその日常生活の常識とするのである。この常識のある人にして始めて轉倒せる現代社會を完全に指導して修理固成することが出來、また既に崩壞に瀕する現代科學を人間の奴隷として、自由自在に顚使し操縱してこれを更生せしむることが出來るのである。茲に於て始めて政治も教育も、醫學も產業も科學も宗教も、各家庭に於ける衣食住はもとより押入の中から臺所の隅に至るまで魂が這入つて更生し、茲に**昭和維新が復興**實現するのである。

この仕事は最も愼重を要する大事業であり、大英斷を要する大改革であるから、これを實行するに

就ては非常な犧牲を拂はねばならぬ。故に自己の利害關係から種々の理屈も相當出るであらうし、非常な反對者も現はれるであらうが、それは國家社會のためにまた人類福祉のためにお互に忍ばなければならぬ。それも諸君がこれを體得するまでのことであるから僅かな期間である。而してこれを體得して自ら改善することが**社會改善の第一歩**である。一たい私は學者でもなく文士でもない、たゞ一個の電氣治療機の創製と、その治療法を創設した電氣治療者である。故に私の專門は靈肉綜合の病氣治療であつて、世界一の治療家となることを目的として四十年來苦心して來た、然しその成ると成らざるは別だが信念に間違ひはない。

警語　人は猶ともすれば人生を見ること輕きに失し、自ら渺たる蜉蝣に比する愚を演じて**病弱貧苦の暗獄に沈倫す**、これ天意に悖るの甚だしきものなり。

警語　克己心とは自己の日常生活に對して、常に皷舞激勵の信念を實行して自己の弱點に打勝ち、天與の本能を發揮して、病弱貧苦なる無形のバチルスを克服し、向上の一路を辿りて、最も**高き意義**に於ける人生の目的に達する覺悟を言ふ。

警語　人の行爲の善惡によつて神佛は最善の慈愛に滿つると共に、また最も苛酷な嚴肅辛辣にも充つること、恰も鏡に物體を映ずるに等し。

警語　無軌道の理論に拘泥せず、神佛を信解してその指導に始終せよ、これ永遠不磨の眞理にして、此處に人生に於ける一切の矛盾は完全に解決せらる。

警語　忍耐は榮華を調節し、艱難を緩和し、憤怒、情慾を制禦し、貧富、强弱、老幼男女を親和協調し、煩悶、疾病と絶縁して以て健康長壽ならしめ、老衰を防禦す。

一八、斷片的理論と淳風美俗の破壞

私は茲數十年來現在社會の不安狀態に對して、斯うしたら建て直せるとの概念は常にもつてゐて、時々我が雜誌『電氣醫學』で發表警告した通りである。要するに現代社會は恰も柱專門の大工があり、柱を作る理論の大工がある。また瓦師の專門もあり壁專門の左官もあり疊製造の專門家もあり、またこれ等の理論專門の大家もあつて實に喧々囂々議論駁說の花は咲くが、肝腎のこれを綜合して建築する棟梁がないので、家を建てることが出來ないと云ふ奇觀を呈してゐるのではないのであらうか。一たい**學問の分科**は綜合統一せんがための手段である筈であるにも拘はらず、各々細流の專門分科に沒頭して綜合統一の生命と云ふことを拔きしてゐるのである。即ち本家を失つた分家の學問が亂立して鉢合せをしてゐるのである。殊に醫學に於て一層その甚だしきものがある。從つて現在の學問

は進歩したかに見へても、迷ひの道行を敎へるものとなつて、その核心即ち生命を失つてしまつたのである。

日本精神で處理し統一した學問以外は現在の我國には、反つて有害である場合のあることを知らねば成らぬ、それは其ために國民をして迷信に導く怖れが多分にあるからである。實際現代の智識階級の衣食住並に衞生常識に對する迷信は實に容易ならぬものがあり、また中には蜃氣樓のやうな科學的斷片的理論を應用せんとする傾向もあるために、我國固有の最も高尙優雅な淳風美俗は悉く破壞され實際には應用さるべくもない夢のやうな學說や　氷炭相容れない毒草にも等しい西洋思想に陶醉して、これがために固有の日本精神を去勢され、今や智識階級の家庭は過半**醜惡な西洋化**せんとしてゐる。これを時代であるとか大勢であるとか云ふ人もあるかも知れぬが、日本精神は時代を超越して大勢を支配する指導原理であつて、時代や大勢に支配され去勢さるべき性質のものではない。固より私は時代や大勢を無視せよと云ふのではない、それを處理するには先づ日本人が現在の病弱から、眞の絕對健康を復興しなければならぬ。これは現代の幼稚な醫學では望めることではない、それは別に後文に述べることとする。然して前に述べた日本精神を復興して、茲に國民の**靈肉絕對健康が更生**する。然して時代や大勢をこの靈肉絕對健康に溢れた大和魂で支配して生かすのである。斯うして現在に於け

る政治も教育も産業も、工業も科學も醫學も家庭も甦生するのみならず、輸入された時代や大勢なるものゝ文化は日本で魂を更生し、再び歐米に逆戻りして彼等を教育し救濟することになるのである。これが眞の大和魂の使命であることを忘れてはならぬ。

警語　庸才凡智は自己の理解力を超越せる總てのものを排斥否定せんとする惡癖あり。

警語　健康と長壽を欲するは一般世人の常なるも、眞にその方法を知る人は少なく、またこれを實行する人は殊に稀なり。

警語　天は自然を解せざる人々にのみ恰も暴君の如し、貧賤、疾病、手術、悶死の罰を提げて、人生快樂の悉くを禁止す、然も直ちに轉向せざるに於ては起訴猶豫もまた豫審免訴の恩典もなし。

警語　神佛を對照とせざる信念は、常に堅軟不確にして殆ど時と場合に左右せらるゝこと多し。

一九、社會の改造と指導原理の提唱

私は自らこの大事業遂行の任でない位なことは百も承知してゐる。その裡にこの源泉を掌握してゐる筈の醫者か宗教家の中から、この大改革を提唱する人が必ず出て來るものと確く信じて疑はなかつたのである。それはこの事業の基礎が各個人の精神と肉體との兩方面から、更生した心身兩全の健康

にあるのであるから、爲政者でも教育家でも出來る仕事ではない。然しいつまで待つても醫者の中からも宗教家の中からも、昭和十年十二月三十一日までには眞の國手は出て來なかつた。と云つて現在の內憂となつてゐるこの病的狀態の社會をこのまゝ放任して置くと、病人と實際の伴はざる偏重された議論とで國家は益々衰退してこの非常時を切り拔けることさへ困難となつて來る。これではならぬと一月一日私が始めて筆を採つたのである。何分多忙の中に文章の下手な私が大急ぎで纏めたのであるから、文章の杜撰や意味の不徹底な所も多々あらうが御寬恕を願ひたい。またこの意味を或程度まで具體的に纏めるには本年中かゝるかも知れない、それでは間に合はなくなるのでたゞ概念だけを述べるのである。またこの事業に就ては昨年末まで私が社會に提唱しようとは毛頭考へてゐなかつたので、整然とした分科的成案は出來てはゐないが、概念だけは確かに握つてゐるから何時でも間に合ふ。また同樣社會の現狀を憂ひその使命を奉じて、善と眞理とを踏みしめつゝ、自己の信ずる處に奮鬪せんとする私と志を同じくする人々の必ずあることを深く信ずると共に、細流的技術方面に就ては同憂士諸氏の御高敎を仰ぐことゝしたいのである。この仕事の主唱は去る十五日（昭和十一年一月）科學に去勢された現代人と題して、我が月例研究會席上で二時間講演したのが私の始めての發表であつた。繰返して言ふ現代に於けるまさに崩壞せんとする科學を更生せしめ、不安醜惡な社會を救ふ

ものは制度や様式の改善では斷じて不可である。その運用を司る人間の心的內容の改善と肉體の絕對健康、即ち我が建國の精神と神儒物の核心とを、その指導精神とする**靈肉絕對健康に溢れた**意氣、この大和魂以外には絕對にないことを私は玆に繰返して斷言する。またその何れが缺けても不具であるから此際には役に立たないのと、この大和魂の中に完全に解け込むもの以外には、何物の握手も妥協も許さないことは云ふまでもない。

警語　我が國體に順應せる理想宗教は、深遠にして偉大なる自然の法則と崇高なる歷史とに合致して吾人日常の處世戒律及び生活上の哲學を教へて、墮落せる物質文明を精神的に指導向上せしめ、錯雜して低下せる人心を統一支配して、以て國家の存在を健全ならしむるものたらざるべからず。

警語　時は金よりも大切なり、僅少の時間と雖もよくこれを支配せば、自己を博學ならしめ自己の品性を作る有用なる時なり、若し毎日遊樂の爲めに徒費する數時間を、自修のために活用せば暗黑の數年を費す代償に、必ず自信あり明快なる活動家となるに至る、即ち時の經濟は能く人をして怠惰、貧病を征服して現在**百億圓の債務國**たる我國も忽ち債權國たらしむる、決して難事にあらざるべし。

二〇、たゞこの一途あるのみ（昭和九年三月號「電氣醫學」再錄）

理想社會建設の定義は、社會結成の各員悉くが何等動搖なき幸福を自由に享受し得るにあり、少なくとも吾人の希求する理想社會はこれにあらざるか。

然らば如何にして此國民全員の最大幸福は實現し得らるゝや。吾人固より幾多の名論卓說に敬意を表するに吝かなるものに非ず、されども眞の幸福の根底、**國家興隆の基礎**は、日本精神を基本とする國民各自の心身兩全の健康に出發し、これを中心にして始めて堅實に建設し得らるゝは、敢て論を俟たざる所なり。

吾人若し不幸にしてその身病弱なるときは、その不快や如何に、然も極めて不生產的に、最も貴重なる時日と意義なき金錢とを浪費しつゝ、健康なる他人を煩はし、思想は混亂し希望は絕望と化し、鬪志は鈍麻し意氣は衰退し、向上は停止し其生命たる天職を廢絕して周圍の手足絡ひなるに至る。

若しまた一家に數人の病弱者を生ぜんか。吾人の安息所たり幸福の源泉たる其家庭は、**蕭條落漠暗澹**たる慘獄と化し去るべし、たゞその大小輕重の差あるのみ、こゝに何の緊張、悅樂、幸福のあるべき、即ち國家の衰亡廢頹を齎す所以もとより幾多あらんも、吾人はその最たるもの病魔の脅威と迫害

並にこれに伴ふ經濟的巨額の浪費を副因とし、その眞因を國民の健康保全に對する盲目にありと信ず。これ吾人の最も深憂に堪へざる所、また強いて覺醒を促さんと念願努力しつゝある所のものなり。

近時我國民の健康は著しき低下衰退を來し、その過半數は病弱者に非ざれば神經衰弱者なりと云ふも敢て過言にあらざるべし。これ等は僅か一感冒にさへ完全なる治術なき現代醫術の甚だ幼稚なる、固よりその副因とするも、國民各自の健康に對する盲目を最大の原因とせざるべからず　見よ近時に於ける乳兒死亡率の如何に高きかを、また文化の中心に於ける腦炎に感冒の流行時に於て、これが感染に畏怖し萎縮して、發育最も旺盛なる潜在意識を去勢されつゝ、神經衰弱を培ふ可憐なる小學兒童のその奇觀を、また結核に赤痢に疫痢にヂフテリーの流行に、或は中毒に糖尿に腎臓に肺炎に國家有爲の少青壯年のバタ〳〵將棋倒しに斃るゝを、然もこれがために戰々兢々としてその治術の撰擇にのみ**妄狂奔**し、百方手を盡す迷信の愚を演じて日も尚ほ足らざる悲慘事は隨所に展開されさながら禽獸以下の生地獄を現出せるは何事ぞ。

これ國民各自の健康保持の思想が朦昧稚弱にして、常に泥繩的に眼前を糊塗するに汲々として、將來を培はんとする何等の準備なきが故なり、敢てこれを保健思想の盲目と云ふ。殊にこれがために浪費さるゝ一ヶ年の經濟的損失は數十億圓の巨額に上らん。

茲にこの恐るべき病魔の絶滅を期するため國民各自に覺醒を促し、病弱者に健康の幸福を與へて現下の非常時に善處せしめ、これに浪費する厖大なる財貨を轉じて**國家萬般の施設**を充實する、これ眞の國家更生動搖なき國民の幸福にして最も堅實なる非常時解消なりとす。

固より現在盛んに提唱さるゝ政治機構及び教育の改善、農村の救濟、外交工作、國防の充實等諸般の運用一として吾人國民の非常時に處する理想を代表せざるはなかるべし。然れどもこれ皆末梢枝葉の問題にして、その幹根を培ふものに非ず。最も強大なる國家工作を實現せんには、國民の心身兩全の健康建設こそ急務中の肝要事たる論を俟たず。若しこれを外にしてこの非常時に處せんとするは主客轉倒、既にその存在の意義をだに失ひたゞ**崩壞途上に徨**ふのみ、これ恰も山上に舟を航せんとし木に椅りて魚を掬ふの愚擧なるべし。

茲に吾人は國家危急の現狀を坐視するに忍びず、自ら體驗して得たる靈肉兩全の優生法、治療法、健康法、長命法、還靈法を提唱して國民の奮起覺醒を促し、これを實現して健康社會を建設し難局を打開し以て國家を泰山の安きに置かんことを切望して止まざるものなり。

二一、聖德太子の御偉業復興

この事業の中心となるべき思想を簡單に言へば、我國歷史上に於ける中興の祖として知らぬ人のない聖德太子の御偉業であつた所の、信仰を中心として御建立遊ばされた四天王寺の敬田院、悲田院、施藥院、療病院を經營遊ばされた御精神を現代的に復興して、**昭和維新の基礎**とするのである。然し現在は時代も異り殊に病人を取扱ふ上に於ても、合法的に取扱はねばならぬ病人もあるが、これ等はその時代々々によつて改廢されるものであつて、永久的なものでもなく、また危險がなくなれば廢除されてもよいものであらう。

私は總ての病氣の媒介をして、人類から非常に恐怖されてゐる黴菌に就て一言したいのである。吾々人類は常に萬物の靈長であるとか神の子であるとか、或は佛子であるとかまたは百萬の敵にも怖れないと云つて**大言壯語**してゐながらも、一たび黴菌となると何れも慄へ上つてしまふのである。固より有毒な黴菌は恐るべきものに間違ひはない、然し現在に吾々の恐れてゐる黴菌は、三千五百倍程度の顯微鏡下に見へる範圍のものだけであつて、それ以下の細菌は現在では未だ不明でありまた恐れてゐる人は一人もないのであるが、化學工業の進歩は遠からず五千倍一萬倍乃至二萬倍五萬倍の顯微鏡

の製作に成功しないと誰が保證しようか。若しこれが實現すると恐らく現在の結核菌やチブス菌の毛根中に、幾億萬の黴菌を發見するに至る時代の來ることは火を睹るより明かであらう。この大宇宙には到底科學の力の及ばぬ世界のあることも知る必要もあらうし、また現在でさへこの**黴菌に去勢**されて戰々兢々たる人類が、より以下の黴菌が發見されたら、どうした生活法によつて生きるのであらう。人間を消毒した瓶詰めとして硝子箱の中に入れて置くか、或はこの地上に黴菌を絶滅する方法を講ずるか、または黴菌の中に大手を振つて堂々と生活する健康體を作るかの一を選ばねばなるまい。

警語　一は砲煙彈雨に怖れざるを勇者と云ひ、一は黴菌、疾病、寒暑等、天與の自然的刺戟に戰々兢々たる半病人を衞生家となす、これ新舊思想の差なり。

警語　科學者よ、吾人に害毒を與ふる黴菌、毒素は、何故に地上に存在するかを研究して、先づこれを明かにせよ、然らば吾人の生存する意義もまた判明すべし、自然を沒却し人類に恐怖を與へて萎縮せしむる必ずしも科學の常道にあらざるべし、自然は吾人に完全なる智能を賦與し、多數の資料を提供して、その努力啓發を待つと共に、吾人に無意義の生存を强ふる苦なければなり。

警語　自然に虛僞なし、故に吾人の生存に微塵の手落ちなし、これに疑惑を抱き或は反逆して墓穴を穿つは、悉く人の作るところなり。

二三、黴菌の飲める健康體

固より私は法を無視せよとも、黴菌が恐ろしくないものであるとも云ふのではないが、前にも述べた通り敵を知り己を識ると云ふことの大切なことは玆にあるのであつて、若しこれが國家であつたら露國の力も英國の力も、また米國の實力もよく識ると同時に、これに適應すべき確信をもつて國防の充實を期せねばならぬ。これは吾々が黴菌に對する消毒やマスクのやうな末梢的片鱗の防禦ではない。内に充實した力を養つて始めて**枕を高く安心**してゐたらよいのであると同様に、吾々の心身を絶對的の健康にまで増進して置いたなら、黴菌にそれ程怖れる要はあるまいと思はれる、傳染病の流行時に保菌者と云ふものゝ多數あることは世人のよく知る所であらう。云ふまでもなく保菌者とは黴菌が體内に居ても發病しない人を云ふのであつて、黴菌が體内に這入つても繁殖する豫猶のない健康體であるからである。健康になつたら黴菌を飲んでも發病しないのだから、そんな健康體になつたらよいではないか、たとひ死んでもその末梢的片鱗の**所謂科學の型**から一歩も出ることの出來ない人々は實に氣の毒でもあり、また潜在してゐる大和魂を持ち腐れにする哀れむべき人々であると云へるであらう。

獨逸のコツポがコレラ菌を發見して、コレラはその黴菌で傳染するものだと主張すると、民府大學の教授で衛生大家のペツテンコーフエルとその助手のエンメリツヒとがこれに反對して、コレラはそんな黴菌で傳染するものではないと主張し、双方激論の末遂に此兩人はその主張を證據立てるために、コツポの純粹培養したコレラの黴菌を水と一緒に三百グラムを飲み干して、兩人共僅かな下痢はあつたがコレラは遂に發病しなかつた有名な事實がある。これは兩人共肉體も健康であつたであらうし、また精神もこんなもので發病してたまるものかと云ふ確信もあつて發病しなかつたのであらう。

また四六時中**塵埃や屑物**ばかり取扱つて、兩手兩足はもとより顏も口も鼻も眞つ黑によごれて働く人々が、案外疾病の罹病率の少い事實が市の社會局の調査によつて明かにされた。而して一面マスクだ含嗽だと騒ぐ連中の方に却つて罹病率の多い皮肉な事實がある。即ち人間の身體は健康でさへあれば黴菌など恐るゝに足らぬと云ふ事實を雄辯に證明するものである。生理、解剖、組織學の見地から云つても胃液に強力な殺菌作用があり、血液中に白血球や其他**巧妙な抗菌抗毒**の能力があり、鼻毛氣管枝内壁の絨毛及び有ゆる内分泌作用等、要はそれ等自然の強力な自衛裝置に信頼して、常に充實した身體の抵抗力を培つて置けばよい。病氣に罹るのはその罹るだけの缺陷が身體にあるからであつて、その缺陷を除かざる限り如何に手を盡してマスクや消毒に專念しても、群がり襲ふ黴菌の重圍

は完全に防ぎ切れるものではない。寧ろ恐るべきは根本を誤つた衞生保健の觀念施設である。

警語　人は病の器と云ふ、迷妄の甚だしきものなり、自然は吾人にかゝる不幸を與へんとするものにあらず、造物主はこゝに健康と幸福とを展開して吾人を待つこと久し、然るに吾人は與へられたる軌道を脱線し、人生の意義を曲解して自ら病弱、逆運を收得するのみ。

警語　吾人は微菌毒素の體内に侵入し繁殖して發病する、所謂病の器となることを極度に恐るゝが故に、中樞的大乘醫術の生粹たる野一色電氣治療機を應用して、保健行事たる心身の掃除と疲勞復興法とを、日常生活中に十分間づゝ實行して、睡眠、食慾、便通を調節し、内外分泌機能を充實して**微菌毒素の襲撃**に抵抗し、これを完全に殺菌排撃して尚ほ餘りある健康を持續すると共に、常に粗食と極度の活動とにその心身を鍛錬して、將來異常を起す怖れなき確信ある靈肉兩全の健康を保有するが故に、微菌毒素の侵入による傳染病の流行時にも、また如何なる非常時に遭遇すると雖も　これ等の微菌毒素並に苦難襲撃に何等怖るゝところなし。

二三、流行病の脅威と醫學の無能

また現在の東京や大阪の大都市には、醫者の數が有り餘つてゐながら病人はそれにも増して溢れて

居り、暑中や寒中には死人の山を築く奇觀を呈してゐる。秋から冬にかけて年々惡性の感冒が流行すると、大人はもとよりだが小學校生徒たちの脅威は實に容易ならぬものである。近く**國家の中堅**となるべき兒童や少青年が、斯うして年々流行病のために去勢されて行く、この脅威を潜在意識に藏し病の器となつて神經衰弱的に育てられて行く、青少年の將來に於ける影響が思ひやられる。斯うして社會は遠からず病人で埋まる時が絶對に來ぬと斷言し得る人があるであらうか？感冒一つにさへ完全な治術なき醫學の無能は固よりであるが、各家庭に於ける家長や主婦が今少しく此方面の常識を養つて感冒や胃腸病や**呼吸器病位**は安全に癒しもし、また愛兒の健康保全に確信が持てる位にならないと、折角の幸福であるべき善の家庭生活の大部分は、このために破壞されて歡樂すべき人生を臺無しにすることは、餘りに愚と云ふよりも悲慘ではあるまいか。文化の中心に智識階級として生活して居りながら、それ中耳炎だ扁桃腺だ肺門淋巴腺だ肋膜炎だ感冒だと云つて、吹けば飛ぶやうな**纖弱な子供を温室育ち**にして行くその無自覺が、堂々たる紳士淑女の名譽でもあるまい。また衣服にしても食料にしてもそふである、日本服は活動に不便であり不經濟であると云つて、淺薄にも日本服の皮相の缺點のみを擧げて非難する。そして洋服の長所のみを採つて活動には洋服に限ると、また洋服は經濟上にも都合がよいと云ふ**陶醉振り**にも呆れざるを得ないのである。固より私は今直ちに洋服生活を中止し

て、日本服に還れと云ふほど時代に無目覺ではないが、日本服と洋服との衞生上の利害關係や、これから受ける深遠な感化等、祖先が吾々子孫のために健康と長命とに無駄のないやう、如何に苦心したかをよく識つて、出來るだけこれを活用すると云ふことが、吾々日本人としての義務であり**祖先に對する禮**ではあるまいか。

警語　一般世人の病なき時は、金と名利に沒頭して更にその健康を顧みず、一たび病を得んか只管その病變に戰々兢々として、藥餌と滋養とに專念してまた名利を思はず、忽焉としてその宗旨を變轉する輕薄なる**不具的生活**は、吾人の斷じて採らざるところなり。

警語　人は常に人生の出發點に於て、萬全を盡して心身兩全の健康を培ひ、以て動搖せざる將來の基礎を確立せよ、これ成功富致の第一要素なり、また自己の天職には時間を度外して**全身全靈**を打込み、責任以上の能率を擧げよ、これ成功富致の第二要素なり、また上長、先輩には禮を厚くしてその敎へを乞ひ、身を愼みて同僚に親和し、眞心を以て後輩部下を指導せよ、これ成功富致の第三要素なり。

二四、朝生暮改の榮養と藥餌

また日本人の主食物が米であることに異議はない筈だが、一體我々はその米も玄米がよいのか白米が適するのか、或は胚芽米がよいのか半搗米に滋養があると云ふのか、これがまた**異論百出**で一般人よりも寧ろ智識階級の方が迷つてゐるやうである。毎日自ら三度づゝ攝る食事にさへ確信がもてないとは、醫學も榮養も何たる自信の缺乏した時代であらう。殊に近時に於ける朝生暮改に變化しつゝある榮養と藥餌とに飽滿してゐる人々が、果してどれ程の健康を贏ち得て居るであらうか？殊に近時の割烹法は堂々たる藝術として進歩してゐるのであるから、吾々の榮養食として結構なものであるかも知れぬが、吾々は先づ何よりも我國傳統的に然もその季節々々に決定された**獻立法**が氣候風土の上にも精神修養の上にも、また趣味の上にも美觀の上にも、治病上にも健康增進の上にも混食法を基本として、然も最も優秀に微塵の手落ちもなく、非常な苦心と研究のもとに作られたものであることを識らなければ、少なくとも日本人としての資格があるまい。私の遺憾に耐へないのは現在非常に珍重されてゐる洋食が、若し**アイヌや南洋土人**から輸入されたものであつたら、恐らく日本人は見向もしなかつたであらうが、所謂先進國としての歐米からの輸入であつたので、たゞ譯もなく進歩した榮養食なりとして現在の流行を來したのであるが、日本食と比較して何れの方面から見ても天地程の差がある。日本食は修養本位に出來てゐるが、洋食は血の滴たる獸肉を切りつゝ、口の周圍を赤く染めて食

べるのであるから、どんな理屈はいつても**原始的野蠻食法**であると云へるであらう。此點についても日本食は修養上斯うした殺伐な、潜在意識を培ふことを非常に忌避したものである。また世界の料理を人間の身體に擬らへると、日本料理は頭であり支那料理は軀幹であり西洋料理は足である。また多量の獸肉や濃脂性食品は、寒帶に近い國民の食料であつて、溫帶國の日本人には餘り適した食料品であるとは云へぬ、と云つてこれを排斥しようと云ふのではない、その心で併食すべきであらう。兎に角歐米人には歐米人に適する食料があり、南洋には南洋人に適する食料があり、支那人には支那食があり、また日本人には日本人に適する**健康長壽食**のあることを忘れてはならぬ。（昭和六年十月乃至七年十月號雜誌「電氣醫學」「大和民族の生活と古來の年中行事」參照）

因みに丸の内東京商工奬勵館内發明興業株式會社で賣出してゐる特許榮養白米は理想的の榮養米のやうである。

警語　感冒に犯されず胃腸を害せざるは、痴呆、乞食、精神病者の常なり、彼等は特別なる衛生家にもまた特製胃腸の持主にもあらず、たゞ感冒と食事とに何等恐怖心を起さゞるのみ。

警語　珍味飽食家はその財嚢を腹中に入れて身を破り、吝嗇家はその**胃腸を財嚢の中に**入れて榮養不良に陥り、以てその心身を破壞す。

警語　空腹を醫するは食物なり、疲勞を補ふは睡眠なり、分泌機能を復活するは入浴なり、而して健者非健者の心身に培ふものは我が野一色電氣治療機なり、食慾、睡眠、入浴は失はれたるものを回復するに過ぎず、我が野一色電氣治療機の應用は、失はれたるものを復興し更に**細胞機能を極度に充實**して、活舞臺に猛進する新らしきエネルギーを供給す。

二五、端午の節句と武道の練磨

昔の五月五日には多くの子供が厚紙で冑を作り、菖蒲で鉢卷を締め**菖蒲刀**を作り菖蒲帶を締めて、武道の遊戯に多數入り亂れて無邪氣にたはむれ、或は菖蒲を入れて作れる大繩を多數の兒童が双方引合つて勝負を決したものであつた。また菖蒲は勝負にまた尚武に通じ、武を尚ぶのであり勝負を練るのである。また武は戈を止めるのであつて日本男子の守りであり魂である。これを心掛けて練磨し上達するのを**心氣力の充實**と云ふのである。即ち心は意志でありこれの充實したものを意氣と云ひ、またそれの發動したものを力と云ふのである。武道を眞に味得するのは體育、護身の術を全ふして、常に己を持すること恭謙、他を待つこと寛厚に、出でゝは眞面目にその務めを果し、上長を敬し同僚に親しみ後輩を愛し、家庭にあつては孝子、慈父、良夫たるも一旦緩急あらば勇奮猛進義勇公に奉じ以

て**天神地祇も感動**せしむるものが軍人だけではない、官公吏も商人も職工も否老幼婦女子一人も殘らず實行者となる。これが我國民道の眞髓でなくてはならぬ。即ち我國體はその根であり、三種の神器はその幹であり國民の持つ大和魂は、これに咲いた花でなくてはならぬ。中には武道は侵略主義を助長するものであると云ふ人もあるが、これ等は武道の眞意を知らぬ外人の誤つた批判を詐賣するものであつて、侵略する力がなかつたなら、向ふから侵略されるに極まつてゐる。また**凶暴な國家の根絶**せぬ限り凶暴な人間の絶へない限り、大切な護身術であり人格の完成術であることを知らねばならぬ。而して無邪氣な兒童に消毒力の激しい菖蒲による健康法、消毒法、豫防法と尚武の氣風を不知不識の裡に行はせつゝ、大和魂の基礎たる武士道を暗示するのが、この端午節句の意義であつたのであるが、此行事は將來是非共復興したいものである。

（左の一文は昭和七年五月號雜誌「電氣醫學」の卷頭言である）

近時軍隊の士氣衰へたりとの一般の批評は今回の滿洲、上海事變により潑剌たる皇軍の活躍によつて、これを完全に抹殺せらる、勇敢なる空閑少佐は、奮躍難に赴き從容として義に就く、こゝにわが大和魂の輝きを見る、國家を代表して遠征せる將士にして**血湧き肉躍る**この意氣に燃ゆるとき、吾人は生きて甲斐ある健康を禮讃す。然も武勳の赫々たる日本軍人の精神を完全に顯彰し、我國民

の潛在精神を如實に發揚せるは、生氣潑剌として我が身に迫るを覺ゆ。吾人は空閑少佐の靈に深甚なる哀悼を捧ぐると共に、我が國史に祖國を護る一人の軍神を加へたるを喜ぶ、嗚呼少佐の死や實に鬼神をも泣かしめ**情民を覺醒**し、後輩を鞭韃して國家に貢獻す、その魂は永遠に國民の龜鑑として眞に偉大なり。

機械は人によりてその使命を完全に發揮し人は心身の訓練によりてその偉力を發顯す、我國は上に萬世一系の**大元帥陛下**あり、下にはその御聖旨を眷々腹膺して一糸亂れざる將士あり、この將士によつて我軍兵は日夜訓育せらる。三勇士、八勇士、千勇士、萬勇士を出せる決して偶然にあらざるなり。これ**神意を代表**せる皇國軍隊なればなり、來れ百萬、千萬の凶暴、これを完全に覆滅して地上に正義を建設し、以て世界民族に平等なる眞の福祉を與ふるは、我が大和民族の負擔せる一大使命なればなり。

二六、科學智識と精神文明の破壞

一たい人は機械的物質のみの生活で生き得るものではない。從つて物質以外の**崇高な存在**を認める

ことによつて、人は正しく進展し向上するものであることを考へねばならぬ。正しく向上すると云ふことは吾々の希望であり目的である。見よ物質に恵まれながら感謝の念なき人々の不安、恐怖、執着、煩悶、病弱の悲惨を、また物質に恵まれざる人々の不安、怨嗟、争闘、貧窮、病悩の悲鳴を、これ等は物質以外の存在を認め得ない**精神の飢餓者**であり佛教で云ふ餓鬼道である。蓋し生活と云ふことは理屈を何と附けようとも眼前の事實であるが、この意義に就ては昔から哲學者達のその解釋に甚だ苦しんで居る難問題である。然るに現代の科學者はこの重大問題を、盲斷的に極めて無雑作に取扱つてゐるのである。即ち彼等は宇宙一切の諸現象を機械的作用に歸入する事を以て寧ろ誇りとしてゐるのである。若しこれに崇高な靈の目的及びその推理を加へんとすると、それだけ**非科學的**な荒唐無稽なものであるとして、これを反つて科學者の恥辱位に考へてゐる。即ち崇高な精神的神秘的なるものが、所謂科學的機械的なる小さな重箱に嵌らないときには、これを無視し排斥してその重箱の中に閉ぢ籠つてこれに跪づいて居る姿は、恰も五十年以前の山の中に住んでゐた人々が、宇宙の長距離は江戸と長崎以上なしと考へたと同様の滑稽事ではあるまいか。彼等の見解によると宇宙には何等の目的もない、一切の現象はたゞ盲目的に**物質分子の集散離合**によつて成立解體してゐると云ふのである。即ち物質分子が器械的に集合して一定の塊となり、周圍の物質的刺戟によつて反射的に運動してゐる

時それが生命と云はれると、然してその塊が分子の離散によつて解體し反射運動を失つた時、生命の終極即ち死であると、從つて生も偶然なり、死もまた偶然である。故にそこに何の神秘もなくまた何の不思議もないこ、斯やうな淺薄**皮相な生命觀**が科學と云ふ形容詞を戴いて、大和魂を去勢され囚はれた學者連に幅を利かしてゐる。如何に珍らしきを取入れる目前の急に驅られたとは云へ、何たる淺薄な人として霑ひなき無味乾燥な見解であらう。この思想のもとに社會が變轉して行つたなら、崇高性を失つた人間と稱する唯だ一個の肉塊が、その本**能的運動**を繼續するに過ぎないことゝなるのである。斯うして人間最高至純の自然性を沒却した所謂珍奇にして實際に即せざる、或は即するも弊害ある偏重された**詭論妄說**が、我國學界の一部を風靡したのである。斯うして何物か一つの理屈が出來るとその實現性の如何に拘らずそれを直ちに發表して自己を賣らんとするもの、またこれを社會に宣傳して讀者の歡迎を得んとするものが、所謂**言論の自由**と云ふ美名の下に續出して、これが未だ智能の充實せざる青年子女の間に無暗に歡迎され、徐々に浸潤して日本國中に氾濫するに至つたのである。

斯うして從來吾々日本國民の長所であつた體驗を基礎とした**實證の權威**や、忠孝を道德の本とし上長を敬畏して來た思想を輕視し、蔑視し、破壞せんとする陋習を作り出すと共に、現代に於ける雜然とした混亂、無攝操、無差別、無分別が我國多數の青年子女を、**眩惑の捕虜**として支配する

大なる病源となつてゐることを知らねばならぬ。斯くして自然主義や物質偏重生活の有ゆる惡弊は多くこゝを出發點として進化してゐるのであつて、これ等實現性なき偏重された詭論妄說の弊害は、天與の**靈妙崇高**なる人生に對して、禽獸生活以下の生命を失つた闇黑世界を指示する以外の何物でもあるまい。即ち科學は人生の意義を或程度まで實現するため、理性の要求を滿さんとする智識であつて、その事實と推理との一部を比較的鮮明にせんとする理論であることを忘れてはならぬ。**感覺的に實驗**することが出來ぬと云ふ理由から、人生に何等の意義なしと論ずるものは、恰も群盲象を評する類にして甚だしき愚論であり、我國精神文明の破壞者であると云はねばならぬ。

警語 文學は愚を醫する靈藥なるも、中毒すれば國家社會を亡ぼす猛毒に變化す。

警語 讀書曲解の邪智は身を亡ぼし、家を滅し、國家の大義を危ふす。

警語 教養なき飢餓は狂人の持てる刀劍に等しく、品性なき人の低級なる讀書は、土匪に銃劍術を教ふるに等し。

二七、科學者の轉向とその不可思議

現代の若い科學者や學生の連中は、萬事に經驗の淺いだけ兎角物事をどし〳〵斷定せんとする氣風がある。所謂**明快に物事**を斷定して行く、何事でもきび〳〵とさばく人は頭がよいとか男らしいとか、人も賞めるが自分も己惚れる傾きがある。昔の青年は多くこれを經驗ある先輩壯老者に計つて行つたものであつたが、現代の風潮は兎もするとその矜持する所と實行との、兩立することの出來ない矛盾と撞着とが提供せられ、現代の青年子女をして不知不識の裡に、その處世上必要でありまた有利の方面に誘導せずして、實行不可能な曲解的理想觀や、社會の實際に當て篏まらざる美辭令言の理論に誘導された正直な青年子女は、その訓へられた心得を確信して後日社會に立つに及んで、それが豫期の如き功を奏せざるのみならず、反つてこれに累せらるゝその意外な社會相に驚くことゝなる場合が多いのである。

これが若い連中の特點とも云へるが、經驗の淺い實證でもある。然るに人は年を取るに從つて實地に經驗が出來て、何事でもきび〳〵と斷定が出來る譯だが、自らよく熟慮して容易に斷定しなくなる、即ちそう一概には言はれぬと云ふやうになる。それは何事もたゞ一片の理屈通りに行くものではないと云ふことが判つて來るからである。科學者も同樣に年を取るか或はある**不可思議**なことに衝動すると、その囚はれた四角四面な科學說がだん〳〵ぐらついて來て、今迄否定してゐた神佛を肯定してこれに深く囚はれたり、或は神祕や不可思議を認めてそれ等に深く囚はれ、反つて馬鹿々々しい迷

信に陥る實例が多數ある。三宅理學博士は自分の一人娘が腹部の切開手術を受ける間際になつて、自己の永年に亘る職業たりし動物の解剖と一人娘の腹部の手術との因果關係に就て、大阪毎日新聞にその**懺悔談**を發表したことがある。また有名な科學者たりし沼波瓊音氏は大正二年に「始めて確信し得たる全實在」と題して神を認めて發表し、また死の直前には「七生報國」を遺書して死後の輪轉を認めてゐる。また有名な科學者たりし故エヂソン翁は死の數年前に至つて「全世界の人の智識を集めても蟻の足一本、毛髪一筋造ることは出來ぬ、玆に自分は始めて神を認めた」と發表してゐる。また科學者として**神祕說を絕對排斥**した淺野某氏は、稻荷下げの不思議が變化の動機となつて遂に現在の如き神靈學者となつたのである。また谷本文學博士はある機會に衝動して、人間の死靈を感得しこれを或る婦人雜誌に發表したことがある。またかの大本教の入信者の殆ど全部が多く不可思議や神祕說を否定した科學者や、或は生活の內面に堅實な信仰を持たぬ世才に單純な人々のみで、**大本獨特の催眠術**による睡遊狀態の不可思議に深く囚はれ、この假想暗示にかゝつた結果である。また最近岸博士が朝鮮の明道に深く囚はれて、新聞の三面記事を賑はしたことは有名な事實である。斯うした事實は反つて深き迷信に入る動機となり、延いてはこれが一家の消長にも關し、また他に非常な害毒を及ぼす怖れのあることを深く考へなければならぬ。私は內面生活に正しい信仰を有せざる人々の或動機に衝

動すると、反つて最も**幼稚な信仰亡者**以下の所謂水平線以下の迷信に深く囚はれて、寧ろ憐れむべき悲慘事に陥ると共に他に迷惑を及ぼす危險を痛感するものである。

警語　敬神崇祖の觀念なきものは多くは最も高貴なる人生を下等動物化して、不幸なる同一の子孫を作り、近き將來に於てこれを斷絕せしむ。

警語　愚にして屁理屈を好み、貧賤にして富貴を誹謗し、若輩にして先輩成功の道程を無視するものは禍その身に到らむ。

二八、信仰を基礎に發奮努力した大和魂

豆腐の賣子をしてゐた僅か十一歳の己之助は、いつもの如く豆腐を箱に入れて賣り歩いてゐた。一日駕籠と衝突して豆腐の箱を覆されたゝめ豆腐を賣ることが出來ず、親父に叱られるがどうして呉れると駕籠屋に掛け合つたが、駕籠屋も乘り人もお前の不調法だと云つて刎ねつけられ、泣く〳〵砂に塗れた豆腐を拾ひ集めた口惜しさが、十一歳の己之助の心に深く〳〵刻まれて、**忘れ難い發奮の刺戟**となり、京都鞍馬山の毘沙門天へ出世の祈願となつたのである。毎月寅の日毎に常に百文の豆腐を賣り歩き、自己の收得たる四文の目錢あるのをお賽錢として、京都市內の岡崎から鞍馬山迄、今でも物

寂しい洛外三里の道を、商賣を仕舞つた夕方から、暇を貰つて參詣を始め、一回も缺かさず數年間眞心をこめて祈願した。後の**男爵古川市兵衛翁**の成功の端緒は茲から起り完全な大和魂を湧出した賜であつて、決して投機的でもなし打算的でもまた偶然でもない。如何に翁が神佛を對照として眞面目に努力したかゞうかゞはれる次第である。

また自分の子供に充分與へて猶ほ餘りある乳を、近所の庄屋の母乳の無い氣の毒な乳兒に與へるために、その庄屋の乳兒を預つてゐる内その預り子のみが**突然天然痘**にかゝつた。彼の女はその純眞な責任感からその鄕の氏神へ祈願をこめた。それは萬止むを得ざるときは自分の子供の生命を取換へらるゝも辭せずと、毎夜水行して祈願した。その甲斐あつて預り子は全快したが、自分の子供は祈願通り不歸の鬼籍へ入つたのであつた。それはこの信仰が一つの動機となつて、現在内外を通じて**三百萬人の信徒**を有する社會の一大救濟事業を完成した天理教の教祖、中山美枝子女史である。

警語　古來非常の成功を遂げ、國家社會に一大衝動を與へて事物の開發を齎せる偉人は、その**天賦の才能非凡**にして特別異常の人よりも正直にして自信篤く、神佛を對照として向上の信念强き剛勇邁進の人々に多し。

警語　人は宜しく靜かに冥目して、天より授與せる本心の言はんとするところを正しく傾聽せよ、

然らば末梢細流的無益の議論は中絶され、疑念の迷妄は明月の黑雲を拂ふが如く、**暗澹たる生涯**へ適確なる羅針盤を示し、有ゆる藝術と科學へ燦然たる光明を齎して、尊き人生の眞意義を啓發し以て理想の彼岸に到達することを得べし。（昭和四年七月號）

二九、精神文明の傳承と大和民族

現實生活の不幸を神佛に祈願して、向上成功の**彼岸に到達**しようとすることは見方によつては迷信であるとも云へようが、神佛に祈願すると云ふことは、吾々が直ちに神佛に同化して叡智を湧出する自覺の表現であつて、微々たる人間一人の力のみでなく神佛と同化しその補佐を受けて天の道、人の道を遂行すると云ふ、換言すれば神の前に端座合掌して心身の汚れを清めて次第に神に近づいて行くのである。即ち微少な有限な力を通じて**無限な偉大な働**きに同化し、これに導かれると云ふ何等不安のない固い信念をもつたとき、吾々には數倍乃至數十倍の力が出來、その天職は正しく清く明るく强くなつて、欲して得られざるものはなくなる。また爲して成らざることのない大悟徹底の境地に突入して來る、健康體に此力の出來たのが眞の大和魂であつて、こゝに吾々國民の行くべき道があり、萬物の靈長として**精神文明の傳承**を誇る吾が大和民族の眞價のあることを忘れてはならぬ。

私は茲二十年來治療する人々の誰れ彼れの區別なくこれを說明して、生活を正しく誘導すべく務めて來た。それは總て病氣は生活の脫線からであつて、決して偶然に起るものでないからであり、また病氣そのものが雨降つて地を固める、轉禍爲福とならなければ病氣の意義がないからである。泥棒を捕へてたゞ許してやつたのでは**再び惡に陷る**怖れもある。充分本人の轉向意識の出來るまで訓戒を加へて許してこそ、始めて泥棒は轉禍爲福を得るのである。病人も同樣生活の脫線を自覺して、感謝生活に轉向してこそ治療としての意義があり再び病氣に罹らぬことになるのである。斯うして私の治療と說明で不幸のどん底から感激の幸福生活に繼つてゐる人は敎へ切れない程出來てゐる。また我が野一色電氣醫學校では私の受持講義として**臨牀講義**の外に「科學的機械的病理と心理作用の關係」「理科學的精神的自然的療法の利害」「心理的神祕的病理觀と科學と迷信の標準」「日本民族の傳統的衣食住の認識と近代生活の長短」「日本宗敎の概要」「病氣不治の十二則」「感謝生活の六則」「治療道の三則と三段療法の意義」等を課外講演として講述し、受講生にその**意味を徹底**せしむべく努めてゐる。尙ほ私が電氣治療者として大和魂の復興を提唱するに至つた理由と、現代の一般家庭に於ける衞生常識の缺乏に就て、簡單に說明して參考としよう。

警語　凡そ疾病の起るはその發病の時に起るに非ずして遠く心身內に潛在し、不德不攝生等その無

自覺に因りて根深く培はれ、油斷の間隙に乘じ**外界刺戟の衝動**を得て始めて發顯せるのみ、此時に及んで愕然色をなし百方手を盡して、貴重の時日と金錢とを浪費し、遂に迷信に陷るが如きは愚も亦極まれりと云ふべし。

三〇、多大の犧牲と國民の失望

電氣治療、誰が聞いても頭にピンと來ない、如何にも古くさくて効きそふにもない、人を馬鹿にした治療のやうにも聞へる。それはその筈だ、明治以來いはゆる舶來の電氣治療は相當効くものゝやうに**誇大な宣傳**をさん〳〵聞かされて、感傳電氣やラヂオレーヤーで痛い目にあつたり、ヂアテルミーで惡性の電氣火傷を起したり、レントゲンで死人や怪我人が出たり、餘り効果のはつきりしない平流電氣やオキシバサー、サンデン電氣や、あまり氣持のよくないルジユツク電氣やテラス電氣等、効果にその期待を裏切られる電氣治療のために、その智識に乏しい醫者も素人も六十年間に亘つて、多大な犧牲を拂つた**苦い經驗**を嘗めさせられてゐるので、電氣治療は餘り効くものではないと云ふ事が、既に先入主となつてゐるからである。

また明治四十年頃からちよい〳〵按摩や鍼灸業者が從來の感傳電氣を併用し、電氣マッサージと云

ふ看板を揚げて、按摩や鍼灸の補助療法としたことも、各病院や開業醫の多くが醫學に適法のない疾患に對して、その補助療法として何等その智識のない**代診生や看護婦**に、多く感傳電氣を使用させて患者に不快の念を與へたと云ふことも、一般世人に電氣治療に侮蔑觀念を與へた一原因でもある。

また醫師の方でも盛んにその効果を誇張して來た所謂舶來のヂアテルミー、レントゲン、太陽燈、光線療法、ルジュック電氣、電光乾浴法等の相當高價な輸入電氣治療機なるものゝ効果が、**理論と實際**とが餘りに懸隔の甚だしいのに、少々と云ふよりも大いに愛想をつかせてゐる矢先きでもある。斯うして明治以來六十年間電氣治療の社會的信用に對して、大きな汚點を印して來たのであるから、今一般民衆に電氣治療の萬病によく効くのが出來たと話しても、「ハ、ァまた電氣治療か」とか或は「電氣なんかで熱病が治つてたまるものか」位に蔑視するのも當然であり、また何の不思議もないことである。

警語　末梢局部の保護治療に沒頭して、全身の衰弱を忘るゝ自滅養生は、對症療法の通弊なり。

警語　全身の健康增進を目的とし此所に主力を注いで、局部的病竈に**自然癒合の復興力**を與ふるは我が野一色電氣治療の眼目なり。

警語　醫術の眞諦は自然癒合の保姆たるにあり、苦惱、發熱、疼痛等は、保姆を呼ぶ病竈局部の悲

鳴なり、故にこれを麻痺せしむる姑息療法の如きは、恰も病兒の口を壓して發聲せしめざるに等し、愼まざるべからず。

三一、漢、洋醫學の長短と其利害

明治三十四五年頃私が醫療機械類を販賣してゐた當時、感應電氣治療機を製造して他の醫療機械類と共に病醫院に納入し、醫師や代診生及び書生にその**使用操作法**を敎へてゐた時には、それ以前の舶來の機械に比して幾部分の改良は加へてゐたとは云へ、その適應症も僅かに慢性の胃腸病、神經痛、ロイマチス、肩の凝り、打撲、捻坐、腰痛、各種の麻痺、脫臼、筋炎、半身不隨、筋肉萎縮、頭痛、齒痛、脚氣、其他骨の疾患位なものでその適應範圍も狹く、またその効果も多くは補助療法としてせぬよりは治療した方がよい位な程度であつた。

私は子供時代から胃腸が弱く服藥を離れたことは殆どなかつた。幸ひ近親に醫師も多數あつたので治療には萬全を盡したと云つてもよい。また**名醫の診斷**も多數受けたが多くは先づ氣長く養生せよ、との一致した意見であつた。然しその氣長くはいつまでのことか判らない、死ぬまで氣長く養生せよとの解釋もつく。いつそ自ら醫者になつて自分の病弱も、母の持病も共に征服しようと考へて醫師と

なるべく準備した時代もあつたが、醫學を勉強すればする程どうも治りそうな見込みも立たず、大家と言はれる名醫の中に胃腸病の持主が多數あるのを見るにつけ、**益々希望を失**つたので醫者になることを斷念した。また妻の父が皇漢醫であつたので、この方にも養生かたぐ〳〵五年間漢法醫學を學び、西洋醫學と皇漢醫學との長短利害と、それに鍼灸治療の智識を得たことは私にとつて大きな修得であつた。また短期間ではあつたが藥種賣藥業も經營したこともあつたがこれ等は悉く自己の病弱を脫せんとするもがきである。また世の中に名醫はないものかとこれを求めるべく、醫療機械を納入する傍ら多數の病醫院にも出入したが、その**期待は悉く裏切**られてしまつた。

警語　根を培はずして枝葉の枯衰のみの保護療養に沒頭するは、眼前を糊塗する嗤ふべき愚擧なり、根を培ひ幹の勢力を充實して枝葉の繁殖を促進し、以て全體の健康を計るは堅實にして將來を慮るの卓見なり、人の療養亦斯くの如し。

警語　肉體の絶對安靜を强要せらるゝ患者は常に不安、煩悶、恐怖等のためにその**意馬心猿**を狂はし、與へられたる生命を減損して墓穴に急行す。

警語　吾人の生活には必然遭遇すべき幾多の災害苦惱を有するが故に、歡び得る時に歡び忍ぶべきときによく忍びて、常に取越苦勞たる想像的災害苦惱は避けざるべからず。

三二、各種斷片的治療法の割據

その後は理科學的療法、精神療法、抵抗療法、自然療法と有ゆる治療及び藥劑應用の體驗を經て來たお蔭で注射、服藥、手術、洗滌等の利害關係もよく判つた。また現代醫學上に於ける對症療法も理科學的療法も精神療法も、抵抗療法も自然療法も神佛を對照とする宗教の信仰も、それ〴〵特徴があつて固より結構なものではあるが、**悉く斷片的**であり、一方に偏した傾向が多くて萬全ではない。それは精神が如何に健全でも肉體に虛弱な部分があつたり、例へば肩の凝り、便秘、頭痛、腰足の冷え等があれば**健康體**ではない、如何に精神が健全でも肉體の虛弱な人は、多くは神經衰弱的に一つの思想に執着する頑癇さがあり、短氣になり易く**感傷的で寬容が薄**くなり融通のきかぬ傾きがある。宗教でもあまり頑固に凝ると少々狂氣じみて來る、それも職業としてなればそれでよからうが吾々は專門家ではない、然もその狂氣じみた宗教家でも信仰家でも、靈肉兩全の健康を得てゐる人々は寧ろ一般人よりも少ないやうである。それでは如何に**人類の救濟を叫**んで見ても「易者身の上を知らず」と云ふものではあるまいか。世の中は盲千人と云ふが多大の犧牲を拂ひつゝ、いざりに歩行術を敎はつて然も自らいざりにならんと、もがきつゝある人々が意外に多くはないであらうか。また如何に肉體

が頑健でも寒暑の刺戟や、黴菌や毒素に恐怖するやうな**薄志弱行者**では眞の健康であるとは云へない。共に**不完全な**健康で恰も爆彈を抱いて舞踏するに等しい不安の健康であると云へよう。

警語　恐怖は疾病の肥料なり、疑惧は黴菌毒素の溫床なり、この二者に絶縁し得ざる人は遂に自然陶汰の選に入る。

警語　吾人の唱ふる眞の健康體とは體軀の強大なるに非ずして、頭頂より足の爪先きまで**何等異常なく均霑**し、これを萬全に驅使し支配して、將來何等の故障を起さしめざる確固不拔の精神の持主を言ふ。

警語　常人は人生の表面を味ひて直面せる天職に從ひ、偉人は人生の深みを味ひつゝ千年の基礎を培ふ。

警語　如何に科學が發達して國民の物質的幸福を增し絢爛の美を競ふと雖も、**病弱なる國民**はその思想常に動搖し易く、從つて不動の信念を培ふに由なく、恰も砂上に樓閣を築けるが如く、僅少の衝動にも崩壞し易し。

三三、二十五年間の暗黑生活

私は斯うして二十五年間この治療法と健康法とを漁り盡したが、徹底した根治療法と云ふものを見出さなかつた。然し私だけは自然療法と抵抗療法とに弊害の少ない**漢法藥を併用**して、纔かにこの虛弱體を四十歲まで支へて來たが、それでも五尺五寸の身長で十三貫匁の體重を超えたことはなかつた。祖父は三十年以前に石の上に轉倒して、肩胛骨と臀部を打撲して以來每年秋から春にかけて、肩胛骨と坐骨とに神經痛を起す持病があつた。また母は四十年來の偏頭痛と肩の凝りと便秘とがあつて、南風の吹く日と雷雨前には常に鉢卷を締めて就床する習慣があり、その上妻も子供も悉く病身であつた。固より治療を怠つて居たのではないが、いつも一進一退で治らなかつたのである。一家庭に**年中交代で病床**の一つ二つ時には三つも絶へ間がなく、夜も晝も服藥だ!!注射だ!!濕布だ!!灌腸だと騷ぎ通したらどうであらう、これが長年に亘る私の家庭であつた。その裡に妻を亡くした、子供も五人の內二人を亡くした。殘つた家族は悉く虛弱者と病人で、然もこの虛弱者と病人が一人づゝ亡くなつて行くのである。私は斯うして四十歲までに九人の葬式を出した。その**心細さ悲慘さ**は如實に味つた人々のみの識る悲劇である。

警語　吾人の疾病と死とは全然區別せざるべからず、即ち禽獸は如何にして病を癒し、また如何なる狀態のもとに死するや、彼等は自然の法則に從つて棲息しまたこれに從つてその死を全うす、人

は神の子と云ひ萬物の靈長と云ふ。然るに健康に居て病を怖れ、病弱、老衰してその死を恐怖し、以て**天與の壽命を損耗**す。然もその死に臨んでは妄執、苦惱、迷信交々至つて慘鼻の極みを演ず。斯くの如きは彼等禽獸に對しても恥とせざるべからず、故に吾人はこれを轉換せんとす、即ち疾病は不自然的脱線生活に對して、吾人を鞭韃せんとする天譴としてこれを受け、この試練に應じて過去を三省し玆に自覺して、以て**爾後奮進の一轉機**とすると共に、吾人の死は草木の自然に枯るゝが如く、喜んで靈に歸せざるべからず。從つて慘鼻の極たる疾病悶死の如きは、吾人の斷じて採らざるところなり。

警語　人生死の因緣最も微妙なり、即ち震死するあり、火死するあり、水に溺れて死する人あり人に殺さるゝあり、自殺するあり、誤つて死するあり、また**高壓高氣に觸死**するあり、また自ら求む る自家中毒によりて死するあり、病に罹りて悶死する如きは平凡なる俗人の止むを得ざる宿命とも云ふべきか、然も吾人に與へられたる運命を支配しこれを極度に發揮遂行して、その責任を完了し滿足して、**神の抱擁裡**に還靈すべく吾人一生に於けるその行爲の正邪を、標示する人生最高最終の總決算たるを知らざるべからず。

三四、責任の轉嫁と勇氣百倍

然しこの九名の死者を出した中には誤診のために、或は注射服藥のために死期を早めた事實は度々認めたが、私はこれを醫者の責任に轉嫁しようとは思はなかつた。それは一つは現在の醫術そのものが未だ甚だ幼稚の域を脱してゐないためで、**醫者の責任**とすることは聊か無理であり、今一つは私ばかりではなく一般家庭の家長や主婦が、その家族の健康保持の上に餘り無自覺であり、無責任であつたと云ふことに氣が附いたのであつた。即ち私がいつも名醫や名藥はないものかと日夜汲々としてこれにあこがれ、また何とかしてこれを驅逐しようと常に憎んでゐたのは病氣であつて、その憎んでゐる病氣を造り出す生活法を愛してゐたことがはつきり判つたのであつた。從つてこの全責任は神や佛でもなくまた醫者の罪でもない。どこまでも自己の負ふべき責任であつて、他に轉嫁すべきものではないと云ふ**深刻な責任感**に打たれ、先祖と九名の墓前で自己の無自覺に泣いたのであつた。而して私はこの墓前で將來九人分の活動否十人前の活動を繼續すると共に、今後は病氣の原因を造る生活法を十年計劃で根本的に改善し、九名の死亡を必ず無意義に終らせないと誓つたのである。即ち一日十六時間勤勞、休日なく一分時も油斷せぬ、**一食一菜**、酒類、間食、娯樂、遊戯絶體禁止、これを十年間

實行し此間に生活を根本的に改善する。私はこれをこの靈前で誓つて、せめてもの冥福慰靈の一端として、滿十ヶ年間これを實行したのであつた。

世間には病氣になつたら醫者があるとか、何の病氣には何々藥があるとか、或は金さへあれば病氣になつても何とかなるだろうと云ふやうな、**實に幼稚な考**へを持つた人々が餘りに多くはないであらうか。私はこの體驗から人間の生命や健康が巨萬の富をもつても購ふことが出來ず、また如何なる人の力や施設をもつても償ふことの出來るものではないと云ふ、貴重な體驗を如實に味つたものである。私は今でもその當時のことを回想して戰慄を覺ゆることが度々ある。

警語　自己の病源は自らよく識ること百の博士に優らむ、須らく早く頭を回らして沈思默考せよ、そこに自己病源の本態を發見するに至るべし。

警語　苦惱の種を蒔き、悲觀、憤怒をもつて耕作し、驚愕、恐怖の肥料を施さば花は黴菌毒素によつて滅し、根は亡身亡家の腐蝕に至らむ。

警語　日夜滋養と檢溫とに沒頭し、疾病の惡變にのみ煩悶して、何等の**趣味希望**なき病弱者の生活は森羅萬象を黴菌毒素化して、以て各種の疾病を大量に粗製濫造す。

三五、諦めの壽命と感傷的醫學

世間には私の過去のやうな不幸な人々、否當らずとも遠くない人々が決して少なくない筈である。以前の私のやうに日常如何にも物識り顏で、感傷的に**醫學や衞生の末節**に囚はれて、家庭に於ける實際に即した健康保持增進と云ふことに無自覺であつた爲めに、止むを得ず壽命であつた、運命であらう!!と或は何等か他に幾多施すべき方法があつたのではないかと、そこに心を殘しつゝ僅かに諦めてゐる人はなからうか。或は世の中には神も佛もないものだと、**神や佛や醫者や氣候**にその責任を轉嫁して、未だ自己の保健常識の缺乏を自覺せず、煩悶を繼續して他の同情を求めんとする人々はないであらうか。またその家庭に病弱者が多くこれを處理するためにたゞ一方に自覺せずして、五方十方百方手を盡す迷信の極に陷つて、煩悶懊惱してゐる人々が多くはないであらうか。一家に病弱者が多いと不平や**不滿が多く陰鬱**で明朗さがない。その上思想も動搖し易く堅實を缺ぎ、各種の悲劇も起り易く不良の出來る怖れもある。不平や愚痴の多い家庭には圓滿も缺ぎ易く溫情も薄くなる。溫情のない家庭には精神上の慰安も統一もなく安息所としての資格もない、安息所の資格のない家庭は破滅であり地獄である。私は少なくともこれに近い生活を二十五年間味つて來た。

警語　人は常に正しき自己の修繕、自己の改築固成を怠り、或はその修繕改築法の運用を誤まるが故に五十歳、七十歳の有爲の青壯年者にして、不自然の疾患にバタ〳〵と將棋倒しに斃る、然もこの明瞭なる責任を天命に轉嫁する愚を演じて更に覺醒するところなし。日々の新聞記事にまた吾人の眼前に、展開する禽獸の生活にも劣りしこの**悲慘の實例**は、これを雄辯に裏書きして尙ほ餘りあり、諸氏は直ちにこの誤まれる思想を放擲して來りて、我が正しき人壽說に耳を傾けよ、病めるものは靈肉共に正しく癒へ、老いたるものは心身共に絶大なる活力を復興し、健康者は益々その健康を增進して健實剛堅なる意志と體格を作り、窮境の底に奮起する勇氣を鼓舞し、失敗煩悶に打ち勝つ信念を發揮して、風雨磨洗の曠野をも**獨往邁進**する元氣を漲らして眞の大和魂を湧出する、更に動搖なき我が健康法長命法を體得し、人生を合理化して不自然なる病死を避け、與へられたる天壽を全ふし以て非常時に於ける國家社會に正しく貢獻せよ。

三六、疼痛苦惱と注射服藥の弊害

大正三年二月祖父（七十五歳）は以前に打撲した腰椎部に疼痛を發して苦惱し始めた。種々手を盡したが五月末には脊髓炎から壓迫性麻痺を發し、**兩下肢に運動障碍**を起して躄になつてしまつた。然

もこの疾患には醫學上に適法もなく効く藥もない。またギブスやコールセットは反つて病人を苦しめるだけで、餘り効果のあるものでないため始めから用ひなかつた。それに以前の失敗を繰返さないために服藥や注射は出來るだけ避けさせ、僅かに熱濕布位で一進一退の小康を保つてゐたのである。ところがそれから四年目の大正六年十一月から七年の二月にかけて、そのいざりの足に**猛烈な坐骨神經痛**を起して來た、注射も行つたがバントポンかモヒである。回數が多くなると中毒も起し中毒は起さないまでも生命は短縮する、識らなければそれまでだが私はその間の消息をよく知つてゐる。たゞ僅かに數時間の疼痛苦惱に緩解するために、本人を死地に陷し入れることは如何にも忍び得ないのみならず、九名の**死者の靈前**で誓つた約束にも違背する。醫師は年も既に八十歳で老衰でもあり、最早長くもないのだから少しでも樂にした方がよいと言ひ、本人もそれを希望する傾向ではあつたが、私は以前にこの方面に餘りに苦い經驗を嘗めすぎてゐるので、祖父には注射一本すればそれだけ生命を削るのであるから、なるべく辛棒するやうと、よくその利害を說明して得心させ、出來るだけ服藥注射は避けさせ晝夜兼行熱濕布を施してゐた。

警語　吾人はその肉體の疾患に於ける如く、精神の上にも危險なる再發の怖れあり、一般世人の病氣本復と見做すところの多くは往々にしてその精神に不安を有しながら、肉體的異常を一時停止せ

る一間獄にあらされば多く危險なる一縫症のみ。

警語　現代人の病源は多くの日常生活の常識たる現在の衣食住に確固たる信念なく、或は過去の行爲を追想してこれに煩悶し、また未發の苦惱を想像し豫めその鬼胎を懷きて懊惱す。斯くの如く事物の緩急輕重を量らずして、徒らに日夜自己の精力を生殺し、餓鬼道に轉落して希望なく未來なき形骸を求む、即ち**艱難汝を玉**にせずして瓦石となる。然もこれを自己の罪障たるに悟り得ずして、遂には人を咎め天を怨むに至る、人の身を處するに無智なる實に悲慘ならずや。

三七、實驗研究と蹠の整復

私は此時ふと久しく忘れてゐた感應電氣のことを思ひ出した。早速材料を一臺分買ひ調へてこれが製作に取掛つた。然してその電氣治療機の心臓部たる感應コイルも以前のものとは餘程改良を加へ、出來るだけ電流を強力に刺戟を薄く製作して祖父の足を治療した。ところが時候も二月の極寒時でもあつたが、冷たい痛いで**不平の連發**である。然し治療すると樂になるから治療は止めないが、冷たい寒い痛いは連續的で何とかせよとの命令である。私が自己の身體に當てゝ見ても同樣で電流を弱くすれば通じが惡い、骨髓まで電流を通そうとすると非常に痛い、これは何とか工夫しなければ繼續して

治療してくれないと思ひ、玆に始めて**工夫改良**を企てたのである。電極の直徑を大きく作つて患部に厚い熱濕布を置き、治療して見たが電流の通りが惡い。そこで電流を電燈線から引いて電極の水を沸かす方法も講じて見たが、これには危險も伴ひ地方の晝間線の無い所では使用することが出來ない。次ぎは懐爐灰を電極に挿入して溫度を保つべく作つたが、火の子が落ちて火傷の怖れがある。或は湯筒、電極の大小長短及び電流浸透の深度、分波範圍の廣狹、密度の粗細、溫度の高低に因る傳導率の**遲速深淺廣狹範圍**等、斯うして多忙の中に眞に晝夜兼行その研究と實驗とを重ねてゐるうち、六月初旬から祖父の足の强直が徐々に整復して來た。

警語　禽獸は一の疾病に一を苦惱し、自然の癒合を待つて完全にこれを治し、薄志弱行者は一の疾病に數倍の煩悶、懊惱を繼續して與へられたる智能を萎縮し、內外の分泌機能を阻害し消化器能を胃潰して自らその壽命を短縮す。また堅忍の人は**數發の疾病**をさへ脫線生活に對する自然の鞭韃としてこれを受け、修養し感謝しつゝよくこれに對抗し、またこれを完全に征服して以て自己能力を益々充實發揮す。

警語　水田中の雜草は繁茂を待たず除去するを常とす、若しこれを放任せば稻は雜草のために浸蝕せられ完全なる收穫を得ること難し。人の妄執、療養亦斯くの如く常にこれを除くに專念せざれば、

主客轉倒して**妄想の捕虜**となり、或は不治の疾患となりて精神肉體の破産を來し、悔を千歳に殘すに至る。

三八、天氣豫報の全快と母の持病

この成績に勇躍して治療に努力する内に、祖父は坐骨神經痛の疼痛を訴へなくなつた。然してこれが完全に治癒すると同時に直立することが出來た。蹇になつて五年目の六月十日、八十歳の祖父は狂喜して泣いた。昔は武士で**相當嚴格**であつたが斯うなると子供のやうである。否祖父だけではない、熱濕布で苦勞した全家族も共に泣いた、斯うして毎日治療と歩行の練習である。本年は梅雨が後れて比較的雨が多かつたので、屋外に出る日がなかつたが、二十一日は天氣もよいので草履ばきで子供のやうに盛視附で四五丁を歩行した。その内食慾は旺盛となり血色もよくなり體重を増して**餘程若返つた**。いざりの碁の先生と云へば野一色の隱居であり、いざりの隱居は野一色の碁の先生で評判の通つてゐた祖父が、若返つて散歩をしてゐるのであるから知人の驚くのも無理はない。この評判を聞いて電氣の機械を見に來る人もあり、知人や友人から治療の依頼が續々と來る。また私は毎日起つてゐた**胃部の鈍痛**がいつの間にか無くなり、服藥することをすつかり忘れてゐたことに氣が附いた。然して

九月には生れて始めて私の體重が十四貫百匁となつた、一貫三百匁の増加である。また母の偏頭痛が無くなつた、南風が吹いても雷が鳴つても知らぬ顔をしてゐる。家庭に於ける最も**適確な天氣豫報**を失つてしまつたのである。明日の天氣を聞くと間違ひがなかつたのに其後は當らなくなつた。そして朝から夜まで非常な活動振りである。また毎晩の行事であつた長男に肩を叩けと言はなくなつた。長男に神經衰弱の傾向のあつたのが全く影をひそめた。次男は常に扁桃腺が腫れ感冒の常習者であつて、風邪に罹ると急癌（引附け）を起す習慣があり、食事も三度〳〵いや〳〵食べてゐたのが、相當大量を而も如何にもおいしそうに食べるやうになつて來た。

警語　病者の肉體に絶對安靜を強要して、精神的に意馬心猿を狂はすは、止むを得ざる消極的方法なるも、病苦を救はんとして反つて**人を殺**すの類なり、病者は病の重篤ならざる限り、疲勞せざる程度の輕き肉體的運動を實行し、活動以上に弊害ある憎惡感情を制するに勉めて病狀の惡變するを防禦し、尚ほ誤らざる積極的治療法を講じて靈肉絶對健康を復興せよ、これ降雨によつて地を固むる轉禍爲福の行爲にして、最も正しき療病の要諦なり。

警語　獸肉及び軟脂性の美食飽滿は恰も爆藥を攝取するに等し。

警語　淡泉粗硬物腹八合の常食と、頭寒足熱を持續する日常生活は、多數の醫師をして遠からず失

業せしむ。

警語　四六時中軟美飽食の人々は常に眼と舌との歡心を求めて、胃腸、腎臓を犧牲に供するために、換言せば目と鼻と舌とに軒下を貸して、胃腸腎臓の母屋を失ふ愚を繼續するために、遂にはその美味をさへ解せざるに至りて、胃腸内**醱酵の中毒**を中心とする腦病、動脈硬化症、腦溢血、逆上症、神經衰弱、不眠症、常習便秘、常習感冒、心臓病、腎臓病、糖尿病、婦人科病等の有ゆる疾患を自ら醸造し、スピード的に墓穴を穿つに至る。

三九、治療機の完成と意外の成績

斯うして憂鬱のどん底にあつた私の家庭は絶望から希望へ希望から確信へ、確信から明朗な信仰へと轉換したのであつた。また實驗した近所の人や知人のトラホームが治つた。結核性腹膜炎、痔、神經衰弱、ヒステリー、骨膜炎、肺炎、肺結核、胃腸病、膽石、胃潰瘍、寄生虫、大腸加答兒、腸結核、**直腸癌**、**脱肛**、ヘルニア、癲病（昭和二年九月十五日發行雜誌「電氣醫學」癲病治療完成號參照）、白内障、糖尿病、腎臓炎、神經痛、リウマチス、脊髓カリエス、半身不隨、脚氣、月經痛、月經不順、卵巣腫瘍、妊娠嘔吐（ツワリ）、肛門周圍炎等其他の治病の成績を擧げつゝ實驗研究すること正に七ケ

月、意外の成績と日夜狂喜の努力を繼續して、漸く茲に**本機の完成**を見たのが大正七年九月十六日午前七時であつた。而して强直した膝關節と足關節とを整復し、激烈な坐骨神經痛と氣息奄々として死に面した老衰とを克服して、その健康を完全に復興した祖父は、非常な元氣で好きな道の圍碁に親しんで居たが、それから八年後の大正十五年九月十四日八十八歳で眠るが如く永眠したのであつた。

警語　死後の極樂、天國のみを空想して、現實の生活を犧牲に供するものあり、これ思はざるの甚だしきものなり、極樂と云ひ天國と云ふ、これに到達するに別途あるにあらず、たゞ現在の行爲に誠實を捧げ、心命を抛ち以て與へられたる自己の運命を開拓し、**濁惡の社會**に超然としてその理想を實現し得れば、極樂は足下に建設し得べく天國は目前に出現し來るべきなり。

警語　吾人の目的を貫徹するにはその事業の大小深淺に比例して、必ず相當の障害あることを覺悟し、これを完全に征服せざるべからず、これ目的を貫徹するに必要なる**潛在叡智**を發揮せしめんがために、自然の吾人に與へし感謝すべき試練なればなり。

警語　社會に成功する天才または才能と云ふは、手段を選ばずして金錢を蓄積することにあらずして、深遠なる宗教的信念を根底としその羅針盤として、一心不亂に人事を盡す能力を云ふ。

四〇、發明の動機と信仰上の啓示

私は常に日蓮上人の意志を崇拜してゐる一人であつて、人並の信仰は持してゐるつもりである。私がふと感應電氣治療機のことを思ひ出した時には信仰上の**或動機と啓示**とがあつた。殊に私は日頃あまり夢を見ぬ習慣であつたが、この實驗及び研究中には實に判然とした夢を度々見た。そしてその研究の方法を一々指導せられたやうに思ふ。丸に天地印の登錄商標も此當時の夢の告げであつた。故に私は創業當時から本機の創作を自己の發明とは毛頭信じたことがない。また常にこれを他に發表してゐる。この重大な使命を**無學無能の私**に遂行せよと、神から授けられたものと深く信じて疑はない。それは從來の私に功があつたり德があつたのではない。私の常に苦心してゐた治療と健康の問題に就て、九人の靈が神と私との中間に立つて糸を引いてくれたものと私は信じてゐる。從つて我儘や惡戯で電極を取扱つたことは一度もない、たゞその使命の及ばざらんことを怖るゝのみである。迷信であると云つて笑ふものは笑へ私はそれを甘受する。私は創業以來十有九年間有ゆる壓迫、**迫害の苦難**に耐へても來たが、私のこの信念は將來如何なる困難があつても、斷じて動搖するものではない。

警語　朝夕敷島一本を浪費する時間に等しき神佛を對照とする信仰の合掌端坐は最も神聖なる日々の行事なり、即ち吾人の生活を指導する軌道にして健康、富貴の鍵なり、**運命開拓の羅針盤**なり、また子孫繁榮の前提にして社會に極樂、天國を建設する基礎工事なり。

警語　眞面目なる精神を有する勇猛精進の人は自己の進路を開拓するのみならず、また他人を導くにその勇氣と獨立とを表示して、世人の信用と尊敬を得ると共に、**薄志弱行者**の心靈を純潔に指導し鞭韃して、以て突進せざれば止まざるの氣概を與ふ。

警語　朝寢、夜遊び、駄法螺は鈍物の附屬品にして、勤勞なくして快樂を得んとするは愚物の標本なり。

四一、奇蹟か暗示か天祐か

私は玆に非常な衝動を受けたのである。電氣治療で四十度以上の發熱ある腦炎や、肺炎及び腎盂炎等が譯なく解熱することである、また癌腫や癩病の治癒した幾多の事實である。殊に私は從來の感傳電氣治療機の**操作法や治療法**を人に敎へてゐた程であるから、電氣治療の効果の如何なるものかと云ふことは人一倍よく識つてゐる。機械も根本的に改良して從來水を附けて通電してゐた電極を湯筒と

し、これに熱湯を注入して水蒸氣が噴出するやうに、根本的に改良したとは云へ如何にも不思議に耐へない。この不思議の効果は祖父の癪が治つた評判による群衆心理の結果か、或は神經作用か暗示の結果か、奇蹟か**天祐か偶然か**、どうしてもそうは思へない。然も十人二十人五十人や百人の實蹟ではない。これには治るべき相當な理由がある筈である。兎に角深く研究せなくてはならぬと決心したのであつた。(此理由の詳細な說明は「野一色電氣治療機文獻」參照)

當時私は貿易品を製造してゐて相當に多忙であつたが、この多數の難症痼疾が治つた評判が高まつたゝめに、遠近から蝟集する求療者の數は毎日百名乃至百五十名を下らなかつた。玆に私は**二兎を追ふ愚**を爲さゞるために、貿易品の製造を即時友人に讓渡して、本機の研究に沒頭すべく決心し、懇意な多數の醫者に相談した。然し醫者は從來の一藥一病主義と云ふ先入主が却々深く、多くは各々專門に亘つてゐて、綜合治療と云ふことに理解が困難であり、また電氣治療の智識にも乏しく、よしその**治療技術を敎**へても比較的拙い人が多い。それは熱心にこれのみに集中することの出來ないのと、投藥や注射の方が面倒がないと云ふ點もあり、また一人の患者に數十分の手數を要することは煩に耐へない憾みもある。或は經濟上の關係等もあつて、たゞ患者さへ治ればそれでよいと云ふ譯に行かぬ事情もある。斯うして實際に當つて見ると如何にも不適當である。

警語　天吾人に二物を與へず即ち牙あるものには角なく、四足あるものには翼なく、穴に入ることの能はざるものには保護色あり、細察分析の才あるものには**綜合の智識なく**、蓄財の才あるものには情味なく、實力に長ずるものに學者なく、多く學者に實力なし。

警語　現代世上に師は頗る多し、故に何物と雖も欲して習得せられざるものなし、然もこの中に於て眞の人物を養成せんとする師に乏しく、殊に靈肉一致して絕對安全を期し得る健康上の師範なし、故にこれを眞劍に求めんと欲せば來りて如實に示せる**我が安產法**、優生法、治療法、健康法、長命法に聞け、然して最後の榮冠を獲得せよ。

四二、死物の伽藍と靈肉救濟の聖舍

またその後幾多の宗敎家にも當つて見た。それは前記の通り靈肉綜合の治療であり、技術も簡單であるから、宗敎家に生理解剖及び衞生の智識と、この電氣治療の技術とを敎授して、先づその檀家からこれを實行せしむることにすると、靈を救濟する本家であるのと檀家が人格を認めてゐる仕職であるから、寧ろ醫者より信用も高からうし、また現在殆ど死物であるあの**尨大な伽藍殿堂**を靈肉救濟の生きた聖舍にすることが出來る。また檀家は自己の宗旨の本尊の前で治療を受けつゝ、有難い佛話を、

拜聽して自己の先祖や本尊に親しみが出來、或は無信仰の人が信仰とその心の糧を得ることが出來る利益もある。從つて醫者が治療するよりも癒りも早い、また料金は安くしても寺院としては別途收入であるから差支へなく、餘分の收入であるから寺院の資産は增し、從つて檀家や信者に寄附を强いる必要がなくなるから、双方相俟つて世間の信用は非常に高くなる。寺院や住職及びその他の**宗教家と檀家**や信者の接近が、家庭にも社會のためにも決して惡い影響のある筈もなく、また眠つた宗教が覺醒して順次復興する。これは一石二鳥否一石七鳥八鳥の名案であると考へて、私は先づ自己の屬する寺の住職を征服し、豫想に近い成績を擧げて他の宗教家に交渉したが、十分理解し共鳴してゐながら中々實行が容易でない。その後**天理教の教師**の重病を治療しこれを完全に治癒して、これにもその理由を說明して實行させた。ところが僅かの間に信者は大喜びでどん〳〵殖へて來たが、神樣以外のものので病氣を治しては、本部の方に都合が惡いらしい。お經を讀んでお布施を貰つたり、お水やお洗米で寄附を受ける程簡單ではない。この治療の遂行には動ぜざる信念と懸命の努力が必要であるから、打算的に努力の嫌いな人には出來る仕事ではない。

警語　墮落への通路は平滑にして談笑快樂の半睡間に達するを得べきも、精勤へ歸るの道は頗る險路なり。

警語　魚貝は水中に活き鳥獸は山野に活き、藝者は三味線に活き女給はチップに活き、凡人は衣食に活き偉人は信念に活き、藥屋と醫師は病患に活き僧侶と棺屋は死者に活く。

警語　人の一生を享樂せんと欲せば、吾人に開放して與へられたる常命百二十歲の還靈期に至るまで、終始一貫、敬神崇祖の信念を堅持し、**靈肉絕對健康**に出發して、少なくとも自己一生に成し遂ぐべき三十年五十年計劃の目的を確立し、一歩一歩克己精勵斷じて中途に動搖せずまた小成に甘んずることなく、常に十二分の精力を養成して、一擧手一投足日常行爲の上にその輕重、緩急と推移とを量りつゝ、十分の精力をその天職に費して常に二分の**餘裕精力を貯蓄**するに勉めよ、然らば吾人を圍繞して襲擊せんとする有ゆる迫害、千災萬難の如きは、神と正義とを融合せる餘裕ある吾人の精力に接近すべくもなく、その行程は坦々として如何なる大事業と雖も必ず成就すること火を睹るより明かなり、これ人たるものゝ悉く負ふべき義務にして、此處に富貴健康等有ゆる幸福は求めずして否が上にも悠久吾人の奴隸として足下に從屬すべく、その歡喜悅樂またこの上に出づるものなし、然してこれを百年五百年千年に繼承延長せしめよ。

四三、七萬人の實驗と講習所の開設

茲に醫師でない私がこれを遂行するに就ては、或程度まで法律上の調査も遂げたのであるが、これに當て嵌める法律がないらしい。醫者なれば電氣の機械的智識もその操作及び治療的技術はなくとも、如何なる電氣でも使用して差支へがない。これは現在の法律の不備であらう。現在はその過度期として止むを得まいが、**從來の醫師法**、齒科醫師法、藥劑師法、産婆法、看護法、鍼灸法、按摩法共に、法律が先に出來て醫者や按摩が後に出來たものではない。況んや刻々進化する文明の過程から云つても、行き詰つた現代醫術の上から云つても（醫術の古代から現在に至つた概要は『**野一色電氣治療機文献**』の中に掲載してあるから茲には省く）歐米諸國と同樣に將來必ずこれが單獨に、**法律の制定**を見るべきものであるとの見解の下に、自ら進んでこれを遂行すべくその基礎を確立するために、五ヶ年づゝ三期に區分して茲に十五ヶ年計劃を樹立したのであつた。而してその第一期大正十二年九月まで五ヶ年間の自宅及び全國各都市に於ける無料實驗治療の延人員、七萬六千五百三十餘名の治療體驗から、將來の臨牀治療は**靈肉綜合**ならざれば、絶體に萬全を期するを得ずと云ふ堅き信念を體得し、これを基礎として廣く同志を募るべく、大正十三年九月には麻布區笄町に野一色電氣治療講習所を開設したのであつた。

警語　法律は國家と個人との關係を安定し、倫理は個人と家庭との節義を全ふし、宗教は絶對と個

人との關係を明かにして吾人にその眞理を教へ以て將來の幸福に誘導す。

警語　凡そ國家の善政とは、その國民をして善事を行ふに最も容易ならしむべく特にこれに便宜を與へ、惡事を行ふに甚だ困難ならしむる方法を最も完全に斷行するを云ふ。

警語　思想の上にその行爲の上に社會の平和を亂さんとするものは、妄想に支配されたる愚者にして、終生神と正義を敵として戰ひ、良心の苛責と恐怖とによつてその**心身を消耗**して、遂に惡魔の形骸となり六親をして慘鼻の極に號泣せしむ。

四四、優生、治療、健康、長命法の完成

第二期即ち次の五ヶ年間には有ゆる難症痼疾の治療實驗と講習生の養成とに懸命努力すると共に、數十回に亘る機械の改良及び附屬品の創製を完了し、**前人未發の電流**を創案した。即ち英國、米國、獨逸、墨國及び我國の特許並に實用新案三十餘權を獲得し、尚ほ南米ブラジル、サンパウロ市に支店を設置し、二男三男の兩名と技術者五名を派遣した。尚ほ三男は同市の醫科大學を卒業して、茲にブラジルに於ける貿易部及び診療所の基礎を爲すに至つた。また第三期の五ヶ年間には從來の講習所を野一色電氣**醫學校と改稱昇格**して認可せられ、茲にその基礎は益々確實性を加ふると共に、三井物産

株式會社に對してブラジル、シンガポール及び世界各國に散在する我協會員の販賣を除く海外の販賣を委託した。然してこの基礎時代の十五ヶ年及び學校（講習所開設以來）十ヶ年、即ち創業滿十五年、學校開設滿十年紀念祝賀會を遂行したのは、去る昭和八年九月十五日であつた。斯くして我が野一色電氣研究所は創業以來滿十八ヶ年、野一色電氣醫學校並に**三千名の卒業者**の團體たる野一色電氣醫學協會は共に十三年の星霜と、直接二十萬人の實驗治療及び間接數百萬人の治療成績を經て、人類改造の基礎として即時實行し得るその安產法、優生法、治療法、健康法、長壽法の具體的完成と共に世界的に名聲を博するに至つたのである。

和　歌

八百萬神のめぐみのいなづまに
　我がはらからを扶けてしかな。

外國の人にも分けむいなづまの
　道ひとすじを思ひきわめて。

あまてらす神のさづけしいかづちの
　音はやしまの外にひゞけり。

弓矢とる身にあらねども電療に
　つくすこゝろは神やしるらむ。

眞心をこめてきたへしいかづちの
　わざこそ家のたからなりけり。

瀧のもとに打たれてまろき岩いしは
　わが道ひらくをしへなるらん。

わが業に名をとゞめずば草木にも
　おとりしものと人はいふらん。

今はたゞ思ひはひとつ神のみち
　うけし業にぞこゝろみださじ。

世をあげていかにみだるゝことあるも
　日頃きたへしわれ等同志は。

三千年のこゝろくだきし甲斐もいま
　あらはれいづる國の非常時。

高砂の尾上の松はかるゝとも
　わがみちのみは千代をことぶく。

警語　吾が治療は各符號に示せる脊椎中心一元的治療術式とし、尙ほその治療の法則を下根、中根、上根に對應して、發熱、疼痛、腫傷、苦惱等、現在の自覺症狀を完癒するを第一期**小乘的對症療法**とし、豫後の治療を繼續して再び同一症狀の發せざる程度に健康を恢復せしむると共に睡眠、食慾、便通を正常狀態に復活するを第二期準大乘的健康法とし、第三期は我が治療道に準據し生命の本源を把握して、三千年來傳承せる血液をこゝに淨化し、將來動搖なく悠久の子孫に繼承せしむべき、**實大乘的靈肉絕對健康**の復興を實現し、尙ほこれを完全に監督指導して、萬全に能率を擧げ得る福祉に誘導するをその目的とす。

警語　野一色電氣醫學協會員の「モットー」は「自ら治すること能はざる人は人を治するの資格な

し」の誓言を遵奉して、自己の心身を十二分の健康體と爲し、常に**勢力二割の貯蓄**の下に能率の增進を圖り、以て自らその天職に樂しむを第一とし、次に全家族を健康に導き、これが保持增進の監督を全ふし、更に親族、朋友、知己の心身を健康に誘導し以て無病息災の社會的標本となるを第二とし、延いては多數病弱に惱める人々にこの餘德を分與して、これが監督顧問となり、以て全國民靈肉一致の健康を實現して能率增進の福祉を全ふし、この餘德を**萬國醫學界に提供**して、萬病一元的自然醫術の眞諦を明かにすると共に、人類康康復興の福祉に貢獻するをその目的とす。

四五、經濟上の破産と自殺の準備

現在の一般家庭に眞の衞生と云ふことが相當に行渡つてゐるであらうか、私の言ふ衞生とは消毒したり掃除するやうな醫學の末梢的片鱗ではない。讀んで字の如く生命をまもると云ふことである。生命を保護すると云ふことは精神肉體共にその健康を保持增進して、**將來に絶體安全**を期することである。昨日の疲勞を今日に持越す人はないであらうか、それは百圓の收入に百五十圓を消費すると同樣であつて、これを繼續すると經濟上では破産の準備と云へ、肉體の上には自殺の準備であると言へるであらう。殊に肩が凝る、呼吸器が弱い、胃腸が弱い或は胃が下垂した、風邪を引く、頭痛がする、

不眠症が續く、血壓が高い、足腰が冷へる、排尿が近い、便秘で困る、神經衰弱で困る、蓄膿症で苦しむ、扁桃腺が腫れる、肺結核、(肺結核で昭和十年警視廳管下の死亡者は、一萬五千五百人であるが患者の數は數十倍ある、)また神經痛、リウマチス、黴毒、淋病、狹心症や糖尿病に苦惱する人々、或は慢性病を何年も大切に保存してゐる人々、或は**安逸を貪**つて美食に耽る、酒を飲む、無暗に肉食する、夜更しをする、朝寢する、悲觀する煩悶する、恐怖する、怒る泣く怨む嫉く等これ等は悉く靈肉の破産者であり自殺準備中の人々であると云へよう。私は斯うした人々を指して衞生に無自覺の人と云ふのである。然して肩は何故に凝るかまたその影響はどんなものか、胃腸は何故に弱いのかその影響はどんなものか、感冒にはなぜ罹るか皮膚はなぜ弱いか、どうしたら强くなり感冒に犯されなくなるか、便秘はなぜ起るか根本的に起らなくするにはどうしたらよいか不眠症はなぜ起るかどうすれば起らなくなるか、血壓はなぜ高くなるかその對策は、足腰はなぜ冷へるかその影響と對策は、扁桃腺はなぜ腫れるか果して不要なものであるかどうか、神經衰弱は何故起るかこれを繼續した結果はどうか、肺結核にはどんな人々が罹るかどうしたら罹らなくなるか、悲觀煩悶恐怖憤怒は生理的に如何なる影響を及ぼすか、少なくともこの位の實際に即した衞生常識は、特に智識階級ならずとも、長屋の端のおかみさんにまでも徹底させて置きたいものである。と云つて私は日常小心翼々として、醫學衞

生の皮相的片鱗に囚はれ、**日夜恐菌檢溫に沒頭**して森羅萬象を黴菌毒素化し、疾病を濫造せんとする消極的な、その生活に潤ひなき無味乾燥な鍼醫者の眞似をする人は大の嫌いだ。

警語　都會の中央に人間の溶體爐あり、一名を待合カフェーと呼ぶ、如何なる頑健の紳士も一度此處に入らんか、濃艶甘語、**陶醉の化學作用**によりて溶解され、忽ちクラゲの如き物體と化す、然もその財寶は直ちに煙となつて消散し、その代償として多く黴三等賞（症）を拜授す、然もこの賞たるよく身を滅しまた妻を通じて子孫を亡ぼす、最も强烈なる酸化腐蝕の變質作用を有す。

警語　三杯の酒は神の惠祿たる微黴にして、この神饌を百藥の長として奮鬪的義理人情の柵の中に陶然たる神境を達觀するは、生理的にも心理的にも眞の健康者と云ふ、然してより以上を吸飲するは不生産的麻痺病者にして、**祖先の意志を阻害**し子孫を滅し、神の思召したる惠祿を辱しむるもの、況んや牛飲馬食して亂に及ぶが如きは不生産的非合理的有害物たるや言ふまでもなし。

警語　黑人が赤い顏して黃いな聲、靑い獨唱聞くが白人、これ五色混濁の會合なり。

警語　夫の顏に泥をかく、六親の緣をかく、婦人の生命たる貞操をかく、これを戀愛の三かく關係と云ひ、また世間に義理をかく、他人に恥をかく、**商道德を沒却**して人情をかく、これを金儲けの三かく關係と云ひ、また飲酒によつて肉體を破壞し、崇高にして精密なる精神をかく、邪淫によつ

て心身を衰耗し家庭の平和をかく、賭博によつてその蓄財を消耗し自ら狂暴に陷つて財寶と特有の溫情をかく、これを肉體生活の三かく關係と云ふ。換言せば飲酒、邪淫、賭博の三道樂を處世上の三かく關係と云ふ。これ共に固く納まらざる懈怠の代物なり。

四六、百人一首の語呂に合せた滑稽狂歌の拔萃

世の中はめくら八分に目あき二分
　あすの健康なきぞかなしき

つとむれば長き命のあるものを
　われとわが身をけづるあはれさ

あすの日も知れぬ命をもちながら
　なをさとり得ぬ人のおろかさ

醫せば癒へなせば健康になるものを
　いらぬ命の多くもあるかな

ながらへてつとむる業も多かるに
　なにゆへ冥土へヤラソンやする

世の中に癒すてだては多けれど
　おなじ高嶺の月は見られじ

玉の緒をとゞむることもいとやすし
　わがいさむるを聞く人にして

百歲に神のちかひし命をば
　切りさいなみて捨てるおろかさ

百歲をちかひし神の御こゝろは
　若人しのぐわざとこそしる

人多き今日この頃の世の中に
　百歲ちかふ人なきぞ憂き

わずらへば醫者よ藥よ神佛と
　人の命のおしくもあるかな
見せばやな我がすこやかはなか〳〵に
　三年四年に得るよしもがな
しあわせのよきもあしきもおのがわざ
　人をも世をもうらみざらまし
なせばなる聖の御代に若人の
　戀に朽ちなん名こそおしけれ
髮の色は霜ふりにけりいたづらに
　たゞうか〳〵とくらし來しまに
胸の内をふりかへり見ればおそろしき
　ほとけのそばに鬼もすみけり
己がわざふりかへり見ればはづかしき
　塵箱つゝくこゝちこそすれ

うか〳〵と朝日の出るも知らずして
　年とる人の影のうすさよ
身を知らば今日のつかれは今宵消し
　あすあらためて將來を培ふ
策略に過せる人のゆくすゑは
　人こそ知らね地獄ゆきかな
奥樣のヒステリックに泣く聲を
　うぐいすの音に聞く主のかしこさ
なには兎もなやみわづらふ人はみな
　ためして後のうはさともがな
いにしゑの人のおしへの正しさは
　今日この頃に匂ひぬるかな
なげくとて春は花あり秋はつき
　泉は上に流れざりけり

吹け曇れたとひ火の雨ふるとても
　わが身鍛ふる鞭とおもはゞ
風さむき冬のあしたも夏の炎も
　たゆまざりけりわがつとめわざ

おこたれば貧乏神がおとづれて
　またもわが家に秋風ぞふく

四七、百方手を盡す迷信の極

世の中には子供を一人ならず二人三人も亡くし、或は愛妻をまたは夫を亡くした人々で、醫者や神佛を怨んで居る人々が決して少なくないやうであるが、それは恰も自ら失火しその甚だしきは無謀にも放火して火災を起し、その家が全燒して後に**消防手を怨む**と同樣の愚痴であつて、常識ある人の口にすべきことではあるまい、一たい一般人の病人に對する手當の方法が、混沌として迷信から迷信の鉢合せである。人の死亡した時の挨拶に『百方手を盡しましたが遂に』と云ふ、これは『迷ひに迷つて**藥攻め治療攻め**に致しましたが』と云ふことではなからうか。然もこの迷信の告白を聞く人が如何にも親切だと感心する、茲に迷信と迷信の鉢合せがある。これが現代に於ける生活の核心を握らぬ智識階級の生活である。斯くの如く現代の一般民衆が人間生活の核心を爲す**家庭衛生に無自覺**であつて

は、たとひ名醫と雖も如何とも成らぬこともある。然もその罪を他に轉嫁して自ら責任を免れんとする。それはたゞ自己の衛生常識の缺乏を他に表白するに過ぎないであらう。私は常に一般家庭に於けるこの陋態を實見して齒痒ゆくてならないのである。

警語　病者がその病氣の眞因を知れば、既に治癒の第一歩に入れるものにして、尙ほその眞因の原理を究めこれに覺醒し善處して、これが副因及び**加因を認識**するに至れば、病氣は既に治癒の半ばを過ぐると共に、再び病氣を獲得するの愚を繰返さゞるに到るべし。

警語　人は多く自己に敬服する人々の外は、何人をも眞面目に稱讃するを欲せざる惡癖あり。

警語　吾人の食料中に於て最良の滋養物として尊重せらるゝ動物蛋白及び脂肪を消化する力は、非常な努力の生理作用を要するのみならず、その消化作用を一歩誤るときは、その消化器内に於てこれが醱酵し**激毒質に變化**して發病率を高め、生命を短縮するに至る。

警語　人は皆恬然として自己の記憶力の薄弱を訴ふるも、その明斷の乏しきに反省する人は少なし。

四八、治病保健の眞髓を把握せよ

現在の醫學は過去數千年來の目覺しい研究と努力との結晶として科學の最上位を占め、進歩發達の

頂點にまで達したのであるが、臨牀治療醫學としてはその自讃と甚だ緣の遠い嘆かはしい事實がある。即ち近時に於ける名醫、名藥、新治療の簇出するに正比例して**治病率は日に減**じ、罹病率は月に增加して、一般の健康狀態は益々低下する由々しき現象を呈してゐるのである。殊に肺結核患者に至つては、內地だけでも優に二百萬人を超過してゐると云はれて居り、その死亡者は毎年十萬人以上を數へこの**損害が一ケ年十億圓以上**に上ると云はれてゐる。また小學校生徒の過半數が有熱其他の病弱者であり、尙ほ中等學校專門學校を通じて五十パーセントに近い近視眼の增加である。また寄生虫と胃腸病者は全國民七十パーセントに及ぶとさへ云はれてゐる。斯うした矛盾を招來しつゝあるその原因は何處にあるのであらうか、現在に於ける臨床醫學の過程を靜かに考へて見ると、實にその見易き矛盾が到る所に橫たはつてゐるのであつて、この誤謬と缺陷とを檢討して解決する所に、至極簡單に誰でも治病保健の眞髓を完全に把握し得るのである。

一たい病氣は何の力で癒るのであらうか、醫者の力であるのか藥の力で癒るのであるか、若し醫者や**藥で病氣が癒**るのならば、醫學衛生の限りを盡した人々の大部分が、病弱と夭折との不幸から免れてゐる筈であるが、寧ろそれに親しむ人々ほど罹病率夭折を多くしてゐる傾向がある。また醫者や藥屋や金持の病氣は早く癒り、醫者や藥に緣の遠い貧乏人の病氣は却々癒らない筈であり、醫者や藥に

恩惠を持たぬ人々や禽獸の類は、その病氣が伸々癒らぬ筈だが事實は決してそうではない。醫學衛生に深く囚はれると、森羅萬象を毒素化して萎縮し**臆病者**となつて、一種の神經衰弱に陷るのは人のよく知る所である。

精神力や神佛の力で病は癒ると云ふ人もある。中には仲介者が一たん病を受取つて、後に神様へお返しするのさへあると云ふ。斯うした修養的の効果は多く、**群集心理**の團體的寮圍氣による暗示作用や自己暗示によるものであつて、危險や副作用の伴ふ藥化學の治療に優る方法であるとは云へようが、實は治病ではなく多く暗示作用に因る一時的小康であつて、その大部分は自覺症狀のみ減退して一時的に内訌し滑在してゐる事實を、私がこの種の人々に對して治療した數萬の體驗によつて斷言し得る所である。然し旬日を出ずして進行すべき筈の急性疾患がその儘慢性となつて潜在稽留し、五年も八年も繼續して惡化せざる多くの實例は、この種の人々にのみ見る特殊な症候であつてこれを信仰の德と云ふことが出來よう。中には暴食を强要されて胃擴張を起し、**腸自家中毒**から脂肪過多症となつて、肥つて健康になつたと喜んで居る滑稽な人々さへ多數見受ける所である。

これ等の多くは現在の都會生活の疲弊から、利己的の對立が益々激しくなり、共同的連鎖が失はれ孤立狀態のもとに置かれて、萎縮した**精神的飢餓**を醫せんとするもがきであつて、その動搖混亂を解

決しようとする人々である。「幸福は我が内界に求むべきもので、決してこれを外に求むべきものではない」と、これが精神界に於ける眞理であるが、而も滔々としてたゞ名利を競ひ嗜慾に耽り、好んで自己の品性と健康を破壞しつゝある一般人が、「叶はぬ時の神だのみ」をして一時的にこれにあこがれて見ても、到底釋迦や日蓮に到達し得べきものでもない、また開祖は此處まで來いと云つて宗教を開いたものでもない。これを履き違へると寧ろ地獄の沙汰となり、多くは貴重な時日と金錢とを浪費して、反つてこれに到達せんとする苦惱を增大するに過ぎないであらう。昔から「健全な精神は健康な肉體に宿る」と云はれてゐる通り、健康な肉體に取入れてこそ宗教も修養も完全に消化し得るのであつて、病弱者の求むる**精神界の得益**は多く融通のきかぬ片輪であり深くなると多く狂氣じみてしまふ。

而も世間には宗教や或修養法に歸依して年中これに親しみながら、眞の健康が得られず悲觀、煩悶に惱みつゝある紳士淑女が大多數であり、醫學衛生の最善を盡しつゝ病弱者や夭折から免れることの出來ないのみならず、寧ろこれを增大しつゝある人々が決して少なくない。また易者に歸依した人々が**年中易者通ひ**をして運命が向上せず、また鍼灸、揉療治、溫灸溫泉、指壓、靜坐と年中彼れこれと親しんで居ながら眞の健康が得られず、藥滋、榮養食に沒頭して尙ほ且つ眞の健康を得ることの出來

ないのは抑もどうした譯か、而もその半面には衞生の何物なるやを解せず、修養の文字だも解せざる人々は、却つて不安なき一家團欒、健康長壽の幸福を贏ち得てゐる人々の多數に上る事實を知るべきである。要するに問題は人間生活を健康で不安動搖なく、**一家團欒裕福**に暮して行きたいとの念願に外なるまい、それなれば道は近きにある。即ち「**各人生活の核心を握れ**」この簡單な一語に盡きるであらう。

警語　遠くの良醫は近くの藪醫に如かず、近くの藪醫は親切なる家族に如かず、親切なる家族にして野一色電氣治療機を備ふるは、精神的に偏し或は肉體的に偏し、または低級なる迷信等の不具的生活を超越し、これを救出する科學的、自然的靈肉全能の治療保健增進法なり。

四九、醫學界の迷信を匡正して患者に對せよ

我國中古時代から經驗醫術として非常に尊重され、實際にその治病成績を擧げてゐた皇漢醫術は、西洋醫學と比較して整然たる理論なく、從つて論ずる資格なき草根木皮を使用する**原始的荒唐無稽**なものとして、明治初年に既に弊履の如く捨て、法律で禁止して更に顧みなかつたものである。また鍼灸の如きも身體に火傷の瘢痕を貽す野蠻的陋習であると云つて、禁止はされなかつたが非常な侮蔑を

以て排斥されたものである。私が妻の父から鍼灸を習つて捨てたのも此當時であつた。斯うして所謂洋行歸りの二三の物識り連中の攻擊に、**大衆が附和雷同**して排斥したその結果は、我國固有の世界的理學療法たる鍼灸技術の低下と、社會的信用の失墜は到底再び立つ能はざる致命傷を蒙つたものと云へよう。眞の日本人の眼から見ると、メスを以て灸の數十百倍の瘢痕を貽し多く人を不具者とする現代の外科治療ほど、原始的野蠻的陋習はないのである。或は外科は醫學の中でも最も進んだものであると云ふかも知れぬが、それは餘りに**技弄に陶醉**したと云ふもので、他に適法がないので止むを得ず行ふ苦のものであり、醫學が未成品であるからである。然し洋拜者連の眼には人體も**自轉車の部分品**位にしか見へぬであらうし、また灸の瘢痕の方が現在の外科よりも野蠻的に見へるであらう。

然し明治時代に禁止された然も整然たる理論の伴はざる、荒唐無稽な原始的草根木皮の漢法藥や、野蠻的陋習であつた技術の低下した鍼灸が、昭和の聖代に然も科學の最上位を占むる西洋醫學の中に、堂々と大手を振つて**逆戻りの奇觀**を呈してゐるのはどうした譯であらうか。然も洋醫學を習得し研究して論文を提出し、これによつて肩書を得た醫學博士が鍼灸醫に宗旨を變へたり、或は自己の修得した藥化學的治療の無効を說明し、漢藥本位の治療に專念して他を顧みざる醫師も少數ではないや

うである。

一方には無暗に肉食を强要する醫者があり、菜食を推奬して肉食の弊害を說く醫者もある。また粗硬食を推奬する醫者があり一にも二にも**軟體流動食**を强要する醫者もある。また冷罨法を强要する醫者とその弊害の恐るべき理由を說いて熱罨法を奬める醫者とある。固より玆に至つた當事者の苦心と努力に對しては、滿腔の敬意と同情とを表するものではあるが、斯うした意見や治術の相違が若し醫學進化の過程であると云ふ人があるならば、現代醫學は二千年來研究した未成品であり、これが完成は遠き將來を待たねば成らぬと云へるであらう。

殊に整然たる理論を根據として進化した洋醫學の中に、何等の理論なき草根木皮の漢藥が逆戻りして、而も益々隆盛に趣かんとする傾向にあるのは、現在の洋醫學が治療的眞價を失つた行詰り狀態を裏書きするは勿論であるが、燦然たる科學的**醫學界の不祥事**であるとも云へようし、また『病氣さへ治れば理論なんかどうでもよい』と云ふことを證據立てた所に現代**醫學の矛盾撞着**がある。先づ進んで止まざる他の治療や患者の迷信を攻擊するよりも、臨牀醫學の迷信を匡正し統一して患者に對するのが先決問題ではあるまいか。

警語　既に成りたる事柄にもその利害得失を完全に理解すること能はずして動搖し、遂にその機を

逸して何等の成績を擧げ得ざる人を愚者と爲し、事物の未萠に確固たる自信を有しその利害を前知し合理化して、着々完全なる成績を擧げ得る人を智者となす、また人の自ら病を求めてその惡變を想像し、病竈以上の苦惱に耽溺して周章狼狽その處置に窮し、遂に得るところなくその壽命を短縮する所謂**疾病の粗製濫造**家を愚者となし、人の病に罹らざる前その體質より來る發病系統の變化を察知してこれを完全に豫防し、或は誤つて罹病するも百方手を盡すが如き迷信動搖することなく善處してこれを萬全に治癒し、以て何等不安の伴はざる保健の實を擧ぐるを上智の人と云ふ。

五〇、醫學は國體を基礎に根本改造せよ

現代に於ける科學的社會進化の最大要素は、人事の總てが分科分業の制度であつて、社會が進めば進むほど分業的專門の業務に沒頭することになつたのである。而してこれがために社會の組織は整頓せられ、世人を驚かす幾多の**大發明大發見**が產み出されて、吾々の日常生活が何から何まで便利になつたことに聊かも異論の餘地はない。然しながらこれに統制なくたゞ分科分業の一方面にのみ發達することがあると、恰も時計をバラ〳〵に解體して放置したと同樣に、如何にそれが高級の機械であつても、反つて邪魔物となつて何等の用を爲さないと同じく、**意外な弊害**の伴ふ場合が決して少なくな

いのである。我が日本はこの統制ある社會組織によつて、工業、交通、運輸、通信、産業等の方面は最も合理的に目覺しき躍進を遂げて來たのであるが、吾々の生活を直接支配し指導して統一すべき筈の最も重要な、教育と醫學と宗教との三要素にこの統制が缺如して現在の混亂狀態を釀成した爲めに、このバラ〳〵の思想が家庭の押入の中から臺所の隅にまで浸潤してその日常生活までも、一々專門的法則を以て律する無味乾燥な矛盾だらけの**杓子定規**が出來て、漸次心身生活の綜合統一と云ふ最も重要な指針が失はれ、人生の眞の幸福が次第にその影を沒して、家庭はもとより收拾することの出來ない醜惡混亂な社會相を造り上げてしまつたのである。

それは如何に高級な機械であつても、また如何に整然たる名論卓說があらうとも、バラ〳〵に解體して放置された時計や自轉車に生命がないと同樣に、**專門分科に偏重**された現代醫學に千萬の理論があつても、綜合統一と云ふ最も大切な生命が失はれてゐるのは事實である。而してこの統制なくバラ〳〵に解體された醫學が、各自勝手な意見や駁論や駁論の駁論を發表し、或は任意な技術、治療を施し、勝手な指導を行ふことになると、そこに種々の矛盾や弊害も起り易く、或は自己陶醉に陷る怖れはないにしても、その混亂狀態は反つて**世人を惑はす道具**となつて、社會的信用の失墜に附隨する治病率の低下を來すと云ふことは、誠に見易き一大缺陷であると云はねばならぬ。

全國の醫師諸君は玆に三省覺醒して現代醫學の定むる小局に齷齪せず、今少しく眼界を廣く寬容の態度を以て我國の三等國時代に於ける先入主を一掃し、皇道精神を基礎に總ての治療法を研究し、これを取捨選擇して現代**醫術の大缺陷**を根本的に、修理固成して創造進化の大道を發見してもらいたい。それは一方には我國特有の仁術たる現代醫學の更生統一の基礎であり、また一方には國家社會の大患たる國民心身の病弱者を現在の迷信動搖から救出し、更生統一して一貫せる更に動搖の要なき心身兩全の治療に、安心して信賴せしむることが出來るのみならず、これを基本として、人心が安定し家庭生活は統一して、社會改善の基礎建設となるからである。

現在に於ける鍼灸治療を始めとして理科學的、精神的、神秘的、心理的療法及び民間療法、宗教、類似宗教等に蝟集して門前市を爲す病弱者は、決して現代醫學に無理解な人々ばかりではない。寧ろ醫學を充分認識理解、否過信してその**徒勞と無力**に愛想をつかし、反對に病弱者の方が一歩先きに覺醒して、醫學を見放した人々が大部分を占めてゐるのである。換言すれば醫師諸君の自讃する所と甚だ緣遠い實情に失望した結果に外ならないのであつて、その責任の大半は醫學と醫師諸君の負ふべきものではあるまいか。吾々は有ゆる新聞雜誌やラヂオを通じて、堂々たる醫學博士の理學療法**民間療法排擊論**を常に見聞してゐるが、これ等は恰も天に向つて唾するものと云はねばならぬ。醫師諸君と

しては茲に大に反省して寧ろこれ等迷信に陷れる病弱者に同情すると共に、哀れむべきこれ等の人々をして、期せずして現代醫學に信頼せしむべく企圖し、これに向つて研究努力してこそ始めて**仁術の本分**を盡し、

天皇陛下の大御心に副ひ奉ることが出來るからである。

警語　凡そ吾人の疾病の半ばは、精神を過勞して肉體を等閑に附するより生ず　三省せよ終日の活動を、如何に吾人の精神を日々無駄に消費しつゝあるかを。

警語　吾人の身體は凜烈**肌を擘く**北極の嚴寒地帶にも、また炎暑灼くが如き赤道直下の熱帶地方にも、自由に抵抗し生存して生活するの特權を賦與されて何等の遺憾なし、從つて最も溫順にして中庸を得たる邦土氣候の僅少なる變化に對して抵抗し得ざる人々は、果して**生存の資格**ありや否やを疑はざるべからず。

五一、分科的專門智識と常識の優劣

我國の宗教は宗教家の專有物ではない。各家庭に於ける內面生活の指針としてその核心が織込まれ消化されて、完全な家庭の常識となつてゐなくてはならないと同樣に、醫學も醫師の專有物ではない。

家庭日常の生活中に共にその臭味が拔けて實際生活に即した醫學の核心が、その家長及び**主婦の常識**となつて完全に織り込まれてゐなくてはならないのである。即ち醫師の診療や他の意見や施設を期待する前に、自己の家庭を不斷に實質的な診療室たらしめることである。吾々の日常生活が順次複雜化するに從つて、昔と異る幾層倍の負擔に耐へねばならぬ現代である。故に自己及び家族の心身健康には細心周到に注意し、善處して病弱のために**不生產的浪費**や貴重の時日を空費する時ではない。常に吾々の周圍に蟠居して襲はんとする精神的肉體的の暗礁を突破し、常に潑溂とした健康のもとに努力を續けることが、非常時に課せられた日本人の第一條件であることを知ねばならぬ。

要するに吾々の肉體生活の上に一定の滋養物の必要であることは云ふまでもないが、その滋養物よりも一層大切なものは遠く祖先から稟けた血液、即ち胃腸の健全な機能である。如何なる滋養物も胃腸の機能が消化し吸收しなければ寸効なく、寧ろ**有害な結果**を來すと同樣に、分科的專門的智識は固より尊重すべきものではあるが、その專門的智識の吸收よりも一層重要なのは、これを消化し吸收する常識の涵養である。それがたとひ世人を驚かすやうな名論卓說であつても、自己の常識內に解け込んで完全に消化しなければ、反つて身を過り社會を毒することがないとも限らぬからである。

現在に於ける臨牀醫學の上に、局外者から見て常識上極めて**平凡な病源**や徵候をさへ堂々たる諸大

家が發見し得なかつたり、或は近時誤診が非常に多くなつたと云ふことも、杓子定規的に餘りに專門的學理學說を尊重して、常識判斷を輕視した結果ではあるまいか。これは前述した通り特に私が自覺と常識の權威を高唱する所以であり、またこの常識は或る事柄を知ると云ふ智識の片鱗ではない。智情意の圓滿な識見を指すのであつて、智情意の**圓滿な識見**とは仁、義、禮、智、信の五常も共に含有した三種の神器の心を、吾々が完全に體得した日本精神を云ふのである。即ち絕對健康の肉體とこの心との兩立したものが大和魂であつて、私の言ふ生活の核心もこゝから出發しなければ、完全なものとは云へないのである。

この專門的智識と常識との優劣は、**學識の深淺や廣狹**で批評すべきものではあるまいと思ふ。それは如何に該博な學究的專門智識があつても、若し人情に缺ぐる所があつたり我國體に合致せぬ所があれば、多く世を過り人を惑はすは當然である。また人として常識も寬容心もあり、自己の爲すべき天分の遂行に絕對の信念さへあるなれば、僅かに義務教育程度の淺學でも立派に身を修め家を興し、堂々**社會に濶步**して世の模範となるのも至難の業でもあるまい、その實例は幾多あるのである。故に三種の神器の心を體得した常識は、**健康長壽の要素**であると共に、國家の細胞として堅實な社會構成の一分子であり、非常時局指導の一員であると言へよう。從つて靈肉兩全の健康を企圖して現代社會に

處せんとするものは、時代の進運に伴ひ、飽くまでも專門的智識の吸收に努力すると共に、これをよく消化し吸收し得る常識の涵養を怠つてはならぬ。

警語　家庭の主治醫たるものは、直面せる現在病を迅速完全に醫するのみならず、その家庭內面に於ける精神的たると肉體的たるとを問はず、その病源となる何物をも控除淸掃して、これが**監督顧問**となり、以て將來に於ける家庭の安全を保證せざるべからず。

五二、人間の慾望と人造人間

吾々の心身はたとひ天下の名醫が悉く匙を投げた重症であつても、また有ゆる宗教や修養から救ひの手を放れた慘苦があつても、自己の心身は飽くまでも自己自ら完全にこれを治し、これを安全に保持增進する義務がある。古人の「天は自ら助くるものを援く」と云ひ、佛者は「百の寺を建立するよりも一人の人を生かせ、千人を生かすよりも先づ自己を生かせよ」と云つてゐる通り、たとひ一歩たりとも自己の境遇を向上せしめようとするのは、自己に課せられた責務であり權利である。故に小指一本の傷害にも相當の**損害賠償**を請求する人間が、徒らに他の意見や施設に動搖して戰々兢々不可能と云ふ一言の諦めを以てこの貴重な生存權を放棄するが如きは、私の言ふ常識から相距る甚だ遠きも

のがあると云はねばならぬ。即ち自己**生存權の擁護**として日常この常識の涵養に努めて止まなければ、曾ては絶望と諦め不可能と觀えた百般の事象も、順次可能の範圍に入り、明朗な希望を發見し得るのは明かである。

限りある現代社會に無數の人間が限りなき慾望を滿さんとするのは、抑も無理な註文であつてそこに競爭もあれば爭鬪も起る。元來人間は慾望の塊りであつて、潛水艇を造つて深海に於ける龍宮見物を企てゝ**鯨や鯛の生活**を脅かし、飛行機を造つて月世界や天體周遊旅行の野心を起し、鳶や鷹の生活を脅かしてゐるのであるが、この競爭この野心が原動力となつて、そこに進歩もあり煩悶もあり向上もある。また享樂もあり墮落も生ずるのである、また平穩無事は停頓であり退歩であり萎縮である。

また既に人造人間の可能說さへ傳へられた現代醫學の偉力も、未だ感冒一つ完全に保證し得られないのみか、古來の**聖哲が心血**をそゝいだ有ゆる宗教や修養も、現在の病弱苦惱を驅除するに道なく、彼の自然を征服すべしと謳歌せられた數千年來の學者が、畢生の努力を繼續してその**蘊蓄を傾倒**した科學や法律、經濟、心理、文學、醫學等凡ゆる近代文化の精粹を集めた敎育の力も、これを綜合し統一するに由なく、反つて多く學んで益々惑ふの混亂狀態に陷つて、未だ國民生活を安定する端緒をさへ見出し得ない現代に於て、不安醜惡な家庭生活を擴大して表面化せる社會組織や、國家の制度のみ

を改善しても、國民各自の內面生活の主體たる生ける心身そのものを**根本的國體的**に改善しなければ社會改善の不可能なことは自明の理である。即ち不可能の社會改造よりも有能な人間の改造、自ら作る環境の改善よりも主客轉倒して科學に去勢された自己の改善、不具的形式の妥協革新よりも根本的心身實質の革新こそ、**昭和維新建設**の根底であつて、また我國刻下の最大急務であると云はねばならぬ。

警語　肉體に絶體健康の確信なき生命は、常に重荷を荷負ひて薄氷上に舞踏するに等しく、心靈に絶對不安なき確信を有せざる生命は、常に原野に於ける**猛獸の圍繞**中に起臥するに等しく、共に人生を解せざる憐れむべき生命なり。

五三、科學に去勢された現代人

即ち根本的心身實質の革新とは、三種の神器の心を基礎とした宗教と醫學の渾然一致、それは**神樣と黴菌との鉢合**せでもなく、權利義務や個人主義の反抗思想でもない、臭味を拔いて常識化した宗教と醫學を渾然統一同化して、切れば血の出る家庭の信念とするのである。この家庭生活の幹根を爲す國體を融合統一して常識化せる宗教と醫學の核心が、現在多くの家庭に**藻拔けの殼**となつてゐる。こ

の狀態を稱して科學に去勢された現代人と云ふのである。固より型だけはあるが多く形骸であり木梢であつて魂が拔けてゐる。玆に言ふ宗敎は行爲の宗敎であつて、宗敎論でも拜み道樂でも**參詣道樂**でもない。また經文字句の飜譯信仰でも山の中に隱遁する脫線信仰でもない。即ち日本精神の中に解け込んだ常識宗敎と常識醫學の核心が、肉體的絕對健康の家長と主婦の日常生活の一擧手一投足の上に潑溂とした行爲となつて顯はれたもの、これが玆に言ふ**衞生常識**であり眞の大和魂である。この靈肉絕對健康を基礎とする大和魂が、日常生活の行爲で鍛錬されて始めて社會の活動にも非常時にも指導者となるので、人間が命懸けの時に出たり附和雷同時や粗暴や妄動の似て非なる勇氣と、この眞の大和魂とは**雲泥の差**あるは勿論である。

殊に私が肉體の絕對健康を高唱するのは、肉體に缺陷があると思想も多く感傷的專門片鱗に深く囚はれ易い頑固さがあり、若しその傾向があると大和魂が**生兵法**となつて、世人を惑はす具とならぬとも限らぬからである。然し手足や目のない固定的のものは別である。昔から「健全な精神は健康な肉體に宿ると云はれたのは**千古を貫く金言**である。實際健全な身體はこれに必要なものと、有害物とを選擇する本能を持つのである。即ち消毒やマスクで防ぎ切れぬ病菌を、健全な身體は體の內外で撲滅排除する自衞作用をもつのである。思想も同樣でその人の肉體的健否の如何によつて、これを取捨選

擇する**理解力に差**のある場合を考へねばならぬ。殊に最も皮相淺薄な模倣の病的生活が、**流行的尖端**の美名の下に一世の風潮を形作つた現代社會を、指導啓發するに携はる師表の人々は、この絕對健康を基礎としてこれに最も重きを置かねばならぬからであり、またこれでなくてはその實が擧がらないからである。

警語　自己心身の病源となるべき弱點をよく認識し、日常誤らざるこれが匡正方法に善處して、その健康を維持增進し、以て將來絕對安全を期し得る人を眞の智者と云ひ、また最高幸福の所有者と云ふ。

警語　黃金は土鑛の中に生じ、金剛石は砂石の中より生れ、不動の信念は多く**苦難突破**の境に培はる、故に過去の己を棄てゝ鍛へよ銘刀の如く、磨けよ寶石の如く、然らば社會に燦然たる光輝を放たんこと火を睹るより明かなり。

五四、唯物史觀の廢墟と近代生活

現在我國に於ける家庭生活の大部分は、我が建國の大精神であり**國體の精華**であつて、國民各自の寸時も放す事の出來ぬ大和魂を去勢され、混沌たる唯物史觀の廢墟に雜居して、家庭生活の根本指針

を失つてゐる。茲に思想の惡化も動搖もまた**不良少青年**も、或は不良壯老年の出來る情風があり、また病魔が侵入して繁殖し溫床となる間隙もある。この專門的分析智識と外來思想と日本思想が氾濫して、統一なく常道を失へる家庭、この反映が現在の社會である。家庭の**病弱思想の氾濫**は內面で、社會の病的不安はその表面化したものである。この家庭生活の根本指針たる大和魂が嚴然としてゐれば、如何なる思想も風習も嬌態も、どれ程輸入されても寧ろ參考として反つて良藥とこそなれ、決してこれに惑はされまた惡影響を及ぼすものではない。現代社會に於けるこれ等の流行は、多く家庭生活に於ける肉體的病弱の不安と、健全な精神の糧を失つて疲弊した人々の、**頓服藥的刹那の慰安娛樂**を求むる半面ではあるまいか。

固より宗教も醫學も家庭に全然無いのではないが、多くは片輪であり型だけで仕上げてないから實際に役に立たぬ。精神のみで生きんとすれば人間が退歩して、**ローマや印度**の二の舞を演じなければならず、肉體のみで生きんとすれば勢ひ禽獸以下の生活に墮落する。茲に神ながらの道によつて立つ我が國體の精華と、**日本民族の優秀性**を代表せる三種の神器の心と、靈肉絕對健康とを融合せる衞生常識の完備した常道の家庭に復興しなければならぬ。而して吾々國民は**蒼白な顏色**で或はマスクを掛け、または首に濕布を卷いて外出したり、客の前に出ることを耻とする健康社會を樹立しなければな

らぬ。

この三種の神器の心を指導精神として、臭味の拔けた宗教と醫學が渾然一致した常識で家庭を支配する思想を名づけて、大和民族特有の衞生常識即ち**生命を衞る常識**と云ふのである。これが家庭で具體化されると、肉體は健全となり思想も健實となつて家庭內が淨化され、而も明朗で圓滿な安息所となるのみならず、子女の敎養から療病保健、殊に人生中最も**重要な優生法**を實現する上の出產胎敎（昭和九年六月一日發行臨時特輯「電氣醫學」「**電氣で生れて電氣で育つ**」號參照）から、衣食住の全般に亘つて不安や迷信が除かれて、全く動搖なき實に整然とした標本的の家庭が出來上るのである。故に靈肉健康の兩立せざるものは悉く不具的存在であり、不具的の存在は**正義公道嚴守の旗幟**を鮮明にして起つ日本民族の耻と云はねばならぬ。

警語　胎敎とは姙娠婦人の非常時敎育を云ふ、即ち隋民の養成たる絕對安靜の謂にあらず、姙婦の日常生活に於ける起居動作を最も嚴肅に、その居室を閑靜に**名香を薰燒**して室內空氣を消毒淨化し、宗敎、歷史、傳記等の書物を愛讀せしめ、心身を調へ情緖を和し、嗜慾を節し庶事を淸淨にして、每日朝夕十分間づゝ野一色電氣治療機を應用繼續して、ツヽリを完全に治し食慾、睡眠、便通を調節して、非常時全身機能の向上と胎兒の健康とを期し、深く**敬神崇祖の信念**を持せしむ、斯く

の如くして母體の心身はいよ〳〵健康にその品性は高く、また胎兒は母體の劣性を更に受けずして優生の心身を培ふ、これ分娩後に於ける萬全の環境並に幾十年の學校教育に優る動せざる、人間一生に於ける基礎教育にして、純潔聰明にして圓滿强健なる寶子を得て、萬代不易の家運を創造すること明かなり。

五五、教育の根本的改造と大和魂の玉子

この生きた大和魂を甦生せしむるには、家庭に於ける家長と主婦とが、眞劍となつて自らその基礎を培養しなければならぬ。それには先づ自己をよく認識することである。即ち**自己及び家族の健否**とその各々長所と短所とをよく檢討認識して、これに處する誤らざる道を講じなくてはならぬ。それには肉體の絶對健康即ち頭の頂上から足の爪先きまで更に故障のない肉體と、これを維持增進して百二十歳の天壽を全ふし得る動せざる信念と、これを實現する最も簡單にして要領を得たる一貫した生活法の樹立である。

茲に私が實際に即した日本精神を高唱するのは、云ふまでもなく**國粹の保存**ではあるが、井中の蛙のやうに痞我慢して外來思想風習の凡てを排斥せよと云ふのではない。たゞ日本人は日本人として世

界に君臨する東亞の一國として、飽くまで根氣强く**持久的國力を養成**して正義を貫徹せねばならぬからである。明治維新の大業は四民を平等とし武士の制度を廢して、國家を擁護するのを全國民の義務に歸せしめられたのであつて、その責任者として軍隊のみが特殊的の存在ではない。殊に大正三年に突發した世界大戰の經驗は、**國民皆兵**の必要を如實に教へたのであつて、これを對岸の火災視してはならないのである。吾々國民はこゝに自覺して外來思想風習の善惡をよく檢討取捨し認識して、その長を存し短を補つて自己を充實すると共に、國民全部が眞の健康を復興し技術の末に流れざるやう武道の實力を養成して、**粗暴柔惰の弊風**を戒しめ正義公道の中庸を嚴守して、いつにても武裝して起つ覺悟を持した時こそ、始めて眞の平和が實現し非常時が解消するのである。

またこれを實現する第二の問題として、現在の幼稚園から小學校及び中等學校の教員全部或は一校一人づゝ大和魂の專任教師を置いて、現在に於ける學科を整理し、大和魂の講義を少くとも一週三時間乃至五時間を加へ、此時間の過半を理論と實際との合致した**勤勞教育**として、必ず生徒にこれを實行させる、然して我國永遠の使命として皇道を振起すべき忠實な臣民として、生徒の全部を完全な大和魂の玉子に仕上げてしまうことである。換言すれば幼稚園から中等教育終了までに（これは現在六年制の小學校を八年制に延長して、中等學校を全廢するも一方法であらう）生徒全部を大和魂として

人格の基礎を造り上げてしまふのである。而してこの大和魂は健康の基礎培養と溫情慈悲を根底とし、文化の開發に關聯して**智識を經驗本位に、叡智を德オ位に、勇氣を武道本位に練磨**する根底ある實質的の大和魂でなくてはならぬ。眞の人物の基礎を作るには、智識慾の最も盛んな五六歳から十六七歳までの、智識萬能の修學を好む向上希望時代を活用して、先づ國體に徹底せしめこれに歴史、傳記、宗教、習字等他の學科を併用して、男子には劍道、柔道、弓術を、女子には薙刀、弓術を主とする武道練磨を加へこれを教育の根本精神として心身を鍛へるのである。從來の制度はたゞ智識の詰め込みのみの表面だけに重きを置いて、兒童發育の最も大切な時代に、而もその兒童の健否に論なく、腦の消耗と供給との均衡を失はせつゝ、虛弱な兒童に**無理な學業の鞭**を加へたゝめに、肺結核や近視眼の玉子をどし〳〵作つてしまつたのである。否現にこれを盛んに作りつゝあるのである。固より先天性素質もあるが教育の不相應が、兒童の精神及び肉體に惡影響を及ぼすことに間違ひない。換言すれば智識の詰め込みにのみ重きを置いて、その詰め込むべき人物の完成を忘れたところに大きな缺陷があつたのである。

警語　學問は建築に於ける足場の如く、また銅像に於ける鑄型の如く、また自己を完成する磨き砂に等しきものなるが故に、學業の終了すると共によく洗滌反覆してその臭味を除かざれば、**鑄型を**

拔かざる銅像と同じく、眞の人格を顯はすこと難し。

警語　利劍も研がざれば切ること能はず、如何に智能ある人と雖も鍛錬せざればその用を爲さず。

警語　皇室を中心とする吾人の至誠は、神と正義を味方として、一切を征服すべき最も重要の武器にして、また最も貴重なる護身向上の最高要具なり。

五六、有熱兒童と試驗地獄の對策

現在の學校には專屬の醫師があつて相當の成績を擧げてゐると云ふ人があるかも知れぬが、それは多く形式で大した成績は擧つてはゐない。現在に於ける小學兒童の過半數が有熱患者や虛弱兒童であることは、文部省の統計が何よりの實證であり、また私が直接調査した學校では何れも六十パーセント内外の病弱兒童があつた。これがスポーツや體操の末技で健康な國民となる見込みがあるであらうか、家庭も當局者も從來の膏藥的**衞生常識の誤謬**に一日も早く覺醒して善處すべきである。

この虛弱な兒童は少くとも幼稚園時代から小學校一二年生までに、家庭と連絡をとつて如何なる學業にも耐へ得る健康體にしてしまうのである。固より例外の體質者で完全とまで成らないのもあらうが、大部分は出來るのであつて、三四年生即ち十歳以上となると、既に或種の固定體質を作つてしま

ふから、どうしても七八歳までに健康體にしなければならぬ。これは私に確信があつて主張するのであつて、理論や形式ではない多數の**生きた實例**を提供する準備がある。若しこれを現在のまゝにして僅かに或種の改良や、一部の變更位でその場を濁すやうな生ぬるい方法では、恐らく思想の惡化も病人も減少することはないであらう。また日本人が西洋思想の宣傳者となる約束をした譯でもなし、また**西洋醫學の捕虜**となつて去勢される必要もないであらう。我國には三千年來刄を向ける敵にさへ、涙で抱擁する慈悲溫情の崇高な大和魂があり、この大和魂は人類を絶對平和に誘導する國體の精華である。況んや苦惱に喘へぐ同胞の病惱者に對して、御皇室の御理想たる**仁術を裏切る**やうな行爲が臨牀醫術上にあれば、斷乎として懲改順服せしめねばならぬ。殊に我國將來の學生に對しては心身兩全の健康を基礎に、信仰と修養と勤勞とを最高の樂みとする動搖なき大和魂に、教へ導くことが必要であり、大切であるからである。

要するに教育の根本方針を健康の基礎培養から、東西文化綜合の開發に關聯して、智識を經驗本位に勤勞教育とし、叡智を忠孝を中心とする道德本位に、最も尊重すべき神人合一の潛在意識を深く認めしめ、神と連なる最も親切な溫情慈悲の熱愛主義に、勇氣を武道本位に未技を戒め水泳を加へて（海水浴ではない）練磨し、根底ある實質的な寛弘にして雅量ある人格者を作ることに根本的大改革を斷

行しなければならぬ。而して教育をこの方針で根本的改善を斷行することは、今日囂々として喧しき**毒を以て毒を制**せんとする勞資問題に於ける何れも永續性なき資本家偏重、勞働者偏愛の今日の狂喜を明日の危地に導く、**權利掠奪主義**の階級的論爭を釀成した不完全極まる現代教育を、周到にして徹底した宇宙の大法たる日本精神の眞髓に誘導して、永遠に動搖なき天地の大道に立脚した王道勞資を建設する基礎とするにあるのである。殊に六七歳からの兒童をこの教育方針のもとに導くことは、如何に信仰や修養や日本精神に沒交渉の人でも、また**偏狹低劣な思想を**をもつ人でも、絶對安全の日本人の行くべき大道を歩ませるのであるから、反對のある筈もなしまた反對を唱へてゐても、反對に子供の方から導かれ感化されてしまうことになる。

斯うして虛弱な兒童を健康體として始めて教育する資格が出來るのである。素よりその專任教師は眞の大和魂の權化でなくてはならぬ。然してこの大和魂には**劍道及び柔道**のやうに段の等級を附ける、軍隊が二等兵から大將まで十六段の等級になつてゐるやうに、大和魂にも下士初段から下士八段まで、上士を初段から十段まで全部を十八段とする。而して小學校一年生の成績最高のものに下士初段を、中等學校生徒三四年の成績優等のものへ下士六七段から下士八段位までの資格を與へ、卒業生最高の成績者で大和魂初段位の資格を與へる。而してその成績は學科、武道、健康、生徒の家庭生活、

生徒の日常行爲等で決定する。尙ほその成績の最高位から、順次適當に**選ばれた適材**だけを上級學校に編入認可するやうにする。玆に始めて學生の試驗地獄が調節され、國家は莫大な教育費の負擔から免れ、高等教育を受けた者は眞の人格者として社會の指導者となり、學生の試驗成績に家庭生活の成績も採るから、子弟愛の上から、生徒の家庭も餘程改善されて來る。

また小學校の教師の資格は少なくとも大和魂の初段以上、專任教師は二段以上、視學は三段以上とする。斯くすれば進物や情に動かされる怖れがないから**成績に依怙**がない。然しいくら學校で生徒に教へて實行させても、家庭が或程度までそれに出來てゐなくてはならぬから、何等かの方法によつて强制的に時々父兄を學校に召集して專任講師が講義をする、而してこれを各家庭の行事として實行に移させる。またこの家庭の成績は役場とか警察とかにその權能を與へて監督することにする。以上は私案の一端で多少具體的な成案とする意圖もないではないが未だ深く考へたことでもない。この細目や立案は他にその人があるであらう。

警語　子弟に父母の不德を目擊せしめつゝ學校教育を施すは、劍道を教へ**正宗の銘刀**を持たせて强盜に仕立てるに等しき場合あり、即ち一の實例は萬卷の書籍に優り、これを善惡の極端に導く。

警語　善果を得んと欲せば、良地を耕し種子を精選し肥水に加減し、**間斷なく雜草を除去**して風雨

害虫に注意するを要す、不德の親にして子女の最良を望む、木に倚つて魚を掬ふに等し、然も油斷せば播かざる雜草すら如何に多く淸掃せる庭に發生するかを思はざるべからず。

五七、掃き寄せ寸鐵大和魂

◇病人に同情するものは多く無力者である、同情は人を殺す、同情は畢竟自殺者の道案內となるのみである。病者を救濟するには赤誠を以て**病者の妄想を叱責**し鞭撻して、誤らざる道を講ぜしむる人にして始めて起死回生の實を擧げ得るのである、叱つてくれる一人を持たぬ病人は助からぬ。

◇**垣根の朝顏**と比較して鉢植の朝顏は、花瓣が大きなだけで抵抗力もなく生命も短かい。

◇**阿彌陀と下駄**、飯櫃と便器とは、材料は同じ木であつても、この平等は反逆であり轉倒である。

◇**敵を知り己を識**ることによつて、萬物の靈長たる人間は世の中に怖るゝものはない筈である。若し怖るゝものがありとすればそれは半可通であるからである。人間は何事でも半可通に萎縮するよりも、寧ろ盲信に延びた方がよい。

◇**人は自ら暗澹**たる毒瓦斯を造つて置いて、自らそれに窒息する愚を演じてゐる。

◇**群盲象を評**して日既に暮れんとす、これに眞理を明示してその妄を啓くは、たゞ大和魂あるのみで

ある。

◇長年に亘つて苛められた人の思想は、多く硬化したり執拗たり脱線する、それを柔かく**素直に純**に本來のまゝに引戻すのはたゞ大和魂あるのみである。

◇現代人は餘り現實生活に不要な理屈を持ち過ぎてはゐないか、茲にその生活が煩はしくなり、苦しまなくてはならぬ、不要な理屈は反つて知れば識る程本人を**去勢する黴菌毒素**となるのみである。必要以上に理屈を持たぬ信條に生きるのが眞の大和魂である。

◇**疾病の多きに悲**しみ、適藥なきに憂ひたのは最早過去の夢だ、此處に天賦に具備せる癒合力を供給皷舞して起死回生、轉禍爲福を地に行ふ野一色電氣治療機が生れて茲に二十年、働き盛りとなつて諸君にまみへんとしてゐる。

◇大和魂は國家を背負つて立つ主人であり、これを擁護しその健康を保持增進して、**內助の効を全ふ**する令夫人は野一色電氣治療機である。

◇**金力は地上第一の重寶**であり權威である、金さへあれば人間何事も解決する。然して人間を解決するこの金を解決するものは大和魂より外にはない。

◇**言葉の端の間違**ひで癇の虫の納まらないやうな人では、國家を背負つて立つ資格はない、また他人

から侮辱されて何等の義憤を感じない人も同樣である。

◇**世の涙風に揉**まれ〳〵て深刻に忍從し、正しく艱難自己を玉にした人の歡びは高く尊い、これを經て來た人で始めて人を救ひ得る力がある。

◇自動車がどれ程立派なものであつても、運轉を誤ると人を傷け或は**人車共に破壞潰滅**することもある。米は吾々の主食物で毒素のないものだが、食法を誤ると消化器を破つて人を殺す、また正宗の銘劍も持人によつては危險である。

◇**科學も教育**も醫學も宗教も人間を去勢する筈ではないが、これに魂がないと爆彈以上の危險物である。これを處理して魂を入れ、然して吾々の從順な奴隷とするのは大和魂以外にはない。

◇**個人主義や自己本位**の思想が濃厚となつて、大和魂の根本觀念が弛緩して來ると思想的の疾患が潜入し、思想的疾患が內在すると多く黴菌の溫床となる怖れがある。

◇**學識は愚を醫する靈藥**である筈だが、颶風爆彈以上に恐るべきものに魂のない學識がある。學識さへあれば人格者なりとした夢から醒める時が來た。

◇窮迫のどん底に沈淪して裸一貫、尙ほ一糸亂れず手に唾して**一歩々々躍進向上**する心身の健康者が眞の大和魂である。

◇疲勞したものは時に道草を摘むもよからうが、**道草に耽**ると前途を忘れ、誤り、殺す、此處に悟りの必要がある。

◇**人に頭を殴られ**馬鹿野郎と罵られて、理非の如何に拘らず、その通りだ自分が悪かつたと頭を下げられる大和魂はないものか、これが私事に身體髮膚を毀傷せざる國家を背負つて立つ眞の大和魂である。

◇場合によつては我が**妻の腰卷を洗濯**することの出來る雅量と溫情慈悲があり、場合によつてはその妻の頰ぺたを三つ五つヒッパタく勇者はないか、此處にも大和魂は潜んでゐる。

◇銘劍にも鏡と玉の德がなければ血に渴するだけである。**涙で敵を抱擁**する溫情と慈悲の大和魂であればこそ、降魔の劍は冴えて鋭い。

◇**心の硬化**したもの、自信の缺乏したもの、自己を否定するもの、自己を欺くもの、澁面つくつて萎縮するもの、駄法螺を吹くもの、貧に驕るもの、富んで卑しき者、生意氣もの、執拗もの、放蕩もの、言行の伴はざるもの、自然の刺戟に恐怖するもの、その他**人道を脫する自壞者**に魂を入れて、向上の路に甦生せしむるものは、たゞ恩威に超越した大和魂あるのみである。

◇**眞の大和魂**が社會の指導者として立つと、幾多の青年子女を下積として活動の名の下に、使ひ殺しの慘劇や恩惠の虛待から解放されて、感謝の涙で服從して、反つて能率が擧がるやうになる、此處に爭議の解決法がある。

◇完全に大和魂を把握した人は、**百二十歲の定命**まで若々しく健康で生きるがよい、それは國家に必要であるからである。大和魂の持てない人は五十歲や七十歲の青壯年期に〇〇するのも反つてよいかも知れぬ。

警語　俗塵の中に天道の眞理を極めて國家の健否を深察し、酒客の中に陶然たる勇氣を養成してこれを蓄積し、**遊里に人情の兩極**を體得してこれに囚はれず惑はざる人を圓通具眼の人格者と云ふ。

五八、水中で渴を叫ぶ現代人

現在盛んに日本精神の再認識を叫ばれてゐるが、日本人で日本精神を認識せぬ人はない筈である。日本內地で實行する教育も科學も宗教も**醫學も產業も農業も**、悉く日本精神を指導原理として始めて意義があり統一するのであるが、現在の教育も宗教も醫學も其他百般の施設事象が偏狹にして淺薄な末梢に拘泥してこの基本生命を去勢されてゐるから、**解體的に散亂**して收拾が出來ないのであつて、國民は恰も有り餘る生活要素の氾濫の中で餓死に瀕してゐるのである。換言すれば水に溺れて渴を叫

ぶ奇觀を呈してゐるのである。

我國天孫以來繼承した智仁勇の美德と、忠孝を本とする**祖先崇拜の根本道德**を、實質的徹底的に涵養することを等閑して、その間隙に發生繁殖し全國的に擴大した物質萬能の利己主義、形式主義、個人主義、**享樂主義の氾濫**を匡正せんとするに、國家の一部制度を改善したり社會組織を變更し、或は日本精神の再認識を強要して、果して豫期の効果を收め得ようか、恐らくヨットを操縱して太平洋を横斷するよりも至難であらう。而して事こゝに至つた原因を衝いて、その責任の概括を摘出して見ると教育が四十%、**醫學が四十%**、宗教が二十%の三者に歸するであらう。

この末梢片鱗に偏隋して**支離滅裂**となつた教育、醫學、宗教の氾濫狀態には、如何なる國手が**神丹靈藥**を投じようとも恐らく復興の餘地はあるまい。これは方法がないから成行に任すことゝして、國家は大英斷を以て三十年計劃を立てゝ、幼稚園から教育方針を根本的に建て直すことに邁進し、國民は個人の一人から大和魂の權化となるに勉めてもらいたい。然し私の唱ふる大和魂は認識とか云ふ形式の大和魂ではない。**腹の底の大和魂**即ち一擧手一投足の行爲に溢れる大和魂である。教育の中の大和魂ではない大和魂の中の教育、**大和魂の中の醫學**、大和魂の中の宗教、大和魂が事務を採り、大和魂が商賣を爲し、大和魂がハンマーを打ち、大和魂が自動車を運轉し、**大和魂が鍬**を握り、大和魂が

妻をいたはり、大和魂が夫に仕へなくてはならぬ。

また眞の大和魂が精神的にも肉體的にも、生活を脫した病人を教育しつゝ治療する、雨の降つた病人を大和魂が地を固めるのである。而して再び不生產的な病氣に罹らぬやうよく訓戒して、全治までに大和魂を確實に握らせる、茲に**隨喜の涙**があり暗黑の絕望から絕大な希望に更生して、全家族の健康復興と共に明朗な潤ひが充滿し、その動ぜざる感激の信念は能率の增進となつて現はれる。而してこの生活が始まると押入の中から臺所の隅に至るまで、黴菌毒素の溫床となる何物も見出されなくなる。茲に始めて私の言ふ衞生常識即ち生命を衞る常識と、**歐米人の夢想**だに許さぬ深遠な思想と肉體の眞の健康とが、大和民族の**生活に絕對不離**の核心となるのである。また文化人の疾病を取扱ふ將來の臨床家は、この信念をもつて各家庭の最も權威あり信用ある顧問とならねばならぬ。

警語　人は多く忘るべきことを忘れざるが故に、忘るべからざる事柄を忘るゝに至る、よく重要なる事柄を記憶して忘れざるは、常に無用の雜念妄想なく、**頭腦に餘裕**を有する人の特徵なり。

警語　健全なる頭腦は常に忘る、從つて空虛なり故に朝に新らしく夕に一切を清算し去つて何等の殘影なし、即ち忘るゝが故に新事物の選擇取捨に何等の動搖苦惱なし。

五九、野一色電氣醫學校の使命

野一色電氣醫學校は現代の醫科學を採り入れた電氣治療法と、**時代に適應した新進の學術**及び特殊な治療技術を修め、更に磨かれた人格者を養成するにある。即ち

一專科　基礎醫學としての組織學、解剖學、生理學、病理學、電氣學を敎へ、學期の後半期に於ては應用治療電氣學、電氣臨牀醫學、電氣治療學を完全に修得せしめ、**優れたる電氣治療家を養成**する。

一實科　專科よりも更に短期間に全般の學科の要綱を學ばしめる簡易科である。

然し根本の目的は前述せる大和魂の把握と共に、**家庭生活の根本改造**にあるのであつて、其項目の主なるものは優生法、安產法、治療法、健康法、長命法、還靈法、電氣呼吸法（死者を蘇生せしむる法）を始めとして、衣食住、處世法一切の動せざる一貫した生活樹立法の概念を、課外講演としてこれに最も重點を置いて敎授してゐる。而して卒業生の一般を擧ぐれば即ち

卒業者職業別統計（昭和五年十二月現在）

職業	員數	%
官公吏	二七三	一・四
實業家	四〇三	二・一
工業家	二〇六	一・〇
宗教家	七五	〇・四
會社員	一九一	〇・九
醫業關係者	二二〇	一・一
農業家	四七	〇・二
軍人	三八五	一・九
學校敎員	九六	〇・五
無職（主として主婦）	一〇四	〇・五
計	二、〇〇〇	

入學者學歷別統計（昭和五年十二月現在）

出身學校	員數	出身學校	員數
尋常小學校	三三	師範學校	二
高等小學校	三二	女子醫專	二
中學校	五二八	士官學校	七
女學校	二七八	商船學校	一〇
商業學校	二四	兵學校	五
經理學校	一〇	醫學專門學校	四
神學校	一五	齒科醫學專門學校	一五
畜產學校	五〇	機關學校	九
養蠶學校	一八	女子大學	五
工業學校	六	官私立大學	三六
電氣學校	一八	產婆看護婦學校	一八〇
農學校	一三	合計	二、〇〇〇

（本年の統計が間に合はぬので昭和五年のもの掲載した）

中でも女學校卒業後の令孃方の以前の消極的な生活が、全家族の健康復興と共に、明朗な感謝生活に變化することに驚かれてゐる。またこの大和魂の信仰を持し道を修むるに忠實であり、謙遜自らを虛しうする思想と治療機と治療技術とは、**結婚のお土產**としてその婚家先へ非常に喜ばれ非常に重寶がられ、感謝されてゐる事實は吾々の最も誇りとする所である。

私の高唱する昭和維新の樹立には、前述せる如く靈肉絕對健康に基礎を置くのである。その先決問

題として吾々が三千年來繼承して來た**血液を玆に淨化甦生**して子孫に傳へると云ふことである。これは將來の子孫を世界第一の健康體とするのが目的であつて、吾々の最も重點を置く所でありまた多數の實例を示して主張するものである。從つて從來の理想論ではなく實際に即した優生法である。即ち靈肉絶對健康の基礎を培養するのは此處から出發しなければならぬ、その優生法は胎兒の心身健康を實現するにある。これはツワリの根治法から母體健康の完成に始つて、胎兒の發育狀態から**出産まで の胎教**を完ふするにある。これに次ぐものは安産法である。これは如何ほど骨盤が狹まからうが結核や腎臟の體質であらうが、何の**杞憂もなく安産**せしむる方法（雜誌「**電氣醫學**」電氣で生れて電氣で育つ號參照）

次には病氣治療法である。如何程發熱が上昇しようが疼痛が激甚であらうが、或は身體の一部が腐蝕崩壞しようが腫瘍が如何に大であらうが、その處置に窮して**右往左往狼狽**して病者を苦しめることではない。完全にまた安全に過まらざる一貫した方法で處置するのである。（文獻參照）次には健康法である。これは前述した通り日々の勤務に人一倍の能率を擧げて更に疲勞なく、猶ほ常に二割以上の綽々たる餘裕勢力を蓄積し得る黴菌や毒素や寒暑の、自然的刺戟に絶對動搖なき確實な健康樹立法であつて、これには一定の條件が必要である即ち食慾、睡眠、便通、疲勞其他全身の模樣等將來を保證

し得る確定的條件である。次は長命法である。これは**百二十歳を四季二十四期**に分類して、健康の基礎培養時代から健康信念維持時代まで、一つの表として能動的責任を明かにしたもの（野一色電氣治療機文獻に掲載）次は還靈法である。人間一生に於ける總勘定で大晦日である、藥攻め治療攻めの**禽獸に劣る迷信**で、悶死を遂げる從來の方法ではない。安心して笑つて靈に歸し敬虔の念を以て靜かに靈を送るのである。身體に特別な異常がなく生活に不自由のない時には、人間はどんな駄法螺でも吹けようが、眞の修養は斯うした時に必要なのである。一般の家庭はこの方法に徹底して乳兒の死亡率を減少し、五十歳や六十歳で**自殺に等しい夭折**を止めることに努力するがよい。

警語　俯仰天地に愧ぢざる熱誠は人生々活の絶頂なり、即ち神と人とを繫ぐ無形の糸にして神人合一の冥合點なり、また轉迷開悟、安心立命に入る境地にして、玆に氣力を集中せば萬有の眞理を體得し、潛在意識の全能を發揮して如何なる偉業も完成せしむ。

六〇、親の熱愛と道義的本質の潰滅

現代文化の中心に生活して紳士淑女と云はれる人々が、姙娠、出産、療病、健康、長命、還靈とこれに伴ふ衣食住の文化的最高幸福の泉源を、恰も**臆病者が深山の夜道**を歩行するやうに、感冒や肺炎

位な病氣の流行にさへ、一寸先き暗黑の無自覺な生活は、如何に時代の惡風潮とは云へ餘りに腑甲斐無いと云ふよりも悲慘ではあるまいか。己惚れた人々はそれでよいかも知れぬがこの醜惡不安な社會はどうなるか、一日も早く覺醒して社會指導の先驅者となつてもらいたい。

昭和維新建設の基礎を爲す優生法、安産法、治療法、健康法、長命法、還靈法、衣食住の物心一貫した方法の綜合統一したものを**大乘醫術**と云ひ、これを家庭に常識化して、一家を處理し社會に活動して、一切の科學文科を併用處理して行くにあるのである。これが昭和維新を樹立する基礎工事であつて、此上に完全な**科學的建築**を行つて、未來に孕んだ文化的に解決すべき幾多の問題に善處して我が國家を育て上げ、その使命を果す上に世界にこれを伸さなければならぬから、この拙劣な**一石を投じ**たのである。

固より他に幾多の異論もあらうが、私の提唱する以上の事實が他にあればそれで結構である。若し他に無いならば嫉妬や僻見でその誠意を傷けたり、排斥するために鬪爭的手段に出ることを止めて、これを一日の偷安も許さぬ重要な國家問題として、一般識者の**眞摯な考慮**と御高敎を煩はしたいのである。

或は他に幾多方法もあらうが、此際の握手や妥協は絶對不可である。多大の犧牲と大英斷を要する

重大事ではあるが、寸刻の緊急を爭ふ時期であり**地下の濁流に氣付**くべき時である、即ち蟻の一穴から堤は破壞する。赤ん坊を室内の椅子にくゝり附けて置いて、若夫婦が街路樹の下を散歩する歐米の極端な個人主義思想が、我國民に内攻して病膏肓に入ることなしと誰が保證しよう。日本人の民族的本能とも云ふべき親の子に對する熱愛は、忠孝を道德の本とする子の親に對する**孝道の先要條件**である。我が日本民族が萬一此思想を破壞し、或は前述せる個人思想に陶醉することあれば、國家の基本たる道義的本質を潰滅して、遠く**禽獸に劣る魂**なき形骸となるであらう。

吾々日本人が此大和魂を去勢された時の國家社會は、實に慘憺たるものがあらうとは決して私だけの考へではない。故に出來るだけ贊成して戴いて社會改造の實を擧げようではないか。この大和魂を一たび握つて見ると、物質を超越してその愉快さ、有難さ、勿體なさ、人間生活の尊さは他の何物にも替へられない。それは神の誓約即ち**天の事業**を地に行ふからであり、また我國三千年來一貫した建國の精神、御皇室の御理想を我々國民が茲に實現して健康社會を基礎に、昭和維新を樹立するのであり、これで現代社會の醜惡不安が除かれ、散亂した文化は完全に統一合理化され、茲に國家は甦生し全人類が救はれるからである。

警語　婦人は弱し母は強しと、然り弱き婦人の母となりて強きは、唯だ愛兒を慈愛する一念にして

愛兒のためには恐るべき虎狼の中にも、千山萬谷の中をも、獨往獨來して更に意とせざる大膽なる勇氣の熱愛を發揮す、これ獨り我國三千年來傳承し來りし日本民族の本能たる忠孝を、道德の本とする親の子に對する孝道の先要條件なり、即ち至誠は神に通ず、人の眞面目なる時弱者も强者に、愚者も智者に、有害なる人々も有用なる國家至寶となる決して偶然にあらざるなり。

六一、健康の榮養と不完全な榮養

玆に一言して置きたいのは、電氣學の專門家に聞いても醫者に聞いても判らぬ野一色電氣治療がなぜ効くかと云ふことである。吾々が日常食物を攝るのも睡眠するのも入浴に親しむのも、悉く疲勞の復活法であつて、四六時中失はれたエネルギーを補給して、そこに新陳代謝が行はれてこそ健康が保持して行かれるのである。吾々が食物を攝るのは榮養の吸收にあり、榮養の吸收は失はれた熱量エネルギー即ち生活素の補給にあるのである。而して吸收された榮養百分率中七十五%は失はれた**淨化體溫に換算**補給され、殘つた二十五%が血液の補充や其他に換算されることは、生理學上の原則として人の知る所である。

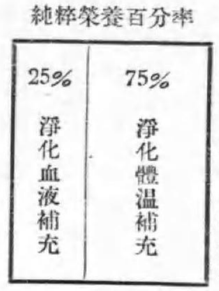
斯うした完全な新陳代謝が行はれるのは眞の健康者にのみ期待し得るのであつて、現代に眞の健康

者を求むることは濱の眞砂の中から、寶石を求むるより尙ほ難しとされてゐる。たゞそれを意識するか否か**國民の大部分**が結核、淋毒、梅毒、中毒、神經衰弱、胃腸病、寄生虫病ならざるはなしと云ふ現代人に、此健康者を求めることは至難であらう。然らばこの充實した榮養の吸收は一般に甚だ不完全であると見て差支へあるまい。

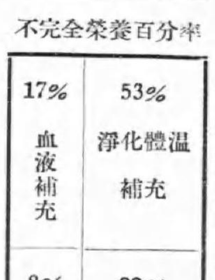
この榮養が不完全であつては、如何に精神醫學や心理療法や信仰や修養に努めて見ても、その肉體の自衞作用、抵抗力、代償作用、適應作用、抗毒作用、殺菌作用、療能作用、癒合等の能力たる內分泌、即ち**ホルモンの原料**となるものが少いではあるまいか。如何に精神力や神樣の力で搾つて見ても無いものは出る筈がない。然し一生の仕事として行ふ**黑住宗忠卿**や白隱禪師のやうに行ふなら別だが、日常生活に追はれる吾々にはそんな呑氣な暇がない。玆に簡單で即時間に合ふ方法で肉體を健康にして、其上精神力を彌が上にも充實發揮せよと云ふのである。服藥や榮養や信仰や修養で將來絕對安全の、健康を得てゐる人の少いのが何よりの實證であらう。而も**自ら不品行**、不注意、不攝生の限りを繼續して求めた病弱を、而も黴毒や淋毒を素因とする疾病までも、神樣に癒して下さいと眞面目に哀願する**人間の鐵面皮**には、神樣も手があれば頭の三つ五つは張り飛ばされるだらうが幸ひ神樣には手がない、後を向ひて苦笑してゐられよう。

而して榮養の不完全は食物の良否にあるのではなく、胃腸の健否にあるのであるから、食事の上に榮養を増したり消化劑を攝ることは、寧ろ不完全な**胃腸の負擔**を强ふるのみで、反つてこれを益々虐待することになる。消化劑を連服することは胃腸の不完全を救ふことだと誤解してゐる人々が多いが、或種の慈善事業が反つて惰民を作ると同樣で、用ひた當時だけで後には反つて惡化する。多くの榮養素や消化劑を攝つてゐながら眞の健康の得られぬのみか、より以上胃腸の衰退を來して下垂したり、胃酸過多症や**胃潰瘍やアトニー**症等を起すのは、多くこの榮養素や消化劑に親しむ人々に限られてゐる。今これを眞の健康な人の全身榮養の分布狀態と、不完全な人の榮養狀態を圖示して比較して見よう。

第一圖　健康體の榮養狀態



第二圖　不完全な榮養狀態



これは榮養の三割減を標準として表はしたもので、人によると四十%も五十%も減退してゐる人が多い。よしそれが一割か二割にしても、昔の漢法の病源としてゐた**瘀血と邪氣**（老廢血と有毒瓦斯）が、完全に淨化されて居らねばならぬ血液中に、三十%以上も混入したとき、玆に全身機能の減退する位なことは常識上誰にでも判る筈である。またこの全身機

能が減退すると最も大切な消化力はもとより、四六時中外氣に接觸してその機能を營んでゐる皮膚や其他の抵抗力も抗菌抗毒力も、**適應作用**も自衞作用も減退し、日々の活動力にも疲勞や倦怠となつて現はれるのであつて、特別な異常は自覺しないまでも不完全な健康であり、既に病の器となつて居るのでこれで完全に**自殺の準備**が出來たとも云へる。またこの狀態が長く續くか或は少しく進行すると既に病人である。而して眼の弱い人が眼を多く使用すると、眼精疲勞を來して近視や亂視や結膜炎やトラホームも起らうし、若しこの身體に**淋毒や梅毒**が潛在して居ると、膿漏性結膜炎（風眼）や虹彩炎や網膜炎等になることもあらうし、腦が疲勞すると腦病や中耳炎や神經衰弱も起りもする。また皮膚機能の減退は外部から襲擊する鉛毒や其他の毒素や寒暑の刺戟等にも抵抗する力が薄くなり、感冒にも犯され易くなるのは自明の理である。これに**中毒が潛在**してゐると血壓が昂まつて半身不隨にならぬとも云へぬ。また骨盤內臟の弱い婦人は子宮病も起らうし、これに黴菌や**寄生虫が侵入**するとその溫床となることも明かな事實である。

六二、結果のみを追ふ對症的醫術と入浴の力

これはたゞ胃腸の消化能力の不完全（第二圖）と云ふ一原因が全身機能の減退を來し、その固有の

抵抗力、**抗菌力**、適應作用等總ての力が薄くなり**消耗と供給**との均衡を失つて、その虚弱な局所々々に病竈を造つたと云ふに過ぎぬのである。そうすると目の悪い人は目を、耳の悪い人は耳をと、結果のみを追ふ細流專門に分科した局部的對症療法で、完全に解決がつくかどうかも判つて來る。即ち結果のみを目的としてその局部だけの解決を計らんとする對症療法を小乘的對症醫術とし、その原因を目的として全身機能の促進を計り、その機能の抵抗力**癒合力**を增進して、全身に於けるその局所々々を遠心的に治癒せんとする**中樞一元療法**を、大乘的綜合醫術とするのに何の不思議もない譯である。

前記第一圖第二圖に示した榮養の良否と簡單な抽象的ではあつても前記の說明によつて病氣に罹る理由も常識的に判つた筈である。故に消化機能の減退は人體を病の器として有ゆる病氣に罹り易くし、榮養の旺盛は總ての**病氣を驅逐**する自然療能作用であり、また抵抗力、抗菌力、適應作用、癒合力を充實して健康を維持增進する力であることも判る。若しこの榮養素が胃腸の力を待たず煩はさずして、簡單に充分に供給する方法が出來たとしたら全身を健康にしてその全力で如何なる病氣も驅逐し得られることも判るであらう。

諸氏は日々の入浴によつて、皮膚から比較的高溫度の濕熱を吸收し、老廢し鬱積した有毒瓦斯を放散交換して、體內の組織臟器がその機能を**復活皷舞**される結果、終日の勤勞によつて消耗した淨化體

溫の一部が末梢部から補給される。活動によつて失はれた熱量即ちエネルギーが復活して疲勞を一掃し、精神的にも不快、憂鬱、煩悶、憤怒等の**增惡觀念を解消**して、頗る爽快を覺ゆると共に、肉體的にも腦の充血を消散淨化し、頭痛、頭重を緩解する。また皮膚の**放氣層吸氣層**の氣孔を開口して分泌を旺盛に有毒物を排泄する。また有ゆる鬱血と疼痛を消散し空腹を訴へて食慾を促し、肩の凝り、腹痛、腰痛、痔疾、ロイマチス、神經痛、關節炎、婦人科疾患、凍傷、アカギレ等の苦惱を緩解する等、背負つた重荷を一時に下したやうに驚歎すべき偉大な効果を齎す實績は、老幼男女を通じて均霑する僅々十分間內外の入浴の特効であつて、世界の**醫學の最善**を盡してもこれだけの効果を擧げる何物もないのである。醫學に浴湯を應用しないのは湯冷めがあるからであるが、この偉大の効果も皮膚の末梢からでも吸收する濕熱が前記第二圖の補充となるからであつて、これをもつと確實な方法で簡單に供給し得れば問題は解決しよう。

六三、新鮮體溫の補給同化と大乘醫術

我が野一色電氣治療機に附屬する電極に用ゆる熱湯の溫度は、浴湯よりも非常に高くこれより噴出する蒸氣を、刺戟を薄く根本的に改造せる**微妙な快感**ある電流で、中樞深く傳導透入しこれを絕對湯

冷めなく保留蓄積して、生産せる新鮮な體溫（熱量）に同化せしむるのである。即ち**人體を構成**する幾億兆の細胞は、悉く各神經系統の下に整然統制されてゐる。而して皮膚は觸感に適應する電流と濕熱との併合流に對しては、最も迅速鋭敏に各神經血管共に擴張して、之れに作應し高度の濕熱を血管内に導入して、全榮養中の四分の三即ち百分率七十五％（第一圖）を要する**淨化體溫**の、消化作用減退（第二圖）による百分率中三十％の生産不能熱量の全部以上を補給し同化して、長時間體内深部に蓄積保留せしめるのである。

而して直接間接或は反射的に全身細胞即ち組織、器管、系統を鼓舞復興して、血液の淨化更生細胞の新生增殖、雜菌の殺滅、消炎、鎭痛、内外の分泌、呼吸、消化、排泄等、自然癒合即ち**ホルモンの發動**を旺盛にして、俗に云ふ身體の全部が非常に溫まり腰や足の冷へるのも、不眠も肩の凝りも疲勞も全く影を潛めるのである。かく我が野一色電氣治療は間接に消化作用を復興して、適應、抵抗、殺菌、抗毒、排泄、分泌作用が旺盛となるのである。換言せば消化を俟たずして皮膚から體内深部へ直接この熱量即ちエネルギーを供給して、**完全な代償榮養**として吸收されるから、全身機能が充實してホルモンの全能が發揮されるのである。故に**重病者に應用**して食慾不振の場合でも更に衰弱を來さず高熱や疼痛や瀕死の苦惱が僅少の時間で緩解するのである。殊に治療して早きは其日から、遲くも數

日の裡に旺盛な食慾が出て**風邪に罹ら**なくなるのみならず、潛在した如何なる疾患も驅逐し盡して、疲勞がなくなり眞の健康を得るのである。それは食慾は粗硬食で旺盛となり胃腸が健康となつて、**全身機能**の總てが充實するからである。

以上はたゞその概念だけであつて、然も非常に多忙で文章の下手な私が、僅かに一時間や二時間の寸暇を利用して、短期間に書いたので完全なものではない。讀んで見ると重復もあり拙劣で杜撰なので、改稿しようかと思つたが、**一日の遲延**も許さぬ時期だと思つたので、後日改稿し再び出版して詫することゝし、推敲もせずお目にかける次第である。

讀者の中には甚だ拙劣な宣傳だと見る人もあらう、またうまく大和魂を利用したと批評する人もあらうが、若し之を醫者が提唱すれば**醫學を基礎**とし、宗教家が提唱すれば宗教を基礎とする、それは自己の天職によつて各々信念を得てゐるのであるから、その天職と離れての提唱は多く空論であり理想論で實際に即しない、實際に即せぬ理想論なれば書く必要もなく、書いて人を煩はす要もない。

野一色電氣治療機は、之を實現する名實共に世界唯一の治療機であつて、多數の實例（野一色電氣治療機文獻）（四六版三百頁郵券四錢無代進呈）が之を實證してゐる。又其治療法も至極簡單であつて、機械に附屬する多數の**寫眞圖說**を挿入した治療機操作法及治療法文獻によつて、十二三歳の兒童

露光量違いの為重複撮影

でも自ら何の危險副作用なく、殊に浴用機の如きは家庭の如何なる風呂にでも、即時應用され入浴時を利用して三分乃至五分間つゞ、醫師の服藥と併用しつゝ病氣を治癒しまた健康を増進出來るやう、兩文獻を對照して小乘的對症療法、准大乘的健康療法、**實大乘的心身絶對健康療法**の三段に區分して、素人にも判り易くまた使用し易く作られてある。（カタログは別に郵券二錢を要す）

昭和十一年四月五日 印刷
昭和十一年四月十日 發行
頒布實費金五拾錢
編者 野一色義壽
發行者 野一色電氣醫學協會
東京市麻町區九段四丁目六番地
電話九段(局)〇三九〇番
三八〇九番
印刷者 森 俊一
東京市神田區中猿町五六一番地

露光量違いの為重複撮影

でも自ら何の危險副作用なく、殊に浴用機の如きは家庭の如何なる風呂にでも、即時應用され入浴時を利用して三分乃至五分間つゞ、醫師の服藥と併用しつゝ病氣を治癒しまた健康を增進出來るやう、兩文献を對照して小乘的對症療法、准大乘的健康療法、**實大乘的心身絕對健康療法**の三段に區分して、素人にも判り易くまた使用し易く作られてある。（カタログは別に郵券二錢を要す）

昭和十一年四月五日印刷
昭和十一年四月十日發行

頒布實費金五拾錢

編者　野一色義壽

發行者　野一色電氣醫學協會
東京市麹町區九段四丁目六番地
電話九段(局)〇三九〇番
三一〇九番

印刷者　森　俊一
東京市花原區中延町五六一番地

終